

地域連携活動実績集
(2025年4月～2026年3月)

京都橘大学 地域連携活動実績集(2025年4月～2026年3月)

2025年度 京都橘大学 地域連携活動実績集

2025年4月～2026年3月

2025

INDEX

京都橘大学の地域連携活動について..... 2

まちづくり研究会..... 6

ごあいさつ..... 8

I. 地域連携活動..... 9

学まちチャレンジ！プロジェクト・学生団体の活動報告..... 10

★プロジェクト概要..... 10
命の大切さを知ろう！..... 11
持続可能な商店街の地域活性化..... 12
#良い関係ってどんな関係？
～みんなで話そう、自分も相手も大切にできるヒント～ 13
楽しくしっかり学ぼう！..... 14
アフリカン★デジタルラボ
～プログラミングとゲームで遊んで学ぼう！～..... 15
山科のお祭りを盛り上げたい..... 16
山科「ふるさと会」と連携した
山科の歴史遺産魅力発掘プロジェクト..... 17

おとでつながる！こども音楽体験プロジェクト..... 18
10時だよ！全員集合！伸ばそう健康寿命..... 19
備えようその瞬間..... 20
地域交流拠点を活用したふれあい健康イベント..... 21
中高生年代の居場所
「ゆうすべーすやましな」の活用促進..... 22
醍醐地域におけ
子ども・子育て層が住みやすいまちづくり..... 23
地域の人と広がる輪—TURF—..... 24
地域を守る力を育む—防災サークルFASTの挑戦—..... 25
地域との豊かな連携を広げる—げんkids★応援隊—..... 26

地域企業等と連携した活動の報告..... 27

京都橘大学医療系学科・京都薬科大学による合同多職種連携教育..... 27
「ふるさとの光」発見プロジェクト第5弾 京都版
洛和会ヘルスケアシステムとの連携「洛和メディカルフェスティバル」..... 28
産学連携イベント「Digital 緑日」で学生が研究成果を発信
コミュニティ・バンク京信山科支店との連携「EXPO 酒場山科店」..... 29

地域連携センターや各学科等による地域連携活動の報告..... 30

たちばなサイエンスデー2025..... 30
たちばなこども食堂パーティー2025..... 31
たちばなアカデミックセッション2025..... 32
醍醐中山団地 秋まつり（ミニ陶灯路）..... 33
草津市との包括協定を基盤とした
広域保育者支援事業の展開..... 34
強化クラブ幹部会による地域と学生をつなぐ取り組み..... 35
課外活動団体が創る地域連携の実践..... 36
伏見区役所醍醐支所×京都橘大学
特色ある学習・体験プログラム創出事業..... 37
ダンチとフクシのミライを考える..... 38
長浜市田根地区の古民家改修プロジェクト..... 39
駅ナカアートプロジェクト
「たちばなあるある—大学生の日常—」..... 40
新発見の前方後円墳を探究する..... 41
「幻の城」坂本城跡の水中考古学的調査..... 42

山科警察署員向けの英語講座..... 43
コドモにマナブ..... 44
イオンタウン山科柳辻店の来店者調査で地域貢献..... 45
〈アースダイブ〉実証実験！地域の魅力調査..... 46
地域中核企業（事業者）の
地域内経済循環分析調査プロジェクト in 与謝野町..... 47
ナリシンプフードプロジェクト「橘茶膳」の実施..... 48
高齢者の孤独死を減少させるための交流の場づくり..... 49
実践から学ぶ！アントレプレナーシップ..... 50
移動販売拠点の活性化に向けた取り組み..... 51
たちばな健康相談..... 52
ママ・パパ応援 たちばなタッチひと息サロン..... 53
高齢者の健康づくりプロジェクト..... 54
京都さっずメディカルサポート..... 55
ものづくり教室を通じた学生の学びと成長..... 56
地域での暮らしを想う作業療法..... 57

その他の地域連携活動一覧（教育）（研究）（社会貢献）..... 58

II. 自治体・企業・大学等との連携協力に関する協定等..... 68

2025年度 京都橘大学 地域連携活動実績集

（2025年4月～2026年3月）

京都橘大学 地域連携センター
Center for Regional Collaboration

地域から学び、地域と共生する 京都橘大学の地域連携活動

さまざまな地域・団体の方と連携しています

連携先

行政

まちづくり、防災、医療等
さまざまな分野

企業

民間企業、金融機関、
医療・福祉系法人、NPO法人等

団体

地域で活動している
さまざまな団体



活動主体

学生団体

学生ならではの
課外活動

授業・ゼミ

地域で学び地域に学ぶ
正課授業

教員

教育・研究・社会貢献活動

本学設置の9学部15学科の研究・学びを生かした活動を展開

工学部(情報工学科、建築デザイン学科)、文学部(日本語日本文学科、歴史学科、歴史遺産学科)、国際英語学部(国際英語学科、発達教育学部(児童教育学科)、総合心理学部(総合心理学科)、経済学部(経済学科)、経営学部(経営学科)、看護学部(看護学科)、健康科学部(理学療法学科、作業療法学科、救急救命学科、臨床検査学科)
※2026年4月よりデジタルメディア学部、工学部ロボティクス学科、健康科学部臨床工学科開設



本学WEBサイト
学生団体一覧



活動の内容

まちの活性化

世代間交流

イベント
企画・参加

高齢者の
健康増進

こども分野
子育て支援

マーケティング
商品開発

調査・研究

…etc 多岐にわたります

地域連携センター

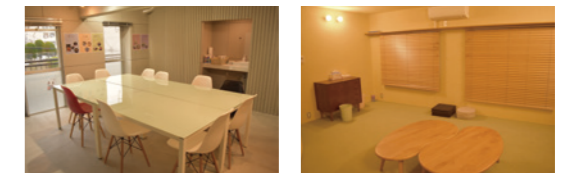
京都橘大学地域連携センターは、地域政策・社会連携に関わる総合的事業を展開し、地域連携活動を通じ、本学の教育・研究に資するとともに、本学における地域政策・社会連携の一層の推進に寄与することを目的として2014年に開設されました。以来、自治体をはじめとする外部諸機関・団体とのネットワークを通じてさまざまな連携および共同事業を推進するとともに、地域連携活動を行う学生団体の活動を支援・指導すること等に取り組んでいます。

地域連携センターの役割

- 1 大学・地域間の窓口としての役割
- 2 要請に応じた活動支援体制の構築
- 3 地域連携活動成果の発表・発信
- 4 自治体・外部諸機関・諸団体とのネットワーク構築
- 5 地域連携活動を行う学生団体の支援・指導
- 6 その他地域連携活動の推進に必要な事業の実施

京都市伏見区・醍醐中山団地内に
地域連携センター分室を設置

学生や教員が住民の人達との交流や地域貢献活動を行い、地域コミュニティの活性化に取り組んでいます。



本学所在地・山科区役所との連携

- 講義「プロジェクトマネジメント」へのご協力
- 「学まちチャレンジ!プロジェクト」テーマ設定型へのご協力
- 山科まちづくりチャレンジ応援事業の審査
- 山科区誕生50周年記念事業実行委員会への参画(学長 岡田知弘)
- ふれあい事業「ふれあい“やましな”区民まつり」の運営協力
- 山科区防災フェアの運営協力
- やましな健康フェスタの運営協力
- 柳辻駅構内展示スペース「アートロードなぎつじ」への展示
- 山科検定(主催:一般社団法人山科経済同友会 共催:山科区役所)委員として参画 etc.



VOICE



京都市山科区役所 区長
山口 ひかり 様

山科の未来を共につくる、かけがえないパートナーとして

京都橘大学の皆様には、日頃から山科区の発展に格別の御理解と御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

本年度も連携させていただいた「学まちチャレンジ!プロジェクト」では、中高生向けの居場所「ゆうすぺーすやましな」の利用促進を目的とした広報活動や利用者の愛着を醸成するためのDIYイベントを共に実施していただきました。また、これまでから、研究会や部活動、サークル等の様々な学生団体の協力によるイベント開催をはじめ、多くの学生の皆様が地域で活躍される姿、積極的に取り組む姿は、山科のまちづくりに欠かせない大きな原動力となっています。

山科区は、令和8年10月に誕生50周年という節目の年を迎えます。山科区が誕生する以前からこの地で共に歩み、地域を支えてくださっている貴学との絆を、改めて大変心強く感じております。

今後も、学生の皆様の瑞々しい感性と専門的な知見が地域と深く交わることで、山科の魅力がさらに輝き、次の100年、150年へと大切に継承されていくことを確信しております。これからも、活気あふれる山科の未来を、共に創り上げていきましょう。

まちづくり研究会の活動

まちづくり研究会とは

「現場に臨む」ことに特化した学生団体「まちづくり研究会(通称「まち研」)」は地域連携センターのもとで京都・山科地域活性化の活動をおこなう学生団体です。学部学科の枠を越え、全学からおよそ20名の学生が所属(2025年現在)し、清水焼団地と連携したあかりイベント「陶灯路」の開催や、三条街道商店会のまちづくりイベントへの参加、地域のこども食堂活動の支援など、さまざまな地域連携・貢献活動を実施しています。

通年の活動 こども食堂



毎月、山科区のこども食堂「にじいろキッチン」にてこども向けの遊びや運営のお手伝いをしています。

こども食堂の活動に興味をもってまち研に入る学生も!

● ほたるの夕べ @総本山 醍醐寺



● 新入生懇談会

4月

5月

6月

7月

8月

9月

- 新歓
- ボードゲームイベント @東山区役所

● 七夕陶灯路



● たちばなサイエンスデー



イベントをイチから作る

七夕陶灯路

参加者に清水焼に触れ、知ってもらうことを第一に、まち研が毎年企画～実行まで担って主催する一大イベント

企画

その年のテーマと複数のブースの企画を検討。自分たちと清水焼の職人の方のビジョンにギャップが出ないよう、お話を伺いに行って「どうやって清水焼の魅力を伝えるのがいいか」といった想いを共有しています。

交渉・仕入れ

協力団体や開催にあたって連携が必要な学内外の機関・部署にプレゼンし、調整を行います。企画に必要な物品・景品を用意。陶器はもちろん、時には清水焼のねんども仕入れます。

広報

SNSや各種媒体を使って告知し、チラシを作って近隣の方に配りに行きます。地域のお店には、ただ置いて下さいとお願いするだけでなく、企画への想いもお伝えして共感いただくことも大切にしています。

準備・当日

何か月もかけてこだわって準備をした甲斐があり、2025年度は過去最高(およそ500名ほど)の来場を記録! たくさんの方に清水焼の魅力を楽しんでいただきました!

学生おすすめ

イチオシ企画

“地域の魅力を知ってもらう” × “こどもに喜んでもらう”

まち研の得意分野がかけ合わさった人気企画!



京焼・清水焼絵付け体験
山科の伝統産業に触れながら、アートを体験する



巨大山科かるた
からだを動かしながら、山科を知ってもらう

京都薬科大学 ME-ME

本学との共同学生団体が元となったサークルでまち研と共に地域のイベントに出展することも!



● 山科エシカルマーケット



P21に掲載

● だいがゆめもり秋まつり

P28に掲載

● 洛和メディカルフェスティバル

● クリスマス陶灯路



● たちばなこども食堂パーティー P31に掲載

● 京焼・清水焼絵付け体験 @京都市立東総合支援学校

10月

11月

12月

1月

2月

3月

P33に掲載

● 醍醐中山団地秋祭り(ミニ陶灯路)

● ボードゲームを楽しむ会 @東山区役所

● 三条街道商店街わくわくフェスティバル



● ふれあい“やましな”区民まつり



● meetus LABO! 東野公園の新しい顔を楽しもう!



● 山科消防署一般開放行事



まちづくり研究会3回生
田中 怜治 さん (経営学部経営学科)

県外から進学した私は、京都のまちやボランティア活動に興味があったことからまち研に入りました。活動で出会う山科の皆さんは「地元愛」が強く、その想いを感じながらイベントを企画・運営するというまち研の活動はとても貴重な経験だと思います。また、自分たちの企画を地域の方が楽しんでくださる姿を見ることで、自分たちの成長の実感や、地域に貢献できるという手ごたえを得ることができます。これからは幅広い年齢と一緒に楽しめるイベント作りや広報に注力し、まち研のファンを増やしていきたいです。

SNSで情報発信中!



Instagram



公式LINE

箏曲部
イオンモール de みんなの文化祭で演奏
イオンモール久御山にて

居合道部
洛東京信クラブでパフォーマンス
ハイアットリージェンシー京都にて

強化クラブ幹部会
TACHIBANA FESTIVAL
スポーツと音楽を融合させた交流の場

歴史遺産学科・南ゼミ
琵琶湖での水中考古学的調査
[幻の城]坂本城跡

京都橘大学の 地域連携活動

さまざまな団体が活躍!

たちばなこども食堂パーティー
地域連携センター
近隣のこども食堂等も参加

OSJ 橋
長岡天満宮悠久祭
書道パフォーマンスを実施

京炎そでふれ!部 Tacchi
音羽ふれあい祭り
小学生も演奏に参加

げんKids★応援隊
勤修小夏祭り
射的ブースをお手伝い

吹奏楽部
花まつりでの演奏
東山浄苑東本願寺にて

醍醐中山団地秋祭り
吹奏楽部が陶灯路をバックに演奏
住民学生が行政と連携し企画

たちばなサイエンスデー
地域連携センター
大学の研究にふれてみよう

まちづくり研究会
七夕陶灯路
山科の伝統産業 京焼・清水焼を伝える

OSJ 橋
病院での書道ワークショップ



梶谷 佳子 地域連携センター長

本書は、京都橘大学における2025年度の地域連携実績をまとめた報告書です。本年度も地域の皆さまと多分野にわたり連携事業を実施できましたことを、大変うれしく思います。

地域連携センター主催の活動では、「たちばなサイエンスデー」が今年で五年目を迎え、のべ700名を超える小学生の皆さんにご参加いただきました。また、「たちばなこども食堂」も四年目の開催となり、昨年度に引き続き児童教育学科・げんKids★応援隊の「クリスマス会」との協働により、250名近くの方々にご来場いただき、活気あふれるイベントとなりました。

本学は、2016年度に開始された京都市の「学まち連携大学」促進事業において、第一期(2016～2019年)・第二期(2020～2023年)ともに採択されました。事業が終了した2024年度以降も、これまでの成果を継承・発展させることを目的として、本学独自の学生公募型地域連携活動助成事業「学まちチャレンジ！プロジェクト」を実施しています。昨年度は9組、今年度は13組の学生グループが活動を展開し、そのうち3グループは地元の金融機関や社会福祉団体、山科区役所など外部機関からいただいた地域課題をテーマとして取り組みました。学生たちは、大学で学んだ知識やスキルを活かし、学部を超えた協働を通じて事業を企画・実施しました。事業計画の立案からプレゼンテーション、実施、評価、報告までの一連のプロセスを経験することで、授業では得られない学びを得て大きく成長しています。

本学は、2005年の男女共学化および「京都橘大学」への改称を機に、「自立・共生・臨床の知」を教育理念として掲げ、教育・研究活動を進めてきました。そして、この教育理念を具現化するため、2014年に「京都橘大学地域連携センター」を設置し、以来、地方自治体・企業・団体等の皆さまと多様な連携事業を継続して展開してまいりました。

2025年度の地域連携活動をまとめた本書をご一読いただき、ご意見やご感想を賜れましたら幸甚に存じます。当センターといたしましては、今後とも教職員および学生による多様な地域連携活動の推進と広報に努めてまいります。さらに、地域の皆さまとの交流をこれまで以上に深めることを目指し、新たな連携の機会や参加しやすい企画のあり方についても継続的に模索してまいります。本学の地域連携活動に、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



地域連携活動

- 学まちチャレンジ！プロジェクト・学生団体の活動報告 …… 10～
- 地域企業等と連携した活動の報告 …… 27～
- 地域連携センターや各学科等による地域連携活動の報告 …… 30～
- その他の地域連携活動一覧（教育）（研究）（社会貢献） …… 58～

学まちチャレンジ！プロジェクト

学生から応募される自主的な地域連携活動を支援

本プロジェクトは、2020年度から2023年度まで京都市「学まち連携大学」促進事業に採択された取り組みの一つとして実施してきたもので、事業終了後も本学独自に継承し、実施しているものです。2025年度もそれぞれのグループがプロジェクトを通して自主性・企画力・課題解決能力・コミュニケーション能力を培い、得意なことや学んだことを活かして地域の課題解決にチャレンジしました。

①自由テーマ型

「こどもの居場所をつくりたい」「まち歩きマップをつくりたい」など、同じ思いをもった仲間を集めてプロジェクトを立ち上げるものです。

応募資格 本学の学生(学部生・大学院生)で原則3名以上のグループ

NO.	チーム名	プロジェクト名	概要
1	にじいろスマイル隊	命の大切さを知ろう！	保護者や保育者と連携をとりながら、「命の大切さ」や「自分の体を大切にすること」を中心に幼児向け性教育を行うプロジェクト
2	Team Effectors	持続可能な商店街の地域活性化	伏見区納屋町商店街において、プロジェクトマップや生成AIを用いて、人口減少下でも持続可能な地域活性化を目指すプロジェクト
3	ピアカウンセリングサークル	#良い関係ってどんな関係？～みんなで話そう、自分も相手も大切にできるヒント～	思春期ピアカウンセリングをベースに、中学生～高校生ヘデートDVについての正しい知識と「自分を大切にすること」は何かを伝えるプロジェクト
4	OSJ橋	楽しくしっかり学ぼう！	地域の方に向けて、書道を楽しく学んでもらうための書道教室や書道イベントを実施するプロジェクト
5	アフリカンキッズサポーターズ	アフリカン★デジタルラボ ～音楽とゲームで遊んで学ぼう！～	アフリカンキッズクラブ(AKC)関西と連携し、在日アフリカ人家庭の子どもが安心して自分らしく過ごし、学ぶことができる機会を提供するプロジェクト
6	京炎そでふれ！部Tacchi	山科のお祭りを盛り上げたい	高齢化によるお祭りの担い手減少という課題に対し、演舞を通じた交流でお祭りを盛り上げ活性化するプロジェクト
7	考古学研究室山科遺跡魅力発掘チーム	山科「ふるさとの会」と連携した山科の歴史遺産魅力発掘プロジェクト	山科の歴史遺産巡りのパンフレットを作成、遺跡出土品の展示を通じ、地域のふるさとの魅力発掘に貢献するプロジェクト
8	吹奏楽部	おとでつながる！ こども音楽体験プロジェクト	部活動の地域移行が導入される年代の就学前後の子どもたちへ音楽に触れる機会を提供し、文化芸術に親しむことを目指すプロジェクト
9	smile(看護学科有志)	10時だよ！全員集合！ 伸ばそう健康寿命	地域の高齢者一人ひとりが健康について意識を向け、自ら健康を獲得できるように健康教育を実施するプロジェクト
10	防災サークルFAST	備えようその瞬間	災害や救急医療に関する知識と技術を共有することで、予測不能な大災害に備え周りの人を助けられる人材を育成するプロジェクト

②テーマ設定型

連携機関とともに地域の活性化を目的とした活動を行う参加者を募集するものです。

本学のメンバーと連携機関の職員の方々が協働し、地域活性化のためのプロジェクトを作り上げていきます。

応募資格 本学の学生(個人・グループとも可)

NO.	プロジェクト名	概要
1	コミュニティ・バンク京信連携	コミュニティ・バンク京信山科支店と連携し、イベントを通じて健康や生活の安全の大切さを地域の方々に発信するプロジェクト
2	山科区役所連携	中学生・高校生年代に向けたフリースペース「ゆうすべーすやましな」の利用促進を目的に、中高生年代に向けた周知広報やイベント企画を行うプロジェクト
3	醍醐いきいき市民活動センター連携	醍醐周辺地域の子ども・子育て世代の交流を目的としたイベントに参加し、若者世代の集まる仕組み作りを考えるプロジェクト

- 実施地域・場所
京都市左京区(ふたば幼稚園)
- 参加学生数
14名

命の大切さを知ろう！

にじいろスマイル隊

幼児期に寄り添う、体験型の性教育プロジェクト

本プロジェクトは、地域の幼稚園と連携し、幼児期の発達段階に応じた性教育を実践することを目的として実施しました。近年、性に関するトラブルの低年齢化や、家庭で性について話す難しさが指摘される一方で、「自分の体を大切にすること」や「大切に育てられてきた存在であること」を幼児期から伝える重要性が高まっています。そこで、将来、看護・助産に携わる看護学部看護学科の学生が中心となり、京都市左京区の幼保連携型認定こども園ふたば幼稚園にて年少・年中・年長向けのプログラムを実施しました。それぞれの学年の発達段階に合わせて内容や体験を工夫し、乳幼児の人形を用いたミルクのあげ方、心臓の音を聴く体験、抱っこする方法、おむつ交換などを取り入れた学びの場を提供しました。また、保護者の皆さまにはビデオ教材を用いた講義を実施し、家庭で性教育を伝える際のポイントやプライベートゾーンの伝え方について学んでいただく機会を設けました。

園児・保護者の変化と学生の学び

活動後、園児からは「楽しかった」「家でもやっている」などの声が寄せられ、楽しみながら自分の体や命について前向きに受け止める様子が見られました。保護者アンケートでも、「子どもに分かりやすく伝えられそう」「幼児期からの性教育の大切さに気づいた」など肯定的な意見を多くいただきました。学生にとっても、性教育は単なる知識の伝達ではなく、子どもが「自分は大切にされている」と実感できる関わりであることを学ぶ貴重な経験となりました。日常的な体験を通じることで、子どもたちが自然に命や体の話を受け止めていく姿に触れ、将来専門職を目指す上での学びが大きく深まりました。

今後の課題と継続に向けた展望

一方で、保護者の関心が高いにもかかわらず、「どこまで、どのように伝えればよいか分からない」という不安が大きいことや、単発の学びでは家庭での実践につながりにくいことなどの課題も明らかになりました。今後は、幼稚園との継続的な連携を進め、成長段階に応じて繰り返し学ぶ機会を設ける仕組みづくりが必要であると考えています。また、家庭で使える声かけ例や資料の配布、SNSや動画の活用、相談しやすい場づくりなど、保護者が実践に取り組みやすくなる支援も重要です。今回の経験と課題を踏まえながら、子どもと保護者が安心して性について学べる取り組みを、今後も地域とともに発展させていきたいと考えています。



学生が丁寧にレクチャー



興味津々な園児の様子

- 実施地域・場所
京都市伏見区(納屋町商店街)
- 参加学生数
4名

持続可能な商店街の地域活性化

Team Effectors

商店街を元気にしたいという思いから始まった試み

近年、商店街は人口減少やネット通販の普及により人通りが減り、地域のつながりをどう保つかが大きな課題となっています。地域の魅力を発信できるキャラクターの活用が注目されていますが、商店街が主体となって活用を続けていくには人手や技術の面で難しさがあり、外部支援が終わると活動が続かないという側面もありました。そこで、工学部情報工学科の学生が主体となり、京都市伏見区の納屋町商店街の皆さまにご協力いただき、商店街のキャラクター「なやまっち」を活用できるようにするため、2D・3DモデルやAI、CGアニメーション、プロジェクションマッピングなど5つのデジタルコンテンツを制作しました。

イベントを通じてデジタルコンテンツを実装

制作開始から段階的に成果物を提示したことで不安が解消され、「操作が簡単で使いやすい」「イベントで活用したい」といった前向きな声をいただきました。制作したデジタルコンテンツを実装するため、11月16日(日)に「伏見モノガタリ・デイ『なやまっち人形劇&影絵上映会』」に向けて、プロジェクションマッピングと、商店街の情報を発信するChatbotを作成しました。プロジェクションマッピングの上映では、BGMとナレーションを合わせて納屋町商店街の歴史を紹介し、ご好評いただきました。実装の手ごたえを感じると同時に、デジタルに不慣れな方には利用が難しい場面もあり、商店街内に技術をつなぐ「橋渡し役」が必要であることも見えてきました。



なやまっちとチャット

持続可能な形をめざして

今回の取り組みを通して、地域の活動を続けていくためには「高度な技術」よりも「使い続けられる仕組み」が大切だと実感しました。とくに、支援が終わったあとも負担なく運用できる仕組みづくりや、制作過程を丁寧に提示し続ける姿勢が信頼につながることを学びました。また、すべてを複雑にせず、あえて“改変不要のシンプルな形”にすることが、現場の使いやすさ・安心感につながることもわかりました。今後は、商店街内で技術を引き継ぐ人材育成やサポート体制の整備に力を入れながら、地域に根づくキャラクター活用の形をさらに広げていきたいと考えています。



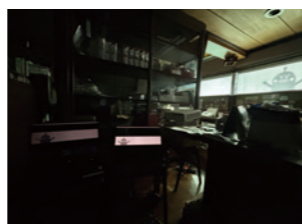
商店街の一角で実施



プロジェクションマッピング



上映の様子



店舗をお借りしたバックヤードの様子

- 実施地域・場所
京都市山科区
(山科青少年活動センター)
- 参加学生数
5名

#良い関係ってどんな関係? ~みんなで話そう、自分も相手も大切にできるヒント~

ピアカウンセリングサークル

地域の若者支援ニーズを踏まえた取り組みの背景

昨年度本プロジェクトに参加し、中高生に向けた子宮頸がんに関する啓発活動を行う中で、中高生が大学生を「年齢が近く相談しやすい相手」と捉えていること、また生理や恋愛など身近な悩みを話せる場が地域に十分に存在していないことが明らかになりました。また、活動拠点となった「山科青少年活動センター」ではパートナーと来場する若者も見られ、対人関係に関する支援の必要性を強く認識しました。外部調査においては、中高生の一定数が交際経験を持ち、デートDVに該当する行動を経験している可能性が示されています。これらの背景を踏まえ、若年層が健全な関係性を学ぶ機会を地域に提供したいと考え、今年度のプロジェクトテーマを決定しました。

地域の場を活用した啓発活動の実施

こうした背景を踏まえ、今年度も昨年度の活動と同様に山科青少年活動センターにてクリスマスイベントを企画・主催し、楽しい雰囲気の中でデートDVについて考える機会を設けました。当日はお菓子やジュースを囲みながら、ゲームを通して参加者同士が自然に会話し、互いの考えを共有できるような雰囲気づくりに努めました。サークルが自作した双六やカードゲームは、デートDVに関する基本的な気づきを得られる内容であり、遊びの要素を取り入れることでテーマへの心理的ハードルを下げ、参加した中高生が大学生という近い立場から無理なくコミュニケーションをとれるよう工夫しました。

サークルとしての振り返りと今後の展望

今回の活動を通して、ピアカウンセリングサークルはデートDVという概念を中高生に理解してもらう難しさを実感しました。双六やカードゲームは参加しやすい一方で、内容とデートDVとの関連を補足説明する必要があり、今後はゲーム後にパンフレットと併せて簡潔な解説を行うなど工夫していきたいと考えています。また、性に関する内容なので、性の多様性に配慮した声掛けや事例選定の重要性も再確認しました。今回は単発のイベント実施でしたが、継続的な取り組みを通じて中高生との関係を深め、より安心して参加できる場づくりを進めていきたいと考えています。



すごろくを作成



クリスマスイベントのチラシ

楽しくしっかり学ぼう!

OSJ 橋

書道の魅力を地域へ伝える取り組み

OSJ 橋は、文学部日本語日本文学科書道コースの学生を中心とした学生団体で、O:おもしろい、S:しっかり学べる、J:字がうまくなるの頭文字を取って名付けられました。学校教育でのICT機器の普及により筆を持つ機会が減っている現状を受け、書道の魅力を地域に広く届けることを目的に活動してきました。特に子どもたちには、文字の上達や基礎の習得だけでなく、書道がもつ集中力を育む力も体験してもらうことを大切に、講義や部活動で培った知識を活かし、地域に根差して活動を続けています。

イベントを通じた広がり学び

毎月2回の「たちラボ書道教室」をはじめ、地域イベントでのワークショップや書道パフォーマンスなど多様な企画を実施し、年間のべ371名に参加いただきました。参加者からは「久しぶりに筆が持てて楽しかった」「また参加したい」といった声をいただき、書道への関心が高まったことを実感しています。活動の広がりとして、京都橘大学まちづくり研究会、イオンタウン山科柳辻、音羽リハビリテーション病院、さらに龍谷大学の真鍋ゼミとの連携も生まれました。また、東本願寺でのワークショップなど、山科区外でも地域の方と直接交流できる機会が増え、子ども向けイベントから高齢者施設での書道パフォーマンスまで、幅広い年代の方に書道の魅力を伝えることができました。また、SNSでは毎月の「たちラボ書道教室」やイベント参加の告知にとどまらず、書道やOSJ 橋を身近に感じていただけるように工夫した投稿を行っています。

見えてきた課題とこれからの展望

活動を続ける中で、参加者の増加に対し会場が手狭であったことや、運営メンバーが固定化し負担が偏りやすいという課題が明らかになりました。今後は広い会場の確保や参加人数の調整、メンバー間の役割分担を進め、より安定した運営体制を目指します。また、これまでの経験を踏まえ、将来的には私たち自身が主体となるイベントを企画し、地域とのつながりをさらに深めていきたいと考えています。



書道パフォーマンス



SNSにも注力



ワークショップの様子



たちラボ書道教室

学まちチャレンジ!プロジェクト2025

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 参加学生数
30名

アフリカン★デジタルラボ ～プログラミングとゲームで遊んで学ぼう!～

アフリカンキッズサポーターズ

アフリカにルーツを持つ子どもと地域の関わり

本プロジェクトでは、アフリカンキッズクラブ関西(以下、AKC 関西)と連携し、「プログラミング教室」と「eスポーツ体験」を組み合わせた文化交流・学習イベント「アフリカン★デジタルラボ ～プログラミングとゲームで遊んで学ぼう!～」を開催しました。在日アフリカ人家族やアフリカにルーツを持つ子どもたちは、日常生活の中で孤立感を抱きやすく、また、教育的な体験の機会を得にくいという課題があります。そこで情報工学科で学ぶ学生の専門性を生かし、デジタル分野を入口として地域とAKC 関西の子どもたちがともに楽しく学べる場づくりに取り組みました。ロボット教材を使ったプログラミング体験では、試行錯誤しながら学べる構成を意識し、アフリカをテーマにしたクイズも取り入れることで文化への興味を広げられるよう工夫しました。また、Nintendo Switch Sportsを用いたeスポーツ体験では、勝敗よりも交流を大切に、参加者同士が声を掛け合いながら楽しめる雰囲気づくりを心がけました。



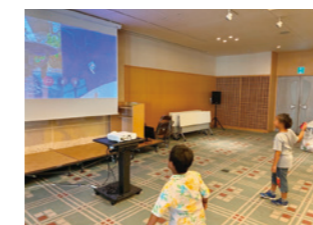
自然と交流が生まれました

自然に交流が生まれるプログラミング教室

イベントには保護者6名、子ども6名が参加し、どの活動にも主体的に取り組む姿が見られました。ロボットを操作しながら何度も挑戦する様子や、ゲームを通じて自然に交流が生まれる様子が印象的で、子どもたちが楽しみながら学んでいることを実感しました。また、文化クイズをきっかけにアフリカについて関心を寄せる姿も見られ、単なる体験にとどまらない学びが生まれたことが成果の一つです。本プロジェクトを通じて大学の専門性をAKC 関西と地域を結び交流活動に活かす新たな可能性が広がりました。一方で、スタッフ間での目的共有や役割分担が不十分であったこと、限られた時間の中で意図を十分に伝える難しさなど、運営面の課題も明らかになりました。地域の方と協力しながら進めることの大切さを学ぶ貴重な機会にもなりました。

持続的な学びの場をめざして

活動を通して、子どもたちが継続して段階的に学びを深められる環境づくりが必要だと感じました。今後は本イベントを定例化して実施できる体制づくりとして、運営体制の整理やスタッフ間の情報共有を強化していきます。さらに、大学の専門性や学生の力を活かしてより多くの参加者を呼べるように、大規模イベントへの発展も視野に入れていきます。既存イベントとの連携を図る等の工夫で無理なく続けられる方法を検討し、地域の子どものために持続的に学べる場となるよう取り組んでいきたいと考えています。



e-スポーツで対戦



真剣な表情でプログラミング



クイズも合わせて実施



プログラミングしたロボット見守る様子

学まちチャレンジ!プロジェクト2025

- 実施地域・場所
京都市下京区
(キャンパスプラザ京都)
- 参加学生数
4名

山科のお祭りを盛り上げたい

京炎そでふれ!部 Tacchi

担い手不足に悩む地域のお祭りを支える

本学の位置する京都市山科区では、地域でのお祭りが活発に行われている一方で高齢化により担い手が不足してきています。地域のお祭りの担い手となっている方々から、「お祭りの人手が足りない」「集客(広報)に困っている」といった声を伺う機会があり、何か貢献することができないかと考えました。京炎そでふれ!部 Tacchiは、京都学生祭典から生まれたよさこい踊り「京炎そでふれ!」を踊る課外活動団体で、主に学生祭典や大会を中心に演舞を披露しています。見るだけでなく、参加して楽しめるようなお祭りを目指そうという想いから生まれた「京炎そでふれ!」を活かして、地域のお祭りを盛り上げたいという思いで本プロジェクトを実施しました。

お祭りの特色に合わせて企画

本プロジェクトを通して3つのお祭りに携わることができました。お祭りごとに対象や趣旨、参加人数が異なるため、主催者の方と打合せを重ね、それぞれに合わせた企画を準備しました。10月に開催された音羽小学校での「音羽ふれあい広場」では、演舞披露と小学生を対象とした体験会を実施しました。体験会では、手作りのフラッグを配り、一緒に演舞に参加できる時間を設け、世代を超えて演舞を楽しむ機会となりました。また、11月に開催された食楽音祭「山科縁日」と同時開催の「軒下バザール」では演舞披露と体験企画「総踊り」を行いました。子どもたちや保護者の方も、声かけをきっかけに演舞に参加してくださり、「一緒に踊れて楽しかった」「参加してみるとより身近に感じた」といった声をいただきました。路上に設けられたステージは観の方との距離がとても近く、会場全体が一体感に包まれました。同じく11月の「ふれあい“やましな”2025区民まつり」ではステージでの演舞披露とごみ分別ボランティア活動を実施しました。ゴミ分別の活動では直接お祭りの運営に貢献できるだけでなく、「さっき踊ってた子たちやね、すごかったわー」と、地域の方たちに声をかけていただいたり、地域の子どもたちが手伝ってくれたりといった交流が生まれました。



旗を振って演舞に参加

今後の活動に向けて

地域イベントで交流を深める上では、参加者同士の一体感を生み出すことが重要であると感じました。来場者が「見る側」から「参加する側」になる企画は、今後も継続していくべきだと考えています。また、より多くの人を呼び込むために、SNSの活用や地域団体との連携など、広報方法の工夫も重要です。これらの改善を重ねながら、お祭りで地域の人々が自然と集い、一体感を共有できる場として本プロジェクトを継続していきたいと考えています。



音羽ふれあい広場



軒下バザール



区民まつり

学まちチャレンジ!プロジェクト2025

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 参加学生数
122名

山科「ふるさとの会」と連携した山科の歴史遺産魅力発掘プロジェクト

考古学研究室山科遺跡魅力発掘チーム

山科「ふるさとの会」と山科・西野山地域を探访

本プロジェクトは、京都市山科区を中心に活動する「ふるさとの良さを活かしたまちづくりを進める会」(以下、ふるさとの会)と連携し、地域の歴史や遺跡を広く伝えることを目的とした活動です。「ふるさとの会」は、歴史遺産学科と2021年度から協力して遺跡調査などを行ってききましたが、スタッフの高齢化が進み、活動の継続が課題となっていました。そこで、地域のニーズに応える形で、学生が協力しながら山科の遺跡・遺産巡りを企画しています。山科区の西野山地域には、征夷大将軍として知られる坂上田村麻呂の墓が存在するという文献史料があります。「西野山古墓という名前だけは知っているが、実物を見てみたい」という声をいただき、今年度は西野山古墓と西野山地域の歴史を対象に調査を進めました。具体的には、西野山古墓が本当に坂上田村麻呂の墓であるか、その真偽を検証するため、出土遺物を対象とした考古学的調査を行い、年代特定を試みました。

学まちチャレンジ!プロジェクト2025

- 実施地域・場所
京都市山科区、奈良県橿原市
- 参加学生数
12名

資料だけでは得られない知見

調査結果をもとに、11月29日(土)に山科の遺跡・遺産巡りを開催しました。当日は、約80名の方にご参加いただき、「西野山古墓の探究」をテーマに発見の経緯、出土した遺物の紹介、坂上田村麻呂との関係や遺物の年代について発表を行い、参加者とともに西野山地域を歩いて巡りました。学生から参加者へ遺跡の解説をするだけでなく、西野山地域を地元の住民の方々と歩きながら話を伺い、当時の生活環境や家業としての牛の飼育、お祭りの様子など、西野山地域の暮らしについて学ぶことができました。活動を通して、専門的な調査の実践の機会になったと同時に、実際にまちに出てお話を伺うことで、資料だけでは得られない知見を得ることができました。

また、京都市営地下鉄柵辻駅の「アートロードなぎつじ」にて関連する考古資料を展示するとともに、奈良県橿原市にて開催された「古代武器研究会」でもポスターセッションを行うなど、今回明らかになった地域の歴史を広く発信する活動も行いました。

プロジェクトを継続し、地域の活性化につなげるために

「ふるさとの会」との連携は今後も継続し、山科区内の寺院などをテーマに次年度も研究を進めていく予定です。また、プロジェクトに取り組む中で、考古学研究室で普段取り扱わない専門外の古文書や資料を扱う場面も増えると考えられるため、どのように対応していくか検討しています。今後も地域の歴史を学び、それを多くの市民に伝えることで、山科に対する愛着を深めてもらい、地域の活性化につなげたいと考えています。



作成した資料



事前学習会



遺跡・遺産巡り当日



柵辻駅にて展示

おとでつながる！ こども音楽体験プロジェクト

吹奏楽部

学生主体で創る地域音楽交流プロジェクト

本プロジェクトは、音楽を通じて地域とつながり、子どもたちに生の音楽に触れる機会を提供することを目的として企画しました。特に、幼児期・学童期の子どもたちにとって、音楽を「聴く」だけでなく「体験する」ことが、音楽への興味や親しみにつながると考え、体験型の演奏会や楽器体験を実施しました。地域の子どもたちが楽しみながら音楽に触れる場を創出するとともに、学生自身にとっても、地域との関わりを通して学びを深める機会となることを目指しました。

笑顔を届けた演奏会と楽器体験

10月4日(土)に実施した「おとでつながる！こども音楽体験プロジェクト」では幼保連携型認定こども園 おおやけこども園の園児を対象に、指揮者体験やミニ演奏会を開催しました。手作りのマラカスをプレゼントし演奏に参加してもらうことで、音楽をより身近に感じられる工夫を行いました。また、1月31日(土)に実施した「たちばな！おとあそびたいけんひろば」では楽器体験イベントを実施し、山科区内の小学生約57名に参加いただきました。低学年の部と高学年の部に分け、打楽器や管楽器の音出し・演奏にチャレンジしてもらいました。

運営の中では、参加者目線での企画設計・広報の重要性や、学年ごとの発達段階に応じた内容づくりの必要性を実感しました。保護者の方からは、「楽器に触れ合える機会を得られてよかった」「細かく声をかけていて良かった」「楽しそうに飛び跳ねながら楽器の音を楽しんでいる姿を見ることができ、幸せな時間だった」など、多くの温かい感想をいただきました。また、「本当に楽器をやりたいと思ったようだ」「今後も機会があればうれしい」といった継続を望む声もあり、地域における音楽体験の場への期待の高さを感じました。

継続的な音楽体験の機会を

本プロジェクトは、山科区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会、京都市山科区役所「山科まちづくりチャレンジ応援事業」、京都市東部文化会館、おおやけこども園、山科区内の小学校など地域の各機関にご協力・ご連携いただき実現しました。地域全体で子どもたちの学びと体験を支える一員としてイベントを企画運営することができ、得難い経験となりました。音楽が人と人をつなぎ、温かい空間を生み出す力を実感できたことも大きな成果です。学校部活動の地域移行が進む中で、子どもたちの文化芸術に触れる機会づくりに貢献できるように、継続的な音楽体験の機会を創出していきたいと考えています。



いっしょに踊れる曲も演奏



楽器演奏体験



指揮者体験



指揮者体験

学まちチャレンジ！ プロジェクト2025

- 実施地域・場所
京都市山科区(東部文化会館)
- 参加学生数
112名



告知チラシ

10時だよ！全員集合！ 伸ばそう健康寿命

smile(看護学科有志)

高齢者の介護予防を目的とした取り組み

本プロジェクトでは、地域で暮らす高齢者を対象に、介護予防を目的としたイベントを実施しました。高齢化の進展に伴い、無理なく健康を維持できる取り組みの必要性が高まっていることを背景に、自宅でも継続できる運動の普及を目指して企画しました。運動機会の創出に加え、地域内のつながりづくりも意識した取り組みです。

交流や安心感が運動意欲を向上

イベントは本学看護学部看護学科主催の体力測定会と併せて2日間開催し、来場者へ「手ぬぐい体操」と「風船バレー」に参加いただきました。体操では参加者と共に動きを確認しながら行い、自宅でも実施できるよう解説プリントを配布しました。風船バレーでは学生・参加者同士の交流ができるよう、楽しみながら身体を動かせる内容としました。グループで協力し合い、笑顔や自然な会話が多く生まれました。118名の方に参加いただき、無理のない範囲で身体を動かし、配布資料を見ながら自主的に体操に取り組む姿も見られました。アンケートでは「楽しかった」「また参加したい」との声が多数寄せられ、楽しさを伴う活動が参加意欲を高めることを実感でき、学生にとっても、介護予防には運動内容だけでなく、交流や安心感を生む関わりが重要であることを学ぶ機会となりました。

継続可能な運動習慣作りに向けた課題と工夫

一方で、自宅での継続状況を把握する仕組みが十分でない点や、参加者の身体状況に応じた段階的な運動提示の必要性が課題として明らかになりました。また、学生主体の活動であるため継続体制の構築も課題となります。今後は、定期開催の仕組みづくり、内容の改善、地域関係機関との連携強化によって継続的な運動習慣作りにつなげたいと考えています。動画や資料の活用、参加者へのフォローを通して、無理なく続けられる介護予防活動へ発展させる工夫が必要だと感じました。



手ぬぐい体操



風船バレー



風船バレー

学まちチャレンジ！ プロジェクト2025

- 実施地域・場所
本学キャンパス内
- 参加学生数
6名

学まちチャレンジ!プロジェクト2025

- 実施地域・場所
京都市山科区、京都府向日市
- 参加学生数
100名

備えようその瞬間

防災サークルFAST

市民の防災意識の向上を目的にしたプロジェクト

京都学生FASTは、「Fire And Safety Team」の頭文字をとった京都府公認の学生ネットワークで、京都府内の大学生消防防災サークルで構成されています。本学では防災サークルFASTとして、健康科学部救急救命学科の学生を中心に、総合心理学部総合心理学科など学部学科を超えて防災に関心を持つ学生が参加しているサークルです。本プロジェクトでは、京都府でも甚大な被害が出ると考えられる南海トラフ地震が起きた時に備え、避難所開設の流れや災害に対する市民の備えを再確認し、意識を高めることを目的に、さまざまなイベントで防災に関するワークショップを実施しました。



避難所で用いられる段ボールベッドを体験

さまざまな活動の機会をいただいた2025年度

11月2日(日)には京都府向日市寺戸公民館での避難訓練「あつまれ!130人のリアル避難所体験」に参加しました。2024年度の活動の中で連携が生まれた、防災フードシェアリング等の活動を行う「ミンナソラノシタ」と共同で実施し、企画段階から加わらせていただきました。当日は一次救命処置の講習や、新たな試みとして、避難所における心理的な状況・ケアの必要性についての展示を行いました。また、12月6日(土)には山科区小野学区自主防災会と連携し、児童及びその家族の防災減災知識の向上と実習を行いました。バーチャル消火体験や防災バッグ作り等、子どもたちが楽しく参加でき、実際に役立つ体験ができるように工夫を凝らした4つのブースと防災クイズを用意しました。1月29日(木)には京都市立東総合支援学校の生徒を対象に防災の授業を実施し、段ボールベッドやペットボトルランタン作りの体験等を行いました。各イベントで対象者や実施形式に合った企画を考え、防災を身近に感じてもらえるよう、工夫を凝らしました。

地域と連携し、活動の深化を目指す

活動を通して、子どもやお年寄り、障害を持つ方の防災について、また、女性への一時救命処置等、対象者に合わせた防災の重要性を実感し、深く考え学ぶことができました。今年度の活動を踏まえ、今後も地域団体と協力し、実際に災害が起きたときの避難所生活等を考える機会を提供できるイベントや、単発ではなく継続的に実施できるイベントを企画していきたいと考えています。



一時救命処置のレクチャー



避難所での精神衛生について掲示



ペットボトルでランタンを制作

学まちチャレンジ!プロジェクト2025

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 参加学生数
8名

地域交流拠点を活用したふれあい健康イベント

コミュニティ・バンク京信山科支店×作業療法学科有志学生

地域企業と連携した健康づくりプロジェクトの実践

本プロジェクトは、コミュニティ・バンク京信山科支店(以下、山科支店)と連携し、山科地域の活性化を目的として実施した地域連携活動です。健康科学部作業療法学科の有志学生が中心となり、柳辻駅近くの山科支店2階コミュニティホールを会場として、脳や身体機能の維持・向上を図る多様なプログラムを展開しました。プログラム内容は大きく三つあります。第一に脳トレクイズでは、季節に合わせた問題や日常生活で身近な病気に関する内容を取り上げ、楽しみながら知識を深められるよう工夫しました。第二にものづくりでは、ハーバリウムや手作りフラワーを制作し、活動後も自宅で楽しめる作品づくりを通して、参加者同士や学生との交流を促しました。第三に運動プログラムでは、ラダーを用いたステップ運動や認知症予防体操「コグニサイズ」、チーム対抗のボール転がしなどを実施し、笑顔あふれる雰囲気の中で心身の健康づくりを支援しました。



告知チラシ

季節ごとの継続的なイベント参加が実現

今年度は9月・11月・1月の計3回開催し、延べ46名の方にご参加いただきました。複数回参加して下さる方や、ご友人を誘って来場される方も見られました。アンケートでは「学生と交流できて楽しい」「チームで協力して取り組めたのがよかった」といった声が寄せられ、世代を超えたつながりの場としての意義を改めて確認することができました。山科支店の会場で実施することで大学まで足を運ぶことが難しい高齢の方も参加しやすくなったほか、お客様への案内など、集客面でも助けていただきました。2025年には山科区の高齢化率が京都市内で最も高くなったことを踏まえると、地域に身近な拠点で健康づくりの機会を提供する意義は一層高まっています。学生にとっても、作業療法の専門知識を地域で実践する経験を通して、対象者理解やコミュニケーション力、企画運営力の向上につながる貴重な学びの機会となりました。

今後の課題と地域連携の展望

一方で、運営面では課題も明らかになりました。学年ごとに授業や実習日程が異なるため、報告・連絡・相談が十分に行き届かない場面がありました。この経験から、早い段階での役割分担や具体的な進行計画の策定、余裕を持ったスケジュール管理の重要性を学びました。また、地域住民への周知方法をさらに検討し、自治会や関係機関との協力を広げることで、継続的かつ発展的な活動へとつなげていきたいと考えています。綿密な計画と柔軟な対応力を両立させながら、地域に根ざした健康づくりの拠点としての役割を果たしてまいります。



コグニサイズ



季節の脳トレクイズ大会



手作りフラワー制作



制作の中で生まれる交流

学まちチャレンジ！
プロジェクト2025

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 参加学生数
13名
(総合心理学科8名、建築デザイン学科5名)

中高生年代の居場所 「ゆうすぺーすやましな」の活用促進

山科区役所×総合心理学科大久保ゼミ×建築デザイン学科有志

中高生年代の居場所「ゆうすぺーすやましな」を広める

本プロジェクトは、山科区役所内に設置されている中高生年代の居場所「ゆうすぺーすやましな」(以下、ゆうすぺ)の周知と利用促進を目的として、総合心理学科総合心理学科大久保ゼミを中心に企画・実施したものです。中高生年代が安心して過ごせる場所の存在を知ってもらい、実際の利用につなげることを目標とし、山科区役所地域力推進室と連携し、空間コーディネーターの湯浅靖代様(おきののうつわ)、京都市ユースサービス協会、総合心理学科の南波英和助教、工学部建築デザイン学科の学生などさまざまな団体・個人と意見を交換しながら、12月のイベント実施に向けて夏から企画を進めました。また、イベントやゆうすぺ自体の広報のため、チラシ作成やSNSの活用にも取り組みました。



イベントの広報チラシ

空間への愛着や満足感が生まれるイベントに

当日は、ゆうすぺ内で使用するパーテーションのデザインや制作を子どもたちと一緒に行いました。自分たちが関わって作り上げることで空間に愛着を持ってもらい、「また来たい」と思える場所づくりを意識しました。また、開催日がクリスマスに近かったことから、クリスマスに関連した簡単なお菓子のデコレーション企画も実施しました。アイスブレイクや共同作業を通して自然な交流が生まれ、初めて参加した子どもたちも打ち解けやすい雰囲気をつくることができました。想定より少人数での実施となりましたが、参加してくれた子どもたちは楽しんでくれたようで、笑顔や達成感が見られたことは大きな成果でした。特に、自分たちでデザインから絵付けまで行ったパーテーションが形になったことで、空間への愛着や満足感が生まれている様子がうかがえました。

一方で、イベントの周知方法・タイミングについては課題が残りました。今回のイベントは、ゆうすぺの利用対象者に加え、将来利用対象者となる小学5・6年生も募集しましたが、結果的に少人数の参加となりました。また、多くの方が関わるプロジェクトの中で、連携の意見が集まる心強さと、意見を集約し実行可能な形にまとめる難しさを実感しました。ゼミ内での進捗共有や役割分担の明確化、期限管理の徹底など、組織的に動くための仕組みづくりの重要性を学ぶ機会となりました。

地域へ“もう一つの居場所”の存在を周知したい

今回の経験から、まず「対象は誰か」「その対象にとって本当に必要なものは何か」を丁寧に分析することの重要性を学びました。企画内容や表現方法の工夫が今後の課題です。また、地域の方々にも家庭や学校以外の“もう一つの居場所”の存在を知っていただき、居場所に悩む子どもと出会った際に自然につないでもらえる環境づくりも効果的だと考えています。



出来上がったパーテーション



四季をテーマにデザイン



クリスマスのお菓子デコレーション

学まちチャレンジ！
プロジェクト2025

- 実施地域・場所
京都市伏見区
- 参加学生数
4名

醍醐地域における子ども・ 子育て層が住みやすいまちづくり

醍醐いきいき市民活動センター×有志学生

秋祭りへの参画と実態把握の取り組み

本プロジェクトでは、醍醐いきいき市民活動センターと連携し、子ども・子育て世代が安心して過ごせる居場所づくりを目指し活動をしており、今年で4年目になります。今年度は、9月27日(土)に開催された「だいがゆめり秋祭り」にて、子ども向けのチョコバナナの販売ブースを担当しました。ガチャガチャによって特典が当たる“おみくじ要素”を取り入れることで、子どもたちが楽しみながら参加できる仕組みを工夫しました。あわせて、購入してくれた子どもたちに、最近よく遊んでいる場所や遊び方を地図上にシールで示してもらい「子どもの遊び場調査」を実施しました。販売という形をとりながらも、遊びを通して地域の実態を知ることを目的とした取り組みです。来場者は300名を超え、チョコバナナも早期に完売するなど、大きな反響を得ることができました。



チョコバナナブースの様子

イベントを通じて生まれる交流と、可視化を通じた学び

当日は学生も浴衣を着用して参加し、来場者からは企画を高く評価する声を多くいただきました。また、他ブースの団体へ備品を貸し出したことをきっかけに新たな交流が生まれ、イベントは多くの人の支え合いによって成り立っていることを実感しました。継続して関わる中で、地域との信頼関係が少しずつ積み重なっていることも感じています。調査で集めたデータは整理し、地図上に可視化しました。その結果、子どもたちの遊び場の分布や、活動が十分に届いていないエリアの存在が見えてきました。さらにフィールドワークや地域住民への聞き取りを行い、交通量の多さや球技ができる公園の少なさなど、具体的な地域課題も把握しました。感覚ではなく、データをもとに地域を捉える経験は、今後の企画づくりをより根拠あるものにする第一歩となりました。

対話と実践を重ねながら関係性を育む

口コミや広報の成功により、昨年を大幅に上回る来場があり、購入できなかった子どもがいたことは課題として残りました。今後は来場者数についてもデータ分析を行い、イベント準備にも活かしていきたいと考えています。また、調査で得られた結果をどのように具体的な企画へ反映させるか、活動の背景や意図を次の世代へどう伝えていくかも重要なテーマです。

本プロジェクトを通して、地域連携は即時的な成果を求めるものではなく、対話と実践を重ねながら関係性を育んでいく過程そのものであると学びました。今後もデータの活用と丁寧な関わりを大切にしながら、地域とともに活動を発展させていきます。



ガチャガチャを設置



学生はゆかた姿で参加



子どもの遊び場調査を実施



調査結果を分析し活用

地域の人と広がる輪 —TURF—

山科タンタンおもちゃライブラリー夏キャンプでの救護活動

- 学科名
救急救命学科
- 実施地域・場所
滋賀県大津市(近江舞子)
- 実施時期
2025年8月2日(土)・3日(日)
- 指導教員名
関根 和弘
- 参加学生数
6名

ハンディキャップのある子どもたちとの湖水浴における安全管理

「山科タンタンおもちゃライブラリー夏キャンプ」は、ハンディキャップのある子どもたちがボランティアとともに近江舞子浜で自然に触れ、楽しい時間を過ごすことを目的としたイベントです。本キャンプには子どもたちの家族も参加し、成長を実感したり、同じ立場の家族同士で交流したりできる点も大きな魅力となっています。



京都橋大学救急救命研究部(以下、TURF:Tachibana University Rescue Family)は、本イベントに救護ボランティアとして参加しました。ハンディキャップのある子どもたちが安心して活動できるよう、日頃の実習で培ってきた知識と技術を生かし、事前に危険を予測したうえで、より慎重な安全管理に努めました。当日は天候にも恵まれ、大きな事故やけがもなく、無事に湖水浴を終えることができました。関係者の協力のもと、子どもたちが笑顔で楽しむ姿を見ることができたことは、私たちにとっても大きな喜びとなりました。

医療者を目指す学生として

救急救命研究部TURFは、健康科学部救急救命学科や看護学部看護学科など、将来医療職を目指す学生で構成されています。今回の救護ボランティア活動は、医療職を志す学生にとって非常に貴重な学びの機会となりました。

日常生活の中でハンディキャップのある方々と関わる機会は少なく、当初は不安もありました。しかし実際に関わる中で、「ハンディキャップがあるから特別な対応をする」のではなく、一人ひとりの様子を丁寧に観察し、その人に応じた関わりをすることの大切さを学びました。湖水浴は楽しい反面、多くの危険を伴います。私たちが危険を予測し、安全管理を徹底することで、安心・安全な活動環境を提供できることを実感しました。

また、コミュニケーションにおいては、言葉だけでなく、声のトーン、表情、仕草といった非言語的な情報から相手の状態を読み取り、不安の軽減につなげることの重要性も学びました。今回の経験を踏まえ、来年以降も本イベントが安全に開催されるよう、個々の知識・技術の向上とチームとしての連携強化に努めていきたいと考えています。



地域を守る力を育む —防災サークルFASTの挑戦—

多学科の視点を活かした活動

- 学科名
救急救命学科
- 実施地域・場所
京都市山科区 等
- 実施時期
通年
- 指導教員名
大和田 均
- 参加学生数
108名

FASTの使命-京都橋大学の防災サークルの役割

京都橋大学防災サークルFAST(Fire And Safety Team・以下FAST)は、京都府内の大学生消防防災サークルで構成された「京都学生FAST」に参加しています。このネットワークは、京都府内13大学から成る京都府公認の学生ネットワークです。特に、本学のFASTは108名の部員が所属しており、地域防災訓練の参加や一次救命処置の講習などを行っています。2025年度は、健康科学部救急救命学科の学生に加え、同学部理学療法学科、総合心理学部総合心理学科、看護学部看護学科の学生が活動に参加し、多角的な視点を活かした幅広い防災イベントを行うことが可能となりました。



日付	イベント名	場所	実施内容
3月29日(土)・30日(日)	安心・安全防災キッズワークショップ	京都ファミリー(京都市右京区)	防災クイズ、避難経路の注意点レクチャー、ハザードマップの啓発
7月6日(日)	山階南学区BLS講習	山階南小学校(京都市山科区)	心肺蘇生講習
8月31日(日)	京都府総合防災訓練	京都府立海洋高校(京都府宮津市)	防災ボードゲーム作り・体験
9月27日(土)・28日(日)	大学生と一緒に楽しく学ぼう! ぼうさいワークショップ	京都ファミリー(京都市右京区)	お菓子作り、ローリングストックのワークショップ
11月1日(土)	京都市総合防災訓練	岡崎公園(京都市左京区)	傷病者役
11月2日(日)	あつまれ! 130人のリアル避難所体験!(学まちチャレンジ!プロジェクト)	寺戸公民館(京都府向日市)	避難所体験イベント運営、BLS講習
11月15日(土)・16日(日)	KYOTO TACHIBANA CUP	本学キャンパス内	ビーチバレー大会救護活動
11月16日(日)	大宅学区防災訓練	大宅小学校(京都市山科区)	BLS講習
11月23日(日)	山科区防災フェア	山科中央公園(京都市山科区)	油圧ジャッキを用いた倒壊家屋からの救助訓練指導
12月6日(土)	児童及びその家族の防災減災知識の向上と実習(小野学区自主防災会イベント)	小野小学校(京都市山科区)	新聞紙スリッパ・子ども防災バック作り、BLS講習、VR消火器体験
12月8日(日)	下京区総合防災訓練	梅小路公園 芝生広場(京都市下京区)	簡易トイレ設置
1月29日(木)	防災の授業(学まちチャレンジ!プロジェクト)	京都市立東総合支援学校(京都市山科区)	AEDの場所確認、段ボールベッド体験、新聞紙スリッパ・ペットボトルランタン・アルミイール電池作り、簡易トイレ設置

持続可能な活動 - 今後の活動に向けた展望

来年度は、今年度雨天中止となった「DAIGO防災ラボ!」というイベントを実施する予定です。このイベントは、京都市消防局と株式会社近藤防災とのコラボ企画であり、地域の会社や団体とのつながりを作り、防災意識を高めることを目指しています。さらに、今年度実施したイベントは継続的に進行予定です。今後、FASTがますます発展し、地域防災の輪が広がることを期待しています。



地域との豊かな連携を広げる —げんKids★応援隊—

教職・保育職をめざす学生の成長の場に

- 学科名
児童教育学科
- 実施地域・場所
京都市山科区
- 実施時期
2025年5月～2026年2月
- 指導教員名
荻原 彰
- 参加学生数
のべ100名(およそ)

充実の2025年度

げんKids★応援隊は2008年に結成され、今年度で18年目の活動となりました。今年度は約70名の新入生を新たに迎え、昨年度以上に活動規模を拡大することができました。その結果、地域の方々から多くのお声かけをいただき、さまざまなイベントに参加させていただきました。これまでデイキャンプや夏祭りなどの企画・運営で一緒に過ごしてきた勤修おやじの会の方々や、救急救命研究部TURFの方々とは、今年度も変わらず連携し、楽しみながらイベント運営に取り組むことができました。



七夕まつり

特に、部員主体で計画・実施した学内企画では、例年を大きく上回る参加申し込みがあり、活動の充実を実感する一年となりました。またこの1年間で、京都市文化市民局地域自治推進室の方々や、山科区外の自治団体の方々とお話しする機会を得て、げん Kids★応援隊の活動について広く知っていただくことができました。今後は、さらに多方面からのお声かけが増えることが予想されます。そのような中でも、子どもたちが安全に安心して楽しめる企画運営を大切に、より一層地域に密着したボランティア団体を目指して活動を続けていきます。

<多様な活動を展開>

前年度 3月	小野小勤修小交流会 meetus LABO!	6年生とのレクリエーションの実施 子ども向けブースの運営
前 期		
5月	つつじまつり	クイズラリー・乳幼児向けブース補助
6月	畑での収穫体験の実施等	避難所体験イベント運営、BLS講習
7月	勤修小学校キャンプ 七夕まつり	料理体験・ミニゲーム・キャンプファイヤー 遊びブース・制作ブース
後 期		
9月	勤修ふれあいの集い	飲食ブース・射的ブース補助
10月	小野幼稚園フリーマーケット	遊びブース補助
11月	華山寺イベント つなぐいとなみinかざんじ ふれあい“やましな”2025区民祭り	体験教室補助・遊びブース補助 子ども向けブース補助
12月	クリスマス会	遊びブース・制作ブース・ビンゴ大会(たちばなこども食堂と同時開催)

今後に向けて

山科地区を中心に地域の団体から声をかけていただく機会が多々あり、今後さらに活動の幅が広がると考えます。もちろん、そのぶん大変なことは増えると思いますが、教職・保育職をめざす学生たちの成長の場であり続けてほしいと思います。



勤修おやじ学校キャンプ



勤修夏祭り



京都橘大学医療系学科・京都薬科大学による合同多職種連携教育

大学の垣根を超えたチーム医療教育

- 学科名
看護学科・理学療法学科・作業療法学科・臨床検査学科・救急救命学科
- 実施地域・場所
本学キャンパス内(シミュレーションcommons)
- 実施時期
2025年11月4日(火)
- 指導教員名
松本 賢哉、中橋 苗代、小山 智史、菅沼 一平、高橋 純子、益満 茜、中村 竜也、小田桐 匡、関根 和弘
- 参加学生数
30名(ほか、京都薬科大学7名)

チーム医療を推進できる人材育成を目指して より多様な学科が参加可能な演習へ

京都薬科大学(京都市山科区)では、多様化・複雑化する患者対応においてチーム医療を推進できる人材の育成を目的に、多職種連携教育(IPE: Interprofessional Education)を実施しています。本取り組みは、2016年度に本学看護学科と京都薬科大学薬学科の2学科による連携から開始されました。以降、2019年度には理学療法学科、2021年度には作業療法学科が加わり、看護師・理学療法士・作業療法士・薬剤師の4職種の立場から、シナリオ事例に基づき、患者および患者を取り巻く生活環境の把握や適切な介入について議論を重ねてきました。



2025年度入学生からは、医療系学科が合同で学び合う「チーム医療科目群」が新設されました。これに伴い、今年度入学した学生が4回生となる時点で、これまで京都薬科大学と実施してきたIPEが必須科目として開講される予定です。その準備として、今年度は従来の枠組みを拡張し、救急救命学科および臨床検査学科を加え、より多様な学科が参加可能な事例へと改変し、IPE演習を実施しました。



演習では、独居高齢者が自宅で倒れているところを発見され病院へ搬送される事例を設定しました。限られた初期情報から臨床推論に基づき必要な検査を判断し、検査結果を踏まえて「患者に何が起きているのか」「今、何が必要か」を多職種で検討する unfolding case study を用いました。フェーズ1では入院前情報を中心に臨床推論を行い、フェーズ2では患者の生活背景や障害を踏まえ、より良い生活を見据えたりハビリ内容、生活環境調整、内服薬の検討など、退院支援に向けた議論を行いました。

フェーズ1には京都薬科大学薬学科、看護学科、救急救命学科、臨床検査学科が参加し、フェーズ2には京都薬科大学薬学科、看護学科、理学療法学科、作業療法学科が参加しました。演習の最後には、各フェーズでの検討結果を共有し、患者の搬送から退院に至るまで、多職種がどのように連携すべきかについて理解を深めました。



「ふるさとの光」発見プロジェクト 第5弾 京都版

地方新聞社連携プロジェクトで地域の魅力を発信

西日本6地方新聞社(北國新聞社、福井新聞社、京都新聞、神戸新聞社、山陽新聞社、中国新聞社)が連携して取り組む「ふるさとの光」発見プロジェクト—京都版—(特別協賛:JR西日本)の記者発表会が、2025年8月21日にホテルグランヴィア京都で開催されました。本プロジェクトは「ふるさと」の魅力を再発見し、その価値を広く発信することで地域の未来につなげることを目的としています。京都各地から選ばれた5名のうち、本学からは文学部日本語日本文学科3回生の阿部一輝さんと経済学部経済学科3回生の速水千愛さんが選定され、山科エリアの魅力を発表しました。阿部さんは毘沙門堂門跡や山科義士まつりを紹介し、学生団体「OS」橘での活動を通して感じた地域の温かさを発信しました。速水さんは琵琶湖疎水(山科疎水)や清水焼団地を紹介し、地域連携授業での学びと自身の体験を重ねて語りました。学生が地域の魅力を発信する貴重な機会となり、今後の学びや活動の広がりが期待されます。



京都各地から選出



阿部さん



速水さん

- 実施地域・場所
京都市
- 実施時期
2025年8月21日(木)
※記者発表日程
- 参加学生数
2名

洛和会ヘルスケアシステムとの連携 「洛和メディカルフェスティバル」

体験型企画と文化発信を通じて広がる地域交流

2025年10月26日、洛和会音羽病院および洛和会音羽リハビリテーション病院で開催された「第22回洛和メディカルフェスティバル」に、本学の学生団体「まちづくり研究会」と「OS」橘が参加しました。まちづくり研究会は、京焼・清水焼の箸置き絵付け体験や輪投げなど、子ども向けの体験ブースを出展し、地域の方々と交流しました。絵付け体験には幅広い世代が参加し、学生との会話を楽しみながら、それぞれが思い思いのデザインを描く姿が見られました。書道を通じて地域に文化の魅力を発信している「OS」橘は、書道ワークショップと書道パフォーマンスを実施しました。ワークショップでは、参加者が色紙に好きな言葉を書いたり、学生に書いてもらったりしながら、書に親しむ時間を過ごしました。書道パフォーマンスには小学生4名も一緒に参加し、学生とともに大きな紙に筆を走らせました。完成した作品を前に笑顔が広がり、会場は温かな拍手に包まれました。



書道パフォーマンス



まちづくり研究会 子ども向けブース

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 実施時期
2025年10月26日(日)
- 参加学生数
20名

産学連携イベント「Digital縁日」で 学生が研究成果を発信

地域のDX推進と人材育成に貢献する実践的な学び

2025年10月10日、日本新薬株式会社において開催された第3回「Digital縁日」に本学の工学部情報工学科、経済学部経済学科、大学院情報学研究科の学生・院生14名が参加し、オリジナル作品13点を展出了。本イベントは、日本新薬株式会社と第一工業製薬株式会社が共催し、地域におけるDX推進と次世代人材の育成を目的として実施されました。

当日は多くの地場企業が参加し、DX事例の紹介や生成AIを活用した業務改善アプリの体験、企業・学生・京都市が共に学ぶワークショップなどが行われました。展示ブースでは、本学学生・院生が作品開発の背景や活用した技術、今後の展望について来場者に説明し、企業担当者との間で活発な意見交換が行われました。参加学生からは、実用化や社会実装を見据えた視点での質問が今後の研究のヒ

ントになったとの声も聞かれました。本学にとって、地域産業と学びをつなぎ、実践的な力を育む貴重な機会となりました。



自らの作品を説明



学生の作品



院生の作品

- 学科名
情報工学科
- 実施地域・場所
京都市山科区
- 実施時期
2025年10月26日(日)
- 指導教員名
西出 俊
- 参加学生数
14名

コミュニティ・バンク京信山科支店との連携 「EXPO 酒場山科店」

先端技術の研究と実演で広がる地域との対話

2025年9月26日、コミュニティ・バンク京信山科支店で開催された「EXPO 酒場山科店」に、本学工学部情報工学科の教員と学生が登場しました。「EXPO 酒場」は、大阪・関西万博を契機に地域の未来について語り合い、新たなつながりを生み出すことを目的に、コミュニティ・バンク京信と一般社団法人demo!expoが連携して開催しているイベントです。今回はコミュニティ・バンク京信からの依頼を受け、本学も地域交流の一環として参加しました。当日は小野哲雄教授がAIロボット研究を紹介し、4足歩行ロボットの実演と操作体験を行いました。続いて、工学部情報工学科3回生の樋口雅裕さんと1回生の伴野元信さんが、自作のハンドベル自動演奏装置を披露し、会場との活発な交流が生まれました。山科区役所から地域活性化プロジェクト「meetus山科一醍醐」の紹介も行われ、大学と地域の相互理解を深める機会となりました。



小野教授



4足歩行ロボット



ハンドベル自動演奏装置



学生が披露

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 実施時期
2025年9月26日(金)
- 参加学生数
2名

たちばなサイエンスデー2025

大学の研究にふれてみよう

夏休みの児童向けイベント

本イベントは「大学の研究にふれてみよう」をテーマに2021年度から開催しており、毎年恒例のイベントとして地域の児童たちに多く参加いただいております。5回目となる本年は、初の試みとして課外活動団体によるブースを設け、下記の通り「まなびブース」計19ブース、「あそびブース」3ブースがそれぞれに趣向を凝らした内容で体験やものづくりを行い、のべ707名の児童に参加いただきました。

参加児童たちは好奇心に満ちた様子で、保護者の皆さまからは「先生方、学生さんの柔らかく落ち着いた言葉掛けで、安心して学びの機会を与えることが出来ました」「思ったより内容が濃く、親も楽しませていただきました」など満足のお声を多くいただきました。また、教員や学生にとっても、児童や保護者との交流を通して多くの学びを得ることができ、本学が「地域に開かれた大学」であることを実感できるイベントとなりました。

- 主催 京都橘大学 地域連携センター
- 実施地域・場所 本学キャンパス内
- 実施時期 2025年7月26日(土)
- 参加学生数 176名



【歴史学科】
昆虫図鑑作りでヘラクレスも登場

<出展内容>

まなびブース (15学科16ブース)	ドローン障害物競争～障害物を避けて1位をめざそう～	加藤 諒(工学部情報工学科 専任講師)
	あなたも小さな建築家！すてきな家屋を設計しよう	平井 良祐(工学部建築デザイン学科 助教)
	わくわく絵本の世界～絵手紙を書いて遊ぼう～	辻本 千鶴(文学部日本語日本文学科 教授)
	きみだけのこん虫図鑑を作ろう！	後藤 敦史(文学部歴史学科 准教授)
	図書館のテクノロジーを知ろう！ブックカバーを作って贈ろう	嶋田 学(文学部歴史遺産学科 教授)
	英語で1!2!数をマスターしてカレンダー作り	末澤 奈付子(国際英語学部国際英語学科 専任講師)
	目に見えない光！紫外線ビーズでプレスレットを作ろう	荻原 彰(発達教育学部児童教育学科 教授)
	甲骨文字でハンコやプレスレットを作ろう	池田 修(発達教育学部児童教育学科 教授)
	脳をダメす！？立体トリックアートをつくろう！	南波 英和(総合心理学部総合心理学科 助教)
	あなたはやりくり上手？カレーの材料を集めよう！	矢口 満(経済学部経済学科 教授)
	AIで経営ゲーム！君が会社の社長なら！？	多田 泰紘(経営学部経営学科 准教授)
	看護師になって体のサインを聴こう！～MY聴診器作り～	深山 つかさ(看護学部看護学科 准教授)
	ふしぎ！身体と頭のトリック体験	西本 和平(健康科学部理学療法学科 助教)
	指先王になれ！～ここからからだについて学んでみよう～	由利 拓真(健康科学部作業療法学科 助教)
	命を救おう！救急救命士の仕事を体験してみよう！	黒崎 久訓(健康科学部救急救命学科 准教授)
ハカセになってからだの不思議を調べよう	所司 睦文(健康科学部臨床検査学科 教授)	
まなびブース (課外活動団体4団体3ブース)	お茶を点ててみよう！飲んでみよう！茶道体験教室	裏千家茶道部
	たちばなにひびけ！こども音楽大作戦！！&和太鼓を体験しよう！	吹奏楽部、和太鼓部
あそびブース (学生団体3団体3ブース)	箏や三味線に触れてみよう！	箏曲部
	こども縁日～Learning as a Spontaneous process～	大学祭実行委員会
	胸骨圧迫をやってみよう	救急救命サークルTURF
	さまざまな遊びブース	まちづくり研究会



【建築デザイン学科】建築模型作り 【情報工学科】大人気のドローン障害物競走 【臨床検査学科】身体の不思議を学ぶ 【救急救命学科】命を救う仕事を知る

たちばなこども食堂パーティー2025

世代を超えた地域コミュニティ創造の場

多世代交流の地域拠点を目指して

「たちばなこども食堂」は、食を通じて対話を重ね、様々な世代が交流できる地域拠点となることを目的に、2022年度に開催を始め本年で4年目となりました。2023年度は山科区で活動している多くのこども食堂や地域の福祉に貢献している団体の活動を参加者に知ってもらうことで必要な支援が行き届くよう、地域のこども食堂にご協力いただき「こども食堂PRブース」を設ける取り組みを始めました。本年は昨年と同様に、「山科青少年活動センター」にご協力いただき、実際に地域でこども・親子向けに活動されている団体の皆さまにもブース出展の形でご参加いただくイベントとして開催いたしました。



多世代で交流が生まれました

地域のこども食堂等の団体や学生団体のブースを楽しんでいただきました

当日は「たちばなこども食堂」としてお弁当(1食300円)を約250名の来場者様にご利用いただき、「クリスマス仕様で見た目も可愛く、美味しかった」「こどもの好物が多くて喜んでた」という声をいただきました。同時開催の「げんKids☆応援隊」の「クリスマス会」とあわせ、以下のさまざまな「たちばなこども食堂パーティー」出展ブースも楽しんでいただくことができ、参加した地域のこどもたちと学生や地域の団体の皆さまが楽しく交流できるイベントとなりました。今後も地域の皆さまと連携しながら、地域に貢献できるよう活動を展開していきます。

<たちばなこども食堂出展ブース一覧>

■ 外部団体		■ 学生団体	
外部団体出展内容	団体名	学生団体等出展内容	団体名
アイスクリーム、焼き芋販売	やましな学園	風船パレー	看護学科 smile、経営学科大野ゼミ
射的、スーパーボールすくい	まちかど学舎	京焼・清水焼置き絵付け体験、ふわふわクリスマスツリー作り、竹灯籠作り	まちづくり研究会
ベビー・キッズ用品交換会	子育て応援サークル はざまカフェ	ハンドマッサージ	ママ・パパ応援！たちばなタッチひといきサロン
こども食堂PR、千本引き	子どもお弁当食堂 サンフラワー	運営ボランティア	こどもサポート研究会、看護学科・作業療法学科有志
わたがし販売	京都薬科大学 地域交流サークル ME-ME		



まちづくり研究会のブース まちかど学舎のブース こどもサポート研究会がお渡し

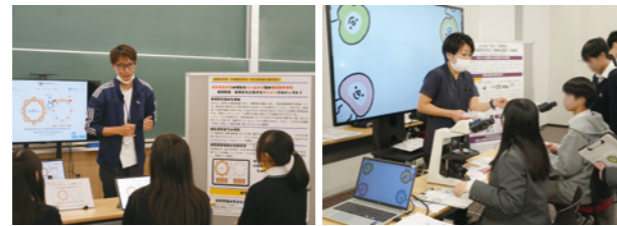
たちばな アカデミックセッション2025

中学生が大学の学びに触れる地域連携プログラム

- 主催
地域連携センター
- 実施地域・場所
本学キャンパス内
- 実施時期
2026年2月13日(金)
- 指導教員数
11名
- 参加学生数
9名

中学校と協働し、新たな学びの場を創出

本事業「たちばなアカデミックセッション」は、地域連携センターで初めての試みとして、日ごろから連携のある大宅中学校と協働し実施しました。企画内容は大宅中学校の教員の皆さまと協議を重ね、中学生が大学の研究や専門的探究に触れ、探究学習や将来の進路選択につながるよう構成しました。



大学の教員によるポスターセッション

会場全体はポスターセッション形式で展開され、ロボット操作、がん細胞の観察、振動刺激による脳反応体験など多様なテーマのブースを、中学生が自由に参加しながら学びました。本学学生がサポーターとして各ブースに入り、研究紹介や体験補助を担当しました。中学生たちは大学生や教員と積極的にコミュニケーションを取り、疑問を投げかけたり説明を受けたりしながら、学びを深める姿が多く見られました。

参加した中学生へのアンケートでは、「普段できない体験ができて楽しかった」「探究活動に役立つ内容が多かった」など前向きな声が寄せられ、興味・関心の広がりを感じられました。大学生にとっても、中学生へ分かりやすく説明する経験は、専門性を分かりやすく伝える力やコミュニケーション力を育む貴重な機会となりました。

1	情報工学科	小野哲雄 教授	テーマ ロボットが街にやってくる！人とロボットの共生へ向けて
			体験 4本足ロボットの操作体験
2	国際英語学科	山中香織 准教授	テーマ 人の「気持ち」や「やる気」は、安全への取り組みや仕事の成果にどう関係しているの？
			体験 モチベーションに関するO×クイズ
3	経済学科	牧和生 准教授	テーマ オタクカルチャーや推し活を経済学する！
			体験 オタク文化に関するクイズ
4	総合心理学科	田口恵也 助教	テーマ 優しい嘘が心の健康に影響を及ぼす過程
			体験 心を測る手法の体験(質問紙を使用した調査法の体験)
5	看護学科	工藤里香 教授	テーマ 赤ちゃんのこともっと知ろう！お腹の中の赤ちゃんはどうやって育てているの？お腹の中では何をしているの？
			体験 赤ちゃん人形を使った聴診・抱っこ体験
6	理学療法学科	西本和平 助教	テーマ 振動刺激が“あたまからだ”に与える影響とは？
			体験 振動で体を刺激すると、脳はどう感じる？を体験する
7	作業療法学科	田丸佳希 教授	テーマ 認知症高齢者の増加をくい止める為の機器開発研究 早期発見・早期介入に繋げる街づくりプロジェクト！
			体験 タブレットで認知症早期発見アプリ(ゲーム)を体験
8	臨床検査学科	所司睦文 教授	テーマ 脳の命令は身体へどう伝わる？ 磁気刺激でわかる運動神経路
			体験 磁気刺激で脳と筋肉の反応を観察するデモ体験
9	臨床検査学科 (※臨床工学科として参加)	高橋純子 教授	テーマ 病院の電力がストップすると今やっている手術はストップするの？ -臨床工学技士が支える「災害時のいのち」-
			体験 生命維持装置の操作体験
10	臨床検査学科	須賀淳子 専任講師	テーマ どんな“がん”の性格？ 検査を成功させる「検体の品質」の秘密
			体験 顕微鏡等を使って検査の流れを体験



大学の学びに触れる体験

醍醐中山団地 秋まつり (ミニ陶灯路)

7年の時を経て、醍醐に感動を。地域と人を灯す陶灯路。

- 実施地域・場所
京都市伏見区(醍醐中山団地)
- 実施時期
2025年11月1日(土)
- 指導教員名
大田 雅之
- 参加学生数
13名

地域の一員として暮らす中から生まれた協働のかたち

本学では、2015年から地域貢献の一環として京都市営醍醐中山団地と連携した取り組みを行っています。京都市から棟の1階部分を借り受け、「地域連携センター醍醐中山団地分室」を開設し、ここを拠点として、住民の皆さまとの交流活動を定期的実施しています。また、学生のシェアルームも併設し、清掃活動や季節ごとのイベントに参加するなど、入居した学生が団地の一員として日常的に交流することで、世代間の繋がり構築を推進しています。ご年配の方が多い団地においては、電球交換や樹木の手入れ、高所作業など、住民の方だけでは対応が難しい作業があり、清掃活動の際にお手伝いさせていただいています。こうした助け合いを積み重ねることで、学生と団地住民の方が支え合いながら団地を守っていく関係性が築かれてきました。この日常的な関わりが、今回の秋まつり実施の基盤となっています。



会場内の様子

想いを受け継ぎ、秋まつりと結びつけたミニ陶灯路

醍醐中山団地にて秋まつり(ミニ陶灯路)を開催しました。山科の伝統工芸である京焼・清水焼にあかりを灯す陶灯路は、本学まちづくり研究会が毎年7月にキャンパス内で開催していますが、ご年配の方が多い醍醐地域では来場が難しい方も少なくありません。そこで、過去に団地で実施された陶灯路の感動や地域の一体感を再び味わいたいという声を受け、毎年恒例の秋まつりにて7年ぶりに実施することとなりました。

多世代が安心して楽しめる空間づくりと連携の成果

当日は、ご年配の方にも無理なく楽しんでいただけるよう、座ったままでも陶灯路を鑑賞できる配置や、混雑を避けた回遊しやすい構成について、醍醐地区のまちづくり協働コーディネーターの方と相談しながら検討しました。また、ハロウィンの時期に合わせ、「オバケ吹き飛ばし」や「はてなボックス」といった子ども向け企画に加え、「手作り紅葉アート」といった季節感を取り入れた工作体験も実施しました。さらに、たこ焼きやポップコーン、アフタヌーンティーを提供し、世代を問わずゆっくりと過ごせる空間づくりにも取り組みました。加えて、本学吹奏楽部による四重奏のオープニング演奏では、参加者の方々の手拍子が自然と生まれ、会場全体に一体感が広がりました。陶器に映るあかりも美しく、多くの来場者に喜んでいただけました。本活動は、醍醐中山団地町内連合会のみなさまをはじめ、京都市、京都福祉サービス協会の方々のご協力により実現した貴重な機会であり、活動を通して、今後も地域活性に貢献していきたいと強く感じました。



陶灯路と多世代交流



吹奏楽部による演奏



ミニ陶灯路



はてなボックス

草津市との包括協定を基盤とした 広域保育者支援事業の展開

～本学の総合力を生かしたキャリアアップ研修と
滋賀県全域への安全管理対策推進事業～

- 学科名
京都橘学園 保育事業部
- 実施地域・場所
滋賀県全域・草津市・栗東市・大津市、京都市山科区
- 実施時期
2025年5月～2026年2月
- 担当教員名
梅本 裕、日比野 英子、吉葉 研司、別府 悦子、
田中 真紀、佐野 仁美、佐川 清美、佐敷 恵威子、
青木 美智子、前田 典子、堀 妙子、野口 佐弥香
- 参加保育者数
のべ650名

草津市から広域へー保育者支援事業の展開ー

2023年度から、学園と草津市との包括協定及びたちばな大路こども園との連携協定に基づき、乳幼児教育の充実と保育者支援を目的として研修事業を展開しています。子どものウェルビーイングの実現には、保育者一人ひとりの専門性向上が不可欠であるとの考えのもと、実践に直結する学びの機会を継続的に創出してきました。

2025年度はこれまで草津市との共催で実施してきたスキルアップ研修を発展的に再編し、「保育士等キャリアアップ研修」として体系化しました。マネジメント、障害児保育、幼児教育の三分野において、理論と実践を往還する連続講座を実施しました。講座では、保育者が日々感じている課題や悩みを焦点を当て、対話や演習を取り入れながら、明日からの保育に活かせる具体的内容を重視して実施しました。このような取り組みより、園種や立場を超えた学びが生まれ、地域全体の保育力向上へとつながったと考えています。さらに、今年度は対象地域を草津市から広域へと拡大し、栗東市、守山市、大津市や山科区など協賛を得ながら案内範囲を広げました。これにより、自治体の枠を超えた情報共有と意見交流が進み、保育者同士のネットワーク形成にも寄与できたのではないかと考えています。

		受講数	テーマ
マネジメント	京都橘大学 梅本 裕 名誉教授	22名	「チームで叶える理想の空間」～これからの保育マネジメントを学ぶ～
	発達教育学部 児童教育学科 佐川 清美 教授	16名	「チームで変わる」働きやすい環境デザイン
	発達教育学部 児童教育学科 前田 典子 助教	36名	「子どもの未来を拓く保育とは」～多様で豊かな出会いと育ちを可能にする保育とは～
障害児保育	京都橘大学 日比野 英子 名誉教授	24名	①「その子らしさ」を見つける視点～一人一人に寄り添う保育～
		25名	②「心をつなぐ発達支援と愛着障害」
幼児教育	発達教育学部 児童教育学科 田中 真紀 教授	36名	「幼児の運動遊び」～身近なもので広がる楽しい遊び
	発達教育学部 児童教育学科 佐野 仁美 教授	33名	「子どもの創造性を育むわらべうた遊び」～各年齢に応じた表現遊びの実践～
	発達教育学部 児童教育学科 佐敷 恵威子 教授	23名	「幼児小のなめらかな接続を目指して」 ～学びの芽生えから学びの架け橋へ、架け橋期カリキュラムを考える～
	発達教育学部 児童教育学科 青木 美智子 准教授	23名	「明日の保育に活かそう」～幼児教育・保育の指導計画、記録・評価～

また、滋賀県より委託を受け、本学の総合力を生かした講師陣による安全管理対策推進研修を実施しました。子ども家庭庁の方針等を踏まえ、「こどもまんなか」の視点から安全を再考する内容とし、子どもの安全教育や事故の未然防止、不適切な保育の防止と組織対応について学びを提供しました。保育現場に即した研修内容により、子どもの権利を基盤としての実践力向上を図ることができました。また、対面とオンラインとのハイブリッド研修にすることで、登録受講者も増加しました。今後も自治体との連携を基盤に質の高い研修機会を継続的に提供し、保育者支援を通じて乳幼児のウェルビーイングの向上と、持続可能な地域社会の形成に貢献していきます。

		受講数	テーマ
基礎研修	発達教育学部 児童教育学科 別府 悦子 教授	133名	子ども理解をもとに事故や不適切な関わりを防ぐ ～ガイドラインを踏まえた安全管理の基本～
科目別①	健康科学部 救急救命学科 野口 佐弥香 助教	22名	救急救命士が教える「プールや水遊びの事故防止と熱中症対策等について」
科目別②	発達教育学部 児童教育学科 吉葉 研司 教授	79名	「子ども自身が身を守る力をつける安全管理と事故防止対策」 ～子どもの主体性を育てる保育の観点から～
科目別③	発達教育学部 児童教育学科 別府 悦子 教授	90名	～そのかわり大丈夫？～
		20名	「子ども理解から始める不適切保育の予防と対応」その1&その2
科目別④	看護学部 看護学科 堀 妙子 教授	64名	「感染症と誤嚥・窒息予防の知識と実践」

強化クラブ幹部会による地域と 学生をつなぐ取り組み

クラブ横断の学生組織が生み出す主体的な地域連携と学び

強化クラブ横断で進める“学生主体の地域連携活動”

本学強化クラブ幹部会では、競技力向上にとどまらず、学生が主体となって地域と関わる機会を創出することを目的に、クラブ横断型の地域貢献活動を継続的に実施しています。2025年度は、地域清掃活動や商店街イベントへの出店など、日常的な地域との接点を重視した取り組みを展開し、学生が地域の一員として行動する意識の醸成を図りました。具体的には、山科地域での清掃活動や、山科縁日への出店を通じて、子どもから高齢者まで幅広い世代と交流する機会を創出しました。学生自らが企画・運営を担うことが、対外的なコミュニケーション力や協働意識の向上にもつながっています。



山科縁日

子どもたちの「体を動かす楽しさ」を支える交流型イベントの実践

2025年10月には地域の子どもたちを対象とした取り組みとして「たちばな大路こども園」との交流(運動会サポート)を実施し、学生が運営補助や交流を通じて幼児教育の現場を支援しました。また、2025年12月には、強化クラブ幹部会主催による「TACHIBANA FESTIVAL」をKYOTO TACHIBANA スタジアムにて開催しました。本イベントでは、サッカー部、女子バレーボール部(インドア・ビーチ)、弓道部、吹奏楽部、陸上競技部が連携し、地域の小学生に向けてスポーツ体験やミニゲームを提供しました。イベント終盤には吹奏楽部が演奏を行い、スポーツと音楽を融合させた本学ならではの交流の場となりました。

単発で終わらせない、幹部会主導の地域貢献モデル構築へ

これらの取り組みは、個別クラブ単位ではなく、強化クラブ幹部会がハブとなることで実現している点に特徴があります。学生幹部が中心となり、企画立案から当日の運営、振り返りまでを担うことで、活動が単発に終わらず、次年度以降への改善・継続につながる仕組みづくりを進めています。今後も、地域ニーズを踏まえた交流機会の創出と、学生の成長機会の両立を目指し、強化クラブ幹部会として組織的・継続的な地域貢献活動に取り組んでいきたいと考えています。



地域清掃活動



たちばな大路こども園との交流



TACHIBANA FESTIVAL

- 活動主体
強化クラブ幹部会
- 実施地域・場所
京都市山科区(本学キャンパス内
KYOTO TACHIBANA スタジアム)
- 実施時期
2025年(通年)
- 指導教員名
橋詰 広太郎(課外活動振興課)
- 参加学生数
のべ200名(おおよそ)

課外活動団体が創る 地域連携の実践

学生の表現力と専門性が地域とつながる多様な取り組み

学生の主体的な活動を通じた地域とのつながり

本学では、課外活動団体が主体となり、地域と連携した多様な取り組みを展開しています。2025年度は、子ども向け交流イベントや文化芸術活動、地域イベントでの安全支援など、学生の力を生かした地域貢献を各分野で実践しました。

子どもたちと笑顔でつながる交流イベント

山科区内の民間保育園との交流事業として「たちばなわくわく交流フェスタ」を京都市東部文化会館で開催しました。本イベントは京炎そでふれ！部が中心となって企画・運営を担い、和太鼓部、3X3部、吹奏楽部、大学祭実行委員会など複数の課外活動団体が参加しました。

当日は約500名の園児・関係者が来場し、迫力ある演奏やスポーツパフォーマンス、手遊び歌などを通して学生と子どもたちが直接ふれあいました。出演後はハイタッチで園児を見送るなど、世代を超えた温かな交流が生まれました。



京炎そでふれ！部の演舞



吹奏楽部と京炎そでふれ！部の共演



園児たちとの交流

音楽を通じた文化芸術の発信

吹奏楽部は、京都市および公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団が実施する「文化芸術活性化パートナーシップ事業」に採択され、京都市東部文化会館と連携した活動を開始しました。2025年5月3日には「京都橘大学吹奏楽部リクエストコンサート2025」を開催し、地域にお住まいの方の声を反映した演奏プログラムが大好評いただきました。今後もコンサートやワークショップを通じ、音楽の魅力を地域に届けていく予定です。



リクエストコンサート

専門性を生かした地域イベントでの貢献

救急救命研究部TURFは、医療系学部生を中心に構成され、年間約60回の救護活動や救急指導に携わっています。2025年8月には、京都ハンナリーズ主催の地域イベントにおいて救護活動ボランティアとして参画し、学生が培った専門性を地域の安全確保に生かす取り組みを行いました。

これらの活動は、学生が主体的に地域と関わりながら、実践を通じて学びを深めている点に特徴があります。今後も課外活動団体による地域に根差した取り組みを通じて、学生と地域がともに成長できる機会を創出していきたく考えています。



京都ハンナリーズイベント
救急救命研究部TURFと多世代交流

- 活動主体
課外活動団体(京炎そでふれ！部、吹奏楽部、和太鼓部、3X3部、救急救命研究部TURF、大学祭実行委員会ほか)
- 実施地域・場所
京都市山科区(東部文化会館、地域イベント会場等)
- 実施時期
2025年(通年)
- 指導教員名
課外活動振興課
- 参加学生数
のべ500名(およそ)

伏見区役所醍醐支所×京都橘大学 特色ある学習・体験プログラム創出事業

子どもたちを対象とした3DプリンタとLED電子工作の体験講座

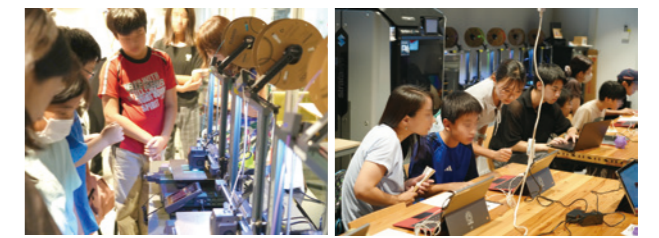
STEAM教育

今日、社会のあらゆる分野でAIやITなど新しい技術が活用されています。それに伴って、「科学」「テクノロジー」「エンジニアリング」「アート(リベラルアーツ)」「数学」を総合的に教えるSTEAM教育の重要性が世界中で認識されるようになり、日本政府もこれを推進しています。

STEAM教育にはさまざまな種類がありますが、3Dプリンタや電子工作は高い教育効果があると考えられています。そこで昨年度伏見区役所醍醐支所子どもはぐくみ室(以下、醍醐支所)と連携して「3Dプリンタ体験講座」を開催し、本年は「特色ある学習・体験プログラム創出事業」として、昨年度の内容を改善・発展させた2回の体験講座を開催しました。

昨年も好評いただいた「3Dプリンタ体験講座」

2025年8月に、本学のものづくりスペース「クリエイションラボ」の機材を用いて3Dプリンタ体験講座を開催しました。最初に原理を説明した後、クラウド型の教育用CADソフト(造形物を設計するソフト)を子どもたち自身が操作して自由に造形しました。その後、それぞれの名前を刻んだネームプレートを生徒の操作で出力し、子どもたちに見学してもらいました。



3Dプリンタ体験講座

新たな試み「電子工作体験講座」

2026年2月には、伏見区醍醐支所で開催された「だいが子育てオープンデイ」において、LED電子工作の体験講座を開催しました。アシスタントの学生や教員の指導のもと、子どもたち自身がLEDや抵抗などの電子部品をはんだ付けして組み上げました。最初に赤・緑・青の単色のLEDを用いた練習用の回路を組み立て、実際に点灯することを確認し、その後フルカラーLEDの回路を組み立てて点灯させました。フルカラーLEDの回路は小さなネジ回しで3つの調整部品の設定を変化させることによりさまざまな色の光を作り出すことができます。最終的に全員が回路を完成させ綺麗に光らせることができ、子どもたちは思い思いに色を変えて楽しんでいました。



電子工作体験講座

子どもたちの高い能力

3Dプリンタ体験講座では、CADソフトの基本操作を教えると、自発的にまだ教わっていないさまざまな機能に挑戦し始め、中には高度な機能を経験的に体得した子もいました。

LED電子工作では、初めて行う子どもたちも最初のLED回路を作った段階ではんだ付けに慣れ、以降は子どもたち自身でどんどん進めていきました。また、小さな部品の中には、カラーコードと呼ばれる本体に塗られた色の組合せでその部品の種類を示すものがあるのですが、いくつかの色について説明した時点で法則を見破り色の種類と組み合わせ方を覚えてしまった子もいました。

興味のあることに対して、とても高い能力を発揮して集中することができる子どもたちの様子に感銘を受けました。

- 学科名
情報工学科
- 実施地域・場所
本学キャンパス内、伏見区役所醍醐支所
- 実施時期
2025年8月20日(水)、2026年2月22日(日)
- 指導教員名
杉浦 昌
- 参加学生数
のべ12名

ダンチとフクシのミライを考える

8大学連携プロジェクト

- 学科名
建築デザイン学科
- 実施地域・場所
京都市伏見区(醍醐中山団地)
- 実施時期
2025年2月～2026年2月
- 指導教員名
平井 良祐、松本 正富
- 参加学生数
14名(松本ゼミ9名、TAP5名)

醍醐中山団地の空き住戸改修計画

京都市は、社会福祉法人京都福祉サービス協会及び市内8つの大学と連携し、各大学の教授・学生による特色あふれる住戸の改修、そして更なる団地の活性化を推進するプロジェクトを令和7年2月に開始しました。本学は山科区醍醐にある醍醐中山団地の1住戸が割り当てられ、2名の福祉職員が住む社宅に改修しました。醍醐中山団地は他2大学、西野山団地は他5大学がそれぞれ1住戸ずつ担当し、各大学で設計を進めていきました。



改修前の団地の様子

基本構想からプレゼンテーションへ

本学では、建築デザイン学科の松本ゼミの3年生9名とTAP(Tachibana Architecture Project)の有志学生5名が共同でアイデアを出し合い基本設計を進めていきました。実際に施工されるということから、教員は、学生たちのアイデアは尊重しつつも実現性も視野に入れながら学生たちのエスキスチェック(構想のチェック)を行いました。6月22日には社会福祉法人京都福祉サービス協会と京都市主催のもと、8大学合同でプラン報告会も行いました。学生たちが考えた設計を公の場で発表ができるという良い機会であり、さらに他大学の学生たちと設計に対するフィードバックや意見交換もでき、有意義な報告会となりました。



建築模型



報告会の様子

実施設計と現場監理の実践

詳細な設計やコストマネージメントは教員も手を差し伸べ、報告会の段階から少し計画を変更しましたが、11月から着工となりました。現場が始まると、実際に現場監督や職人と学生が積極的にコミュニケーションをとり、住戸内部解体後は予算に合う範囲内で、計画をさらに変更して工事を進めていきました。

現場では設計演習で行う設計とは違い、電気配線や排気ダクト、給排水管をどこのルートで通すかという現実的なことも一緒に考えました。また、仕上げで使う材料のサンプルも取り寄せ、実際に触って感触を確かめたり、現場で色合わせをしたり設計の細部まで取り組みました。解体後に既存躯体に合わせて決めたデザインのタイルは、ワークショップとしてタイル職人と一緒に学生が1枚1枚貼っていきました。実務設計の難しさと共に、現場の人たちと一丸となって設計したものが作られていくという楽しさも学生たちは感じられたと思います。



相談しながら施工を進めている様子

現場で学生が色決めをする様子

竣工写真(撮影:八杉 和興)

参考
「ダンチとフクシのミライをデザインする8大学連携プロジェクト」～市営住宅空き住戸を「福祉職員用住宅」に活用～住戸リノベーションプラン報告会の開催について
<https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000342391.html>(参照 2025/6/13)

長浜市田根地区の古民家改修プロジェクト

地域資源を活用するワークショップ

- 学科名
建築デザイン学科
- 実施地域・場所
滋賀県長浜市(田根地区)
- 実施時期
2025年
8月8日(金)・8月9日(土)
- 指導教員名
半海 宏一、平井 良祐、松本 正富
- 参加学生数
9名

自走可能で持続的なまちづくり「田根プロジェクト」

工学部建築デザイン学科の学生有志9名は、慶應義塾大学小林博人研究室が滋賀県長浜市田根地区で取り組まれている「田根プロジェクト」に参加して、古民家改修のワークショップを実施しました。「田根プロジェクト」は、長浜市内にある築125年の古民家を学生が毎年改修しているプロジェクトであり、現在は地域の活動拠点として交流する場所になっています。具体的には「田根地区で現在起こっている課題に対して、建築やまちづくりの視点から、地域資源を活かした改善策を考えるプロジェクトです。潜在的な田根のよさの発見と、新しい人やモノを取り込むことを通して、自走可能で持続的なまちづくりのシステムを構築する(小林博人研究室プロジェクト資料)」ことを目指しています。



地域住民と繋がる交流拠点の古民家

参考)・京都橋大学:地元高校生らと取り組む古民家改修プロジェクト
<https://www.tachibana-u.ac.jp/admission/faculty-contents/地元高校生らと取り組む古民家改修プロジェクト>(参照 2025/1/9)

地域資源を活用するワークショップ

今回のワークショップは長浜市にある滋賀県立虎姫高等学校の生徒と一緒に考えたアイデアを形にする内容でした。大学生は建築に関する専門知識やアイデアを形にする方法を手伝う役割として関わり、8月8日と9日の2日間一緒に活動しました。ワークショップは「田根地区に点在する地域資源を活用する」がコンセプトでした。各チームでアイデアを出し、地域のご家庭で不要になっている物を譲り受け、それらを新しい改修材料として活用しました。持続可能なまちづくりや循環型社会を目指していくこれからの若い世代にとって、改修材料が新しい資源として再認識できたこと、地域住民の方々と交流できたことは貴重な経験となりました。



炊飯できるように改修した釜戸

フィールドワークの経験とこれからの学び

2日間のワークショップでは多世代の人たちが関わり、地域住民、高校生や大学生、教員という垣根を越えて、古民家の拠点として交流することができました。一部の学生は実際に古民家に宿泊して一夜を過ごしました。現代の製品化された建築材料では感じるできない土壁の匂い、味わいのある古材の表情、風通しの良さなどを体感して、素朴な建築空間を肌で感じられる機会となりました。非常に短い期間でのワークショップでしたが、田根地区に滞在した学生からは「今後の大学での学びや課外活動に活かしたい」「地域とのつながりをもっと広げたい」という意見も多数寄せられました。今後も学生自身が主体的に考え自ら交流を深められる実践的な活動の場を展開していきたいと考えています。



みんなでアイデアを形にする様子

プロジェクトに取り組んだメンバー

地域の方々に作っていただいた昼食

駅ナカアートプロジェクト 「たちばなあるある-大学生の日常-」

学生が駅空間のアート企画・製作に挑戦

- 学科名
建築デザイン学科
- 実施地域・場所
京都市
(地下鉄柳辻駅、烏丸御池駅)
- 実施時期
2025年11月20日～
2026年1月26日
- 指導教員名
河野 良平
- 参加学生数
23名

「学・産・官」連携による駅のイメージアッププロジェクト

駅ナカアートは「学・産・官」が連携し、大学生のアート作品で駅を装飾し、地下鉄を活性化させるプロジェクトで、平成23年度に地下鉄開業30周年記念事業として3大学で初開催されました。平成24年度からは、駅のイメージアップによる地下鉄の活性化、「文化芸術都市京都」への寄与、「学・産・官」の連携と人材育成を主な目的としています。今年度は12大学が参加し、各大学の最寄り駅や烏丸御池駅での展示活動を行いました。



参加した学生たち

今年度の全体活動として、烏丸御池駅での清掃活動、御池ギャラリーでの本プロジェクトの紹介やSNS・駅デジタルサイネージでの発信を見据えたメイキング動画を作成しました。活動期間は11月下旬から2か月ほどで、別プロジェクトである四条通地下道アート展「Art Under The Shijo」の展示期間と連動しました。プロジェクトの流れは5月に実行委員会、ワーキンググループ会議が催され、事業計画・予算・テーマなどを決定しました。8月(オンライン)と10月(対面)に、参加大学による作品構想意見交換会を行い、学生による発表と参加企業や教員らと交えた意見交流会を実施しました。12月には感謝状の贈呈式とジョイントミーティング(参加大学による作品プレゼンテーション)が開催され、1月下旬には作品を撤去し、展示期間が終了しました。後日、今年度の作品を掲載したパンフレットが作成され、3月に会計監査報告があり、ワーキンググループと実行委員会解散の予定です。

「学生生活あるある」をテーマに 作品を展示

本学は最寄り駅である柳辻駅構内と烏丸御池駅の作品を担当し、建築デザイン学科2回生河野ゼミの23名が「建築プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」の一環として参加しました。作品のタイトルは「たちばなあるある-大学生の日常-」で、学生生活における「あるある」を参加学生による絵画的な作品として制作しました。身の回りで起きたあるあるやほっこりしたエピソードをイラスト風のドローイングと吹き出し調のセリフで表現しました。制作過程では、エピソードに合わせた写真を撮影し、それをもとにイラストを描くところから始めました。それを下敷きとしてスチレンボードにアクリル絵の具で着色したパーツを各自が制作し、全員の作品をまとめて大きな画面構成(幅3.6m高さ1.8m)となるようデザインしました。表面にはレジンを流し込んであり、硬化後にカラフルな油性マーカーで日本語と英語のセリフを付け加えました。



事例報告



写真取込



ドローイング



背景制作



レジン流込み

新発見の前方後円墳を探究する

京都橘大学・亀岡市による共同調査

- 学科名
歴史遺産学科
- 実施地域・場所
京都府亀岡市
- 実施時期
2025年8月～9月
- 指導教員名
小嶋 篤
- 参加学生数
12名

「未知の前方後円墳」との遭遇

京都府・亀岡市の遺跡分布調査により、2025年5月に新たな前方後円墳「北ノ庄平林古墳」が発見されました。亀岡市との共同調査を進めていた歴史遺産学科では、新発見となる前方後円墳の重要性を鑑み、同年8月より遺跡の現況把握調査に着手しました。

2025年度までの調査により、北ノ庄平林古墳が「全長約70mの前方後円墳であること」、「古墳がつくられた時期が4世紀であること」などが判明してきました。亀岡盆地ではこれまで4世紀以前にさかのぼる前方後円墳の存在は確認されておらず、地域の歴史を読み解く上で欠かせない遺跡であると評価できます。2026年度以降の調査でも、新たな発見と出会うことが大いに期待されます。

「歴史研究の最前線」に挑む

歴史遺産学科の学びは、卓上の勉強のみでは不十分です。国民共有の財産である「文化財」の調査研究・保護活用のプロフェッショナルとなるには、「遺跡＝現場」に立ち、「遺跡がもつ情報を読み解き、記録し、発信する力」を身に付ける必要があります。とくに、今回調査に着手した北ノ庄平林古墳は、これまで未発見であったことから、遺跡の情報は完全に「白紙の状態」にありました。未知の遺跡、しかも地域史を塗り替える価値をもつ遺跡の調査は、まさしく「歴史研究の最前線」です。学生自らがこの最前線に挑むことで、大学で学んでいる知識・技術を実践し、その有効性の実感、あるいは各自の課題を見出すことができるのです。

チームワークで乗り越える

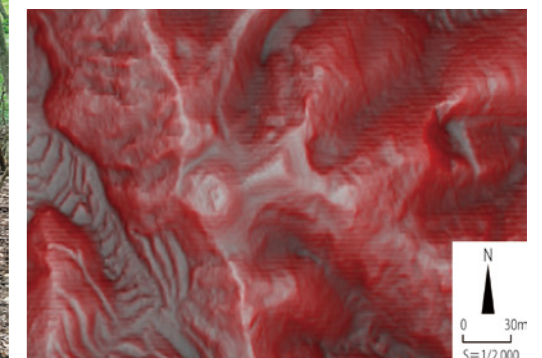
北ノ庄平林古墳は墳丘規模も大きいですが、山頂尾根を占拠する形で広大な墓域も有しています。このような大規模遺跡を調査研究するには、「チーム」としての組織力が求められます。学生は「どのような人員で、どのような機材を用いるのか」といった調査計画を立案して、調査に挑みました。野外での調査研究では、天候や野生動物等の自然条件も加わるため、調査計画は予定通りには進みません。実際の調査の中でアクシデントに対応する中で、臨機応変に対応する力・計画修正能力の向上につながりました。



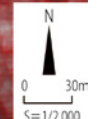
学生による現況把握調査



学んだ技術の実践



新たに発見された北ノ庄平林古墳



「幻の城」坂本城跡の 水中考古学的調査

琵琶湖にてダイビングによる潜水調査を実施

- 学科名
歴史遺産学科
- 実施地域・場所
滋賀県大津市(坂本城跡)
- 実施時期
2025年7月～11月
- 指導教員名
南 健太郎
- 参加学生数
22名

滋賀県大津市との共同調査

本学と滋賀県大津市は2023年に「大津市内中世遺跡詳細分布調査に関する覚書」を交わし、大津市内に所在する戦国時代の城跡に関する調査を共同で進めています。大津市の城の中でも坂本城跡は明智光秀が築いた当時の最高ランクに位置づけられる城であり、江戸時代に一気に花開く城づくりの技術的なルーツを探る上で極めて重要な遺跡とされています。しかしその実態は長らく不明瞭で、琵琶湖の底に残されたわずかな石垣のみが現在地上に露出する唯一の城の痕跡となっていました。そこで本学が得意とする水中考古学の技術を活かし、坂本城跡の全体像を解明するための湖底遺跡の調査を行うことになりました。



琵琶湖での測量調査

調査の狙い

これまでの調査では坂本城跡の沖合に列状に並んだ石材や、湖底に敷き詰められたような礫群が残存していることが確かめられていました。また、たくさんの戦国時代の食器や調理具、貨幣などが見つかり、これらは城で使用されていたものが廃棄された跡であることがわかりました。そこで2025年度は地形の調査から、なぜ沖合にこれらが存在するのかを考えることにしました。またダイビングによる潜水調査から、湖底の地形変化を視覚的に捉えることを試みました。

今年度の実績

2025年の夏は歴代最高の猛暑とも言われ、調査中は水中といえども熱中症との闘いになりました。特に湖岸での地形の測量は日差しを遮るものがない状態でした。このような中でも、学生たちは熱中症対策を自ら考え、日傘を携帯しながら測量を行うことでなんとか調査を進めることができました。また水温の上昇によって水質が悪化し、水中では20cm先も見通せないほどの状態でした。このため、ダイビング時はペアが離れ離れにならないようロープでお互いを繋ぐという工夫をし、安全・円滑に調査ができるように心がけました。

このような努力が実り、調査終了時には詳細な地形の記録作成を完遂することができました。湖底の地形にはアップダウンがあることがわかり、地形変換点と湖底の石の有無の境目がリンクしていることがわかりました。このことから石は自然に堆積したものではなく、計画的に配備されたものである可能性が高まりました。水中考古学の調査によって坂本城跡の実態解明に一歩近づくことができました。



ダイビング調査の準備



水中の石垣の計測



測量図のチェック



猛暑中での測量

山科警察署員向けの英語講座

国際英語学科による教員・学生協働型の地域貢献活動

- 学科名
国際英語学科
- 実施地域・場所
本学キャンパス内
- 実施時期
2026年1～2月
- 指導教員名
早川 有香、コネリー、クリストファー、
アーミティジ、クリスティン、大澤 康二、
ゲツ、パトリック
- 参加学生数
8名

英語コミュニケーション力向上のための講座を実施

国際英語学部では、2017年度より山科警察署員を対象とした英語講座を実施しています。国内外から京都・滋賀を訪れる観光客数が急速に増加する中で、京都駅からのアクセスも良く、多くの観光スポットを有する山科地域に所在する同署においては、様々な場面で英語を用いた対応が求められています。

こうした状況を踏まえ、本講座では同署員の方々が心理的な障壁なく英語を用い、業務においてスムーズな状況把握や情報収集、当事者への対応等が可能となるよう、一般的な英会話スキルを向上させることを目的として実施しました。2025年度は、2026年1月から2月までの期間に、計4回(100分/回)実施し、延べ20名の方々にご参加いただきました。

講座では、全受講者が英語習得レベルに関わらず主体的に参画できるための工夫として、取り組みやすいテーマを設定し、会話アクティビティを中心に構成しました。アシスタント学生と講師が英語での表現方法や会話中におけるポイント等について個別にアドバイスをし、気兼ねなく参画できる環境を作り出した結果、受講者からは、「英語でのコミュニケーションの楽しさを改めて感じた」「先生も学生アシスタントもとても気さくで、すぐに緊張がとけて参加しやすかった」「今後の業務で今日の学びを積極的に活用していきたい」等の好評を得ることができました。

本活動を通じた学生の学び

講座では、本学部の3回生8名がアシスタントを務め、ディスカッションの活性化や講座のスムーズな進行に貢献しました。1年間の留学を終えた3回生にとっては、自らの英語力を運用する能力や、コミュニケーションスキル等の向上のためのアウトプットの機会として、意義の高い活動となっています。

アシスタント学生は、教員との事前打ち合わせにも積極的に参加し、淀みなく英語フレーズを話すための準備を入念に行った上で、当日に臨みました。アシスタントとしての自覚をもって講座の運営に携わることで、英語でのコミュニケーションを楽しみながらも、地域社会の一員として地域課題へどのように向き合うかを思考する貴重な学びの機会となりました。



講座の様子



コドモにマナブ

子どもと遊ぶ実践力を子どもから学ぶ

- 学科名
総合心理学科
- 実施地域・場所
京都市
(社会福祉法人美樹和会)
- 実施時期
2026年2月～2026年3月
- 指導教員名
大久保 千恵
- 参加学生数
42名(のべ)

子どもと遊ぶ実践力に着目した活動

本学総合心理学科の学生の中には、公認心理師・臨床心理士や児童指導員など、子どもと関わる専門職をめざす学生がいます。また、ボランティアやアルバイトなどで子どもをサポートしている学生もいます。発達心理学をはじめとした多くの授業では子どものことについて学んでいますが、実際に子どもに接することができる授業はありません。そこで、2024年度から子どもに遊んでもらい、子どもと遊ぶ実践力を磨く「コドモにマナブ」を開催してきました。



子どもに学ぶ子どもとの遊び

「コドモにマナブ」は、社会福祉法人美樹和会様のご協力を得て実施しています。2025年度の活動では、まず、美樹和会の心理士の先生から、子どもと遊ぶ際のポイントや気をつけることなどについてのオリエンテーションを受けました。オリエンテーションでは、緊張気味の学生をリラックスさせるようなアイスブレイクも取り入れて下さいました。学生の緊張がほぐれたのちに、保育園のお子さんたちの歓迎を受け、楽しく遊んでもらいました。保育園には5回うかがい、子どもたちから子どもと楽しく遊ぶ秘訣を伝授してもらいました。また、学生が「じゃんけん列車」「はんかちおとし」「宝探し」などを企画して子どもたちと楽しく遊ぶこともしました。

活動を通しての学生の学び

「コドモにマナブ」に参加した学生からは、「今回は参加しないと体験できないことが沢山あった。自分で考えて友達と協力していたり、周りをみて水筒を渡してくれたりして、自分が想像していた子どもよりもとても賢いと感じた。」や「おもちゃを使わなくても、石で遊び始めたり、草で遊び始めたり、走っていたら急におにごっこのような遊びがはじまったりと、遊びの明確な開始がわからないまま気づけば遊びになっているということも多々あった。子どもって本当に遊びの名人だなと思った。おもちゃを使わない遊びの見つけ方を学んだ。」などの感想が聞かれました。

授業での学びに実際に子どもと遊ぶ体験が加わることによって、子どもの発達や子どもの世界観などについての理解を深めることにつながったようでした。



オリエンテーション



はんかちおとし



じゃんけん列車

イオンタウン山科榎辻店の来店者調査で地域貢献

「マーケティング調査演習」における実践的教育

- 学科名
総合心理学科
- 実施地域・場所
京都市山科区
(イオンタウン山科榎辻店)
- 実施時期
2025年11月1日(土)
- 指導教員名
藤原 勇
- 参加学生数
11名
(うち2名は通信教育課程)

まちづくりへの貢献を意識した来店者調査

本学は2014年12月に滋賀県草津市と包括協定を結び、さまざまな地域連携活動を展開してきました。その活動の一環として、総合心理学部総合心理学科「マーケティング調査演習」の授業でも、草津のさらなる活性化に寄与することを目的に、草津駅東口付近で来街者調査を実施してきました。こうした経験を本学の地元である山科に還元するため、2019年11月に連携・協力に関する協定を締結したイオンタウン山科榎辻店でも、2020年から定期的に来店者調査を実施してきました。

今年度は、イオンタウン山科榎辻店の北口と東口の2箇所に拠点を設置し、調査を実施しました。本調査の分析結果は、イオンタウン山科榎辻店の関係者を交えた報告会で共有しました。イオンタウンでは経営理念として「地域とのつながり」を生む空間づくりを掲げていることから、本調査の結果をイオンタウン山科榎辻店に還元することで地元山科に住む方々への地域貢献につながると考えます。

社会調査法に基づいた実査

本調査を実施した「マーケティング調査演習」は3回生の後期開講科目であり、社会調査法や心理統計、幅広い心理学科目の学習を積み重ねた上で受講し、それらを実践的に活用する演習科目です。

今年度の具体的な活動概要と成果は次の通りです。

- 9月から調査実施までに、調査概要や過去の調査事例の紹介、社会調査法の振り返りなどを実施。その上で、調査の告知ポスターのデザインを工夫する班や調査の方法や質問項目の設計を検討する班などに分かれ、実査に向けて活動。
- 11月1日にイオンタウン山科榎辻店で、学生が調査員として来店者に声をかけて調査協力を依頼し、同意を得て、調査票を用いた面接調査を実施。今年度は合計105名の回答を得た。
- 調査後、統計解析ソフトウェアを用いた量的・質的データの分析や調査結果の報告会に向けたプレゼンテーションの準備を実施。
- 翌年2月2日にイオンタウン山科榎辻店の関係者を交え、本学にて報告会を実施。さらに、報告した調査結果をもとにイオンタウン山科榎辻店の関係者と意見交換。

これらの活動を通して、学生たちは社会調査法や心理統計などの知識を実践的に学び、地域や社会にどう貢献するかを直に経験することができます。加えて、調査票の項目設計や分析、報告会などはグループワークが中心になるため、作業を通して協調性やコミュニケーション・スキルを磨くことにもつながります。



調査風景



調査の告知ポスター作成



報告会の風景

〈アースダイブ〉実証実験！ 地域の魅力調査

与謝野町におけるフィールドワーク

アースダイブとは？

〈アースダイブ〉は、2026年度から本学経済学部経済学科に新設される現代社会専攻のキーコンセプトです。この言葉は地球上のあらゆる現場に深く入り、真理を探究する学びの姿勢を象徴しています。経済学のみならず社会学・地理学・歴史学・文化人類学など多様な学問分野を横断しながら、教室を越えて現場に身を置き、現代社会の課題に向き合うことを重視し、それが特色となります。

たとえば、学生自身が人びとのくらしの基本単位である地域に潜り込み、試行錯誤を通じて問題の発見や解決の道筋を探り当てる、主体性と創造性を育むアクティブ・ラーニングです。



アースダイブ始動

アースダイブの実践:フィールドワークからの学び

今年度は、アースダイブという新たな学びの導入に向けた実証的な取り組みとして、与謝野町をフィールドに学生による実験的調査を実施しました。5名1組・4班集体で、岩滝・野田川・加悦の旧町村に分かれて、それぞれのグループが徒歩や自転車で巡りながら、観光資源や地域の魅力を探りました。

ゼミや学年を横断した構成としたことで、学生同士の新たな交流も生まれ、自由度の高い行動を通じて地域住民との対話や聞き取りにも積極的に取り組むことにつながり、充実した調査実習となりました。

デジタルツール活用の模索:今後に向けて

調査の記録・共有には、ArcGIS OnlineのSurvey123を活用し、位置情報とともに写真やコメントを蓄積する手法を使いました。その結果、4班集体で50か所以上の情報を収集することができ、発見した内容を可視化しながら、議論につなげる環境を整えることにもつながりました。

学生にとっては、日常とは異なる視点で地域を捉える貴重な機会となり、デジタル技術を用いた地域調査の可能性を体感することができました。こうした成果を関係主体と共有しつつ、今後の円滑なフィールドワーク運営と、より発展的なアースダイブの実践につなげていきたいと考えています。



発見したポイント(加悦周辺)



寸評	昔ながらの機織り機を見せてもらった。実際の織っている音を聴かせてもらった。
名称・名前	ちりめん織機 展示・実演場

写真とコメントの例

- 学科名
経済学科
- 実施地域・場所
京都府与謝郡与謝野町
- 実施時期
2025年11月22日(土)
- 指導教員名
前田 一馬、小山 大介
- 参加学生数
18名

地域中核企業(事業者)の地域内経済 循環分析調査プロジェクト in 与謝野町

農業を出発点とした雇用・所得創出と第三セクター企業の役割

プロジェクト実施の経緯

本学経済学部経済学科の教員は、京都府与謝野町で地域経済分析調査や政策提言を継続的に行っています。この連携の成果は、2023年10月の本学地域連携センターと与謝野町との地域経済分析や人材育成についての覚書締結として結実しています。そして、今でも経済学科所属教員・学生を中心として調査・研究活動、地域理解実習が行われています。2025年度には、京都府の「京都未来人材育成プロジェクト」事業補助金を活用し、与謝野町産業観光課とタッグを組んで、地域中核企業の地域経済における貢献度を「見える化」する取り組みを進めています。



与謝野町加悦庁舎前で記念撮影



与謝野町を高台から望む

農業と企業を結び付け地域付加価値を生み出す

与謝野町は、京都府北部に位置し「農業と織物のまち」として知られ、特産品の「丹後ちりめん」、「京の豆っこ米」は高いブランド力を有しています。しかし、地域の高齢化や人口減少などが進んでおり、地域経済の再活性化が課題となっています。

そのため、町では地域内経済循環の促進に力を入れており、町内産の米を加工し、出荷する第三セクター企業として株式会社加悦ファーマーズライスが設立されています。調査プロジェクトでは、地域調査や実習を経験した学生が加悦ファーマーズライスの地域経済における雇用・所得創出効果の分析を行いました。

地域視察と現地調査

プロジェクトでは、統計データや産業振興計画などを事前に分析、把握した後、現地視察とヒアリング調査を実施しました。また、町に設置されている産業振興会議に学生がオブザーバー参加することによって、地域経済、産業への理解を深めました。

2025年11月にはプロジェクトに参加している教員・学生が現地でヒアリング調査や地域視察を行い、貴重な統計データの入手や農地の状況把握につとめました。また、与謝野町役場と密接に連携し地域経済や産業に関する情報共有を行いました。この成果をもとに統計データ分析を進めるとともに、GIS(地理情報システム)を活用し、統計データの可視化を実現しています。

教育的効果と今後の展開

参加学生は、統計分析、ヒアリング調査、役場職員との交流などを積極的に行っており、座学では学ぶことのできない貴重な経験を積んでいます。また、成果報告を京都府主催の報告会や与謝野町で行うなど教育的効果の高い地域連携となっています。今後も連携の幅を広げ学生とともに地域に貢献していきたいと思ひます。



ヒアリングの様子



与謝野町役場での歓談風景



農地での体験

- 学科名
経済学科
- 実施地域・場所
京都府与謝郡与謝野町
- 実施時期
2025年7月~2026年3月
- 指導教員名
小山 大介
- 参加学生数
7名

ナリシグフードプロジェクト 「橘茶膳」の実施

「健康夜食」をテーマにメニュー開発やイベントをプロデュース

- 学科名
経営学科
- 実施地域・場所
京都市山科区
- 実施時期
2025年
10月21日(火)・22日(水)
- 指導教員名
木下 達文
- 参加学生数
16名

共同研究プロジェクトの概要

本学経営学部経営学科の木下ゼミでは、前身の現代ビジネス学部時代より卒業研究とは別に共同研究プロジェクトを実施しており、座学と実践学とをバランス良く学習しています。今回のテーマは、いくつかの事業企画の中から「健康夜食」というテーマが選定され、日頃学生が夜に外食で食べられるメニューはジャンクフード的なものばかりで、しっかりと栄養をとれるメニューが少ないという点がクローズアップされました。そこで、まずは大学のある山科地域における外食産業の調査を行ったのち、最寄り駅である柳辻駅エリアの飲食店と連携して、少しでも栄養価が高まるようなセットメニューやシメの「お茶漬」のメニュー開発を行い、2日間の実験的なイベントを行いました。



完成したオリジナルのお茶漬

取り組みの経緯や狙い

本共同研究プロジェクトの狙いは、企画から制作までの研究実践活動を通じて、社会人基礎力を向上させるとともに、実社会で役立つ基本的なビジネスの知識やノウハウを体験的に学ばせることです。学生が自らテーマを決め実施する方法をとっており、ゼロベースから企画・研究・制作を行うことから「クリエイティブ・ラーニング」と称しています。また、最終的な成果は、実社会でも通用するレベルのクオリティを目指しており、社会的な評価を得られることも目標としています。

具体的な成果と実績

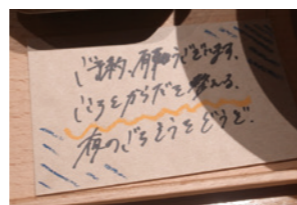
木下ゼミでは、所属する4回生の学生16名が、「ナリシグフードプロジェクト」を立ち上げ、2023年9月から活動をしてきました。具体的には、2024年の3回生時に山科区内の飲食店調査を実施した上で、その情報を「食と出会うYAMASHINA」という冊子に編集しました。2025年は、プロジェクト組織としてメニュー開発・空間開発・広報の3チームを編成し、それぞれが具体的な展開を行いました。プロジェクトのコンセプトとして、「栄養を与える」「育てる」という意味を持つ英語「ナリシグ(nourishing)」をベースにし、メニュー開発対象を「お茶漬」としました。最終的に、お店の既存のコースメニューの改善提案を行うと同時に、栄養価の高いナリシグフードとして開発したお茶漬を「橘茶膳」と名付けて提供しました。試作段階で専門の栄養士に栄養価分析をしていただくなど、可能な限り現代人に不足しがちな栄養が補えるような工夫を施しました。また、プロジェクトの集大成として、2025年10月21日(火)・22日(水)に、大学近くの居酒屋・渋屋柳辻本店においてメニュー公開のイベントを実施しました。イベントでは、ナリシグフードやお茶漬に関するクイズや、チェキ撮影、思い思いに記入してもらう感想ノートの設置など、食べるだけでなくナリシグに対する理解を促進させる工夫も行いました。2日間で合計67人が来店し、盛況のうちに無事終了することができました。



会場となった渋屋柳辻本店



お茶漬制作の様子



提供する祭のメッセージカード



イベントの様子



2024年度に編集制作した冊子



感想ノートの表紙

高齢者の孤独死を減少させる ための交流の場づくり

心身の健康維持と生活意欲の向上

- 学科名
経営学科
- 実施地域・場所
京都市伏見区(醍醐南団地)
- 実施時期
2025年11月15日(土)
- 指導教員名
大野 宏之
- 参加学生数
5名

「高齢者の社会的孤立」に着目した地域交流活動

本活動は、高齢化の進行に伴い深刻化する高齢者の社会的孤立に着目し、孤独死の予防につなげることを目的として実施した地域交流活動です。今回の活動では、株式会社カナエル、醍醐いきいき市民活動センター、伏見区地域支え合い活動創出コーディネーターと連携し、高齢者が無理なく参加できる交流の場を企画・運営しました。

活動では、運動・交流・地域参加を組み合わせることで、人と人とのつながりが自然に生まれる場づくりを行いました。具体的には、地域支え合いに関する講義を通じて高齢者支援への理解を深めた後、メイン企画として座ったまま参加できるエアロビクスを実施することで活動目的への取り組みを行いました。



高齢者の孤立という課題認識から取り組みを開始

日本では、一人暮らし高齢者の増加により、地域や社会との関わりを持ちにくい状況が広がっています。こうした孤立が孤独死の一因となっていると考えられることから、単なる支援ではなく、継続的な交流が生まれる仕組みづくりが必要だと考えました。そこで本活動では、地域団体や企業と連携し、高齢者が「参加しやすい」「続けたい」と感じられる場を提供することを目的として取り組みを開始しました。特に、エアロビクスなどの軽運動を通じた交流は、心身の健康維持と参加意欲の向上の両面に効果があると考え、企画の中心に据えました。

参加しやすさを重視した運営による成果と学び

- 工夫した点**
 - 座席中心のプログラムにより、体力差のある高齢者でも参加しやすい内容とした
 - 運動・食事・物々交換会を組み合わせ、自然な交流が生まれる構成とした
- 苦労した点**
 - 高齢者の体調や安全面への配慮
 - 運動が苦手な方にも楽しんでもらうための進行方法

本活動を通じて、高齢者の社会的孤立に対しては、支援を「与える」だけでなく、人と人が自然につながる場を持続的に提供することが重要であると実感しました。



実践から学ぶ！ アントレプレナーシップ

カフェプロジェクト:Partage

- 学科名
経営学科、経済学科、
建築デザイン学科
- 実施地域・場所
京都府京都市、宇治市
- 実施時期
2025年4月～2026年3月
- 指導教員名
山野 薫
- 参加学生数
16名

活動のコンセプトとこれまでの取り組み

この活動は、アントレプレナーシップ*を実践的に育む教育プログラムのひとつとして、2023年度より行っているものです。有志学生が主体となり、学内を中心にテイクアウト専用のコーヒースタンドを運営しながら、事業計画の作成や店舗運営、マーケティング、会計などについて学びます。実際にビジネス経験を積みながら自身のキャリアを考えることや、アントレプレナーシップを獲得することが目標です。学科学年横断的にメンバーを募集し、今年度は経営学部経営学科、経済学部経済学科、工学部建築デザイン学科の1～4年生、16名が参加しました。

日頃は、「学内で過ごすすべての方々と笑顔・時間・繋がりを共有したい」というコンセプトのもと、レイアウトを工夫した店舗を構え、学内でこだわりのドリンクと交流の場を提供しています。オープンキャンパスやホームカミングデー、たちばなサイエンスデーなどのイベント時には、来場者へ、ひと息つける空間を提供するとともに、「今の京都橋大学生の姿」としても知っていただけるように心がけています。

*アントレプレナーシップ：「起業家精神」と訳されることが多い。変化の激しい社会において、リスクや困難に立ち向かい、課題解決に向かってチャレンジすることや、新たな価値を生み出していく精神・姿勢のことを指す。

活動の場を学外へ拡大し、さらに深い学びを目指す

今年度は、本活動を学内だけのものにとどめず、学外の方々にも京都橋大学における活動のひとつとして知っていただくことも目指しました。6月と12月には「LOVE EARTH MARKET」(宇治市)、8月には「平安NEOマルシェ」(京都市左京区)、11月には「輪・和・話フェス」(京都市下京区)といったイベントに出店し、日頃は接する機会の少ない地域の方々や同様の活動を行う他大学の学生とも交流を深めました。

さまざまな方が集まる地域のイベントへ出向いていくことで、普段とは異なるコミュニケーション能力が求められることや、客層の違いが利益率にも大きく影響すること、自分たちの存在を知ってもらう難しさなど、多数の新たな課題に直面しました。しかし、その都度メンバー間で話し合いをし、試行錯誤を重ねることによって、状況ごとに対応する能力を身に付けてきました。また、学外で活動したからこそ気づいたPartageの魅力を改めて学内活動へ反映したりと、次の挑戦につなげています。学内外を問わず多くの方々に支えていただくことで、本プログラムはより深みのあるものとなっています。



本格的な器具を使用し、1杯ずつ丁寧に抽出します。



こだわりの店舗レイアウト



学外出店の様子

移動販売拠点の活性化に向けた 取り組み

学生による調査と認知向上の実践

- 学科名
経営学科
- 実施地域・場所
京都市山科区
- 実施時期
2025年6月～2026年2月
- 指導教員名
桑 海峽
- 参加学生数
6名

移動販売拠点の認知向上に向けた取り組み

京都市山科区は坂道が多く、高齢者にとって日常の買い物負担となりやすい地域です。こうした課題に対応する取り組みとして、(株)ダイエーが展開する移動販売サービスは重要な役割を担っています。本学経営学科・桑ゼミでは、(株)ダイエーと連携し、マーケティングおよびデータサイエンスの観点から実地調査やデータ分析を行い、地域課題の視点から移動販売拠点の利用状況を分析し、改善の方向性を検討しました。

「なぜ拠点の利用者が少ないのだろうか？」この疑問から、桑ゼミ3年生6名の学生による調査が始まりました。京都橋大学拠点は利用者が週1～2名程度にとどまっています。学生たちはまず「認知不足」を仮説とし、周辺人口のオープンデータを分析しました。その結果、徒歩10分圏内に600名以上の高齢者が居住していることが分かり、潜在需要の存在を確認しました。



学生と高齢者との交流の様子

現地調査による実態把握

学生たちは売上が安定している他拠点を訪問し、高齢者への聞き取りやアンケート調査を実施しました。移動販売が生活支援機能を果たしている実態を把握するとともに、利用行動の背景を整理しました。また、関係者へのヒアリングや現地確認を通じて、拠点周辺の急坂やトンネルによる生活圏の分断といった立地上の制約も明らかにしました。さらに、拠点利用に関する意識調査も行い、認知と行動の間に隔たりがあることを確認しました。



移動販売に関するアンケート調査の実施

提案に向けた工夫と成果

分析結果を踏まえ、学生たちはAIを活用して、橋拠点の移動販売の開催日時や商品内容を分かりやすく整理したチラシを作成しました。チラシは拠点利用に関わる層を中心に配布し、効果の検証を行いました。その結果、利用に至らない要因を「情報設計」と「立地構造」の両面から整理することができました。本研究は、地域課題を多角的に捉え、実行可能な改善の方向性を提示した点に意義があります。



アンケート調査の様子



移動販売発表の様子



AIを活用して作成した認知度向上用チラシ

たちばな健康相談

地域住民の方々のより一層の健康の保持・増進を目指して

大学祭での「たちばな健康相談」の取り組み

本活動は、看護学部看護学科の学生と教員が協働し、地域住民の健康を支援する取り組みです。学生にとっては授業や実習ではない場で地域住民の方の健康を考える機会となっており、特に保健師免許取得を目指す学生にとっては、イベントの企画運営を実践的に学ぶ貴重な機会にもなっています。

今年度も、身体計測や血圧測定に加え、骨密度・血管年齢・脳年齢測定といった、日常生活では触れる機会の少ない測定項目を提供し、測定をもとに相談できるブースを設けました。参加者は10代から80代まで幅広く、延べ200名を超え、リピーターの方だけでなく通りがかりの方にも多く参加いただき、多くの方に測定結果をきっかけに自身の健康に関心をお寄せいただきました。

参加者アンケートでは「健康意識を高める良い機会になった」という声のほか、「学生の対応が親切で気持ちよかった」「保健師さん、看護師さん目指して頑張ってください」「地域の方もたくさんお見えになっているようで、毎年楽しみにされているのだらうなと思いました」といった温かい激励を多数いただきました。単なる健康チェックの場に留まらず、多世代の地域住民の皆さんと学生が交流できる場としての役割を改めて感じています。

やましな健康フェスタでの健康増進の取り組み

本看護学部看護学科では社会貢献事業の一つとして「地域住民のニーズに基づいた健康相談や生涯学習などの活動を通じて、その方々の健康を支援する」という目標のもと、毎年健康増進事業を行っています。今年度も京都市山科区主催のふれあい「やましな」2025区民まつり「やましな健康フェスタ」に保健師免許取得を目指す学生6名と参加してきました。フェスタでは、山科区内の地域包括支援センター及び、地域介護予防推進センターと合同で、「健康チェック&体験フェスタ」ブースを出展し、本学は主に、骨密度測定と脳年齢測定を実施しました。骨密度測定には約140名、脳年齢測定には約110名の地域住民の方々が参加下さいました。学生は、事前準備として、測定がスムーズに進行するよう物品や人員配置などの企画書を作成し、当日は測定や相談対応、実施後の評価までを担当し、一つの事業を運営することの難しさとともに、工夫や配慮の重要性を学ぶことができました。毎年測定を楽しみに参加される住民の方との出会いもあり、継続的に健康に関心を持ち、計測をきっかけに生活の見直しを図れるよう、今後も地域住民の健康増進に寄与できる活動を展開していきたいと考えています。



やましな健康フェスタ



参加した学生たち

- 学科名
看護学科
- 実施地域・場所
京都市山科区(山科中央公園、本学キャンパス内)
- 実施時期
2025年11月8日(土)、23日(日)
- 指導教員名
大学祭：瀬川 裕美、長坂 桂子、小山 智史、福田 沙織、堀 友紀子、足立 真美子、岡島 美月、池下 美歩、岸田 侑子、玉川 久代、ラブロウ、セーニャ、十倉 絵美
やましな健康フェスタ：松本 賢哉、黒瀬 安紀子、下田 優子
- 参加学生数
44名(大学祭)、6名(やましな健康フェスタ)



キャンパス内での「たちばな健康相談」

ママ・パパ応援 たちばなタッチひと息サロン

ハンドマッサージを通じた子育て支援

タッチケアを活用した子育て支援

少子化が進む今日、子育てのロールモデルを得ることも子供の成長を身近に感じることも困難な状況にあります。多くの人が、子どもの健やかな成長を願い、そして喜びや幸せなどを享受する一方で、子どもとの付き合い方に慣れず、両親や周囲の大人は体力を削られ、お疲れモードになることもあります。そこで、こころと身体の緊張をほぐすアプローチである触れるケア(タッチケア)に着目した子育て支援を企画するに至りました。本企画のねらいは、ママ・パパ、育児サポーターにほっと一息つく癒しの時間の提供と触れるケアの良さを知ってもらうことと運営する学生には触れるケアの大切さを、実践を通じて実感してもらうことです。



たちばな子ども食堂パーティーの時のメンバー

- 学科名
看護学科
- 実施地域・場所
京都市山科区(本学キャンパス内、たちらボ山科)
- 実施時期
2025年11月～2026年2月
- 指導教員名
竹 明美
- 参加学生数
のべ10名

私たちも癒された？

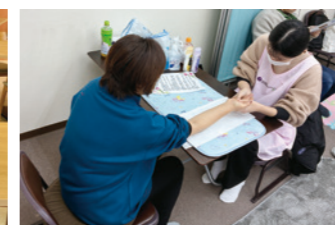
今年の活動計画は、後期の始まる10月以降、3回の開催を目指し、まずは、来訪者の見込める11月は橘祭、12月はたちばな子ども食堂パーティー企画への参与、1月はたちらボ山科にて開催しました。活動に向け、学生メンバーとハンドマッサージの習得など開催に備えました。橘祭は、老若男女合わせて約25人に、たちばな子ども食堂パーティーでは約15人に、たちらボでは1人にご来訪いただきました。来訪者から、「気持ち良かった、こんな企画が他(学外)でも行われたら良い」、「ハンドマッサージとか興味があったけどなかなか機会がなかったのが良かった」などの感想や励ましを頂きました。中には、「看護師さんってマッサージなんか習うんですか?」など、看護学生の学習内容に関心を寄せられる人もおられました。学生にとっては、対象者から話を聞いたり、お子様のお預かりやハンドマッサージを通じて就学前後の子どもと接したりする機会になり、子育ての日常や年齢による子どもの特徴など再確認したり、可愛かった・面白かったなど子どものかかわりに関心を寄せたりすることにつながりました。タッチケアは行う人も受ける人も双方にリラックス効果が期待でき、看護技術としても様々な効果が知られていますが、改めてそのことを考える機会にもなり、本企画のねらいは概ね達成することができました。

本企画を活性化するには

本企画の改善点として、広報と開催場所があげられます。開催にあたっては、関係者から頂いた助言をもとに学外の開催候補場所などを検討するなど、学生参加者の募集や技術習得支援を促進するための準備の充実をはかり、触れるケアの良さや大切さを通じて子育て支援につなげていきたいと考えています。



たちばな子ども食堂パーティーの時の様子



たちらボ山科での開催の様子



橘祭での実施の様子



橘祭の看板

高齢者の健康づくりプロジェクト

高齢者健康調査を通じたヘルスプロモーション活動

野洲市と連携した調査研究

2014年度より滋賀県野洲市と連携し、健康づくりに関する調査研究の一環として、野洲市在住の高齢者を対象に健康促進活動を行ってきました。年1回の体力測定会(認知・心理機能検査を含む)の開催や、「たちばな健康体操」の普及および実技指導などが主な活動です。今年度は、健康科学部理学療法学科3回生50名と教員6名が参加し、高齢者266名の身体・認知・精神機能を調査しました。



実施説明

調査結果から示された課題

参加者の体力は、男女ともに下肢の筋力や歩行能力が全国平均を上回っていましたが、身体の柔軟性や立位バランスは全国平均を下回っていました。ただし、昨年の立位バランスと比べると、男女ともに改善がみられました。そのためか、過去1年間における転倒者の割合も22%から17%(全国平均10~20%)に減少しており、良い傾向が認められました。なお、転倒経験者の有無別に比較した結果、転倒経験者は非経験者と比べて認知機能および立位バランスが不良であり、転倒を予防するためには、良好な立位バランスに加えて、認知機能の低下を防ぐことも重要であることが示されました。参加者の認知機能については、認知症の疑いのある高齢者が5%、軽度認知障害のある高齢者が27%認められました。昨年の調査結果と比較すると、認知症の疑いのある高齢者が増加しており、注意が必要です。コロナ禍により4年間実施できなかった呼吸機能検査を昨年から再開しましたが、閉塞性換気障害は男性で13%、女性で3%に認められました。日本の疫学調査における高齢者の有病率が14.4%であることを踏まえると、参加者の有病率は高いとはいえませんが、喫煙および受動喫煙のリスクの周知と禁煙の呼びかけが必要です。

学生による測定結果のフィードバックを実施

調査結果は参加高齢者に返却し、参加者の年齢における全国平均と比較した結果の表について、学生が個別に説明を行いました。学生は、参加者との良好なコミュニケーション方法について学ぶことができました。また、測定の難しさや、測定結果を解釈し説明することの難しさも経験できました。なお、取り組み後には41ページからなる報告書を参加学生とともに作成しました。



測定風景



報告書

- 学科名
理学療法学科
- 実施地域・場所
滋賀県野洲市(野洲市総合防災センター/コミュニティセンター なかさ)
- 実施時期
2025年9月1日(月)~5日(金)
- 指導教員名
村田 伸、堀江 淳、白岩 加代子、中野 英樹、山崎 岳志、菊地 雄貴
- 参加学生数
50名

京都きっずメディカルサポート

医師・理学療法士・学生による成長期スポーツ障害の予防・早期発見

子どもたちへのメディカルチェックおよびコンディショニング支援

本学健康科学部理学療法学科は、京都府が推進する「京の子どもダイヤモンドプロジェクト」の一環として、ジュニアアスリートを対象とした「京都きっずメディカルサポート(リサーチプログラム)」に参画しています。本取り組みの目的は、成長期にある子どもたちの身体の状態を多角的に把握し、スポーツ外傷・障害の予防および競技力向上に資することです。2025年5月に京都市内の医療機関(丸太町リハビリテーションクリニック)において、小学4年生から中学3年生までのジュニアアスリートを対象に、整形外科医・理学療法士・スポーツ科学に関連する研究者および理学療法士を目指す学生が連携したメディカルチェックおよびコンディショニング支援を行いました。



医療・教育・家庭をつなぐ連携

当日は、整形外科医によるメディカルチェック、理学療法士によるコンディショニング評価に加え、筋力や柔軟性などの基礎体力測定、下肢関節の固有感覚やリアクションタイムといったスポーツ科学的評価を実施しました。これらの評価を通じて、参加したジュニアアスリート自身が自分の身体特性や課題を理解し、今後のトレーニングやコンディショニングに活かす機会となりました。また、保護者に対しても、成長期特有の身体的特徴やケガ予防の重要性を共有することができ、医療・教育・家庭をつなぐ地域連携の意義を再確認することができました。

実際の現場での経験を積む

本取り組みには、理学療法学科の学部生・大学院生が参加し、測定補助やデータ記録、ジュニアアスリートや保護者への説明などを担当しました。学生は事前に測定手順や安全管理について学習・練習を行ったうえで当日に臨みましたが、実際の現場では、年齢や発達段階の異なる子どもへの対応や、保護者への分かりやすい説明など、教室内では得がたい経験を積むことができました。活動を通して、専門知識を実践に結び付ける力だけでなく、コミュニケーション能力やチーム医療の一員としての自覚が育まれた点は、本取り組みの大きな教育的成果となりました。



- 学科名
理学療法学科
- 実施地域・場所
京都市中京区(丸太町リハビリテーションクリニック)
- 実施時期
2025年5月25日(日)
- 指導教員名
甲斐 義浩(理学療法学科)、田中 真紀(児童教育学科)
- 参加学生数
15名

ものづくり教室を通じた 学生の学びと成長

高齢者とのICT協同を通じた地域連携教育

- 学科名
作業療法学科
- 実施地域・場所
本学キャンパス内、奈良県山添村、オンライン(高齢者自宅)
- 実施時期
2025年(通年・月1回)
- 指導教員名
佐川 佳南枝、中井 秀昭、原田 瞬、岩下 夏岐
- 参加学生数
4~8人(各回)

コロナが契機となった高齢者のICTへの適応

本学健康科学部作業療法学科では高齢者と学生が協同して作業(ものづくり)を行うプログラムを2018年度より実施してきました。コロナの影響で一時的に活動が途絶えましたが、Zoom開催を経て2021年1月よりオンラインものづくり教室を開始しました。当初はさまざまなトラブルもありましたが、継続するうちに高齢者自らZoomミーティングを開催するようになりました。現在は大学で参加の対面組と自宅から参加のオンライン組のハイブリッド型で開催しています。

山添村での実践と地域課題への対応

2022年秋からは、奈良県山添村においても高齢者を対象としたものづくり教室を実施しています。村内の3か所の公民館と京都の参加者宅をオンラインでつなぐ形式で開催しています。山添村役場では災害時の情報共有を見据え、ICTに適応できる高齢者の育成を目指しており、ものづくり教室の後にZoom教室も開催しています。そこでは学生たちが参加者たちにわかりやすくZoomの操作を説明しています。本活動は地域課題に回答する実践の場にもなっています。

高齢者との協働を通して学生が学ぶこと

本プログラムでは、学生が作業の講師役を担い、Webカメラ越しに自宅の高齢者へ作業手順を説明します。他の学生も大学に集まった高齢者の反応を見ながら説明方法を工夫しています。どの工程が理解しにくいのか、どのように説明すれば伝わりやすいのかを考えることで、実践的なコミュニケーション力や対象者理解を身につけていきます。また、制作中の対話を通して高齢者の生活背景や人生経験に触れることは、対人援助職を目指す学生にとって、実習前の貴重な学習経験となっています。

協働による学びの広がりと教育的意義

参加者には学生の卒業研究にも協力していただいております。学生はアクションリサーチの視点からものづくり教室の意義を検討しました。その結果、一方向的な支援ではなく相互的な学びの関係が形成され、参加者の発言や反応が活動改善に反映されるなど、学生と参加者の協同による実践が高齢者の健康や生きがいにもつながっていることが明らかになりました。本取り組みは、ICTを活用した地域連携であると同時に、学生が主体的に関わることで専門職としての姿勢や実践力を育成する教育プログラムとして機能しています。



クリスマスリースを作成中



Zoom教室

地域での暮らしを想う作業療法

地域支援を科学する体験と研究

- 学科名
作業療法学科
- 実施地域・場所
京都市山科区(西野山団地)、滋賀県守山市(一般社団法人ビッグライフ)
- 実施時期
2025年(通年・不定期)
- 指導教員名
小川 敬之
- 参加学生数
のべ5名(おおよそ)

団地の集いの場における活動を通して

NPO法人ともつく(以下、ともつく)は、健康な方、障害を持たれている方、高齢者、子どもなどすべての人たちが地域社会で役割を担いながらいきいきと共生してゆくことを支援しており、活動の中で、高齢者の独居や団地の空き家化といった社会的な課題に取り組んでいます。その一環として、西野山団地の1階において作業療法士が関わり、コミュニティスペースおよび週3回のカフェの運営を行っています。本学作業療法学科の学生もカフェ運営のボランティア等を通して関係を深めており、主に団地にお住まいの高齢者との交流を中心に、時には子どもを含む多世代交流が実現しています。高齢者が多く集う場所であることから、「高齢者が運転免許を返納するきっかけは何か」や「高齢者がスマートフォンでよく利用するアプリは何か、またなぜそれを利用するのか」といった調査にご協力いただくこともありました。日常の交流・会話を通して、学生が日頃疑問に感じたことを作業療法の観点をもって科学的に探究する機会につながっています。



2025年度は初の試みとして、夕方から21時頃まで夜の集いの場を設けました。昼間とは異なる雰囲気の中で少しのアルコールや食事を楽しむことで、団地の高齢者の方々と日頃の悩みや今後の生活について等より深い対話を行うことができました。人は1日24時間の中で生活しています。昼間だけではない、1日を通した生活への思いや生活の在り方を感じ取りながら地域支援に取り組む必要があることを再認識した活動でした。夜間開催であったため学生の参加は少ないかもしれませんが、人々の日常を想う視点が養われるこうした取り組み例は学生へも共有しています。

就労支援施設でのボランティアを通して

滋賀県守山市にある一般社団法人ビッグライフで就労移行支援に関わってきた学生もいます。働くことで社会参加の糸口をつかみ、賃金を得ることで自立した生活を考えていくという取り組みに共感し、自ら進んでボランティアに伺っていました。施設運営者の方達に対し、障害を持つ方々の雇用において留意していることや、事業にかける情熱についてインタビューし、生の声を聞くことで自身が目指す作業療法士像を考えるきっかけになりました。また、インタビュー内容は卒業研究として取りまとめる予定です。

作業療法士は病院で勤務することが多い職種ですが、生活上の困難を抱える方々は病院だけでなく、身近な生活圏にも多くいらっしゃいます。そうした方々へ目を向け、何かできないかと考え、行動するマインドを持った作業療法士の育成にも力を注ぎたいと思っています。



その他の地域連携活動一覧 (教育) (研究) (社会貢献)

1 地域を対象とした教育活動						
学 部	学 科	科目名	担 当	地域・場所・連携先	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
文学部	日本語日本文学科	日本語日本文学書道コース卒業制作展	日本語日本文学科書道コース	京都文化博物館	約30名	書道コース学部生および文学研究科博士前期課程歴史文化専攻による卒業制作計52点を展示する卒業制作展を開催した。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅱ	小林裕子 山田宏 有坂道子	和歌山県伊都郡高野町	2回生	高野山の歴史遺産を学ぶ学外授業を実施した。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産調査実習	小嶋篤	京都府亀岡市北ノ庄平林古墳	2～4回生 12名	亀岡市と共同で、測量調査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産調査実習	南健太郎	滋賀県大津市	2～4回生 18名	大津市市教育委員会協力のもと、坂本城跡の水中考古学的調査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅲ	南健太郎	滋賀県大津市	3回生 15名	大津市市教育委員会協力のもと、坂本城跡の水中考古学的調査を実施した。
国際英語学部	国際英語学科	専門演習Ⅰ学外授業	早川有香	京都市右京区株式会社オーガニックnico	早川ゼミ 3回生 5名	有機農業及び自然農法の実施・普及の推進について、フィールドワークとディスカッションを実施した。ベヒーリーフの栽培に関わる一連の作業を体験し、自然循環との共生を学んだ。
国際英語学部	国際英語学科	専門演習Ⅲ学外授業	早川有香	京都市伏見区宇治小倉圃場	早川ゼミ 3回生 5名	無施肥無農薬栽培調査研究会の小林理事の圃場にて、フィールドワークを実施した。稲刈りから稲架掛けまでの一連の作業、及び秋野稈の間引きを体験し、ディスカッションを行った。
発達教育学部	児童教育学科	教育演習Ⅰ	佐野仁美	京都市山科区ももの木子ども園	14名	音楽に関心を持つ学生が集まる佐野ゼミの活動の一環として、アウトリーチ活動を行った。学生自身が企画した「七夕コンサート」で、3～5歳児を対象に劇、歌や楽器演奏を披露し、交流した。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅱ・Ⅲ	谷口みゆき	二条城、清水寺	17名	フィールドワークを実施し、分散観光研究のためのデータを収集・分析している。また、分散観光の施策を提言するために、京都市から「京都市観光総合調査」の個票データの提供を受け、データ分析を実施している。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅴ	小山大介	京都府与謝野町	4名	京都府与謝野町と連携し、道の駅を盛り上げるイベントを実施し、約30名の来訪者があった。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅰ	小山大介	京都府与謝野町	17名	ゼミ2回生を対象として地域理解実習を京都府与謝野町で実施し、役場への表敬訪問、企業訪問、体験実習を行った。
経済学部	経済学科	キャリア開発演習Ⅰ	乾明紀	京都府、京都市	1,140名	京都ジョブパークと京都市わかもの就職支援センターの取組みを動画にて紹介した。
経済学部	経済学科	キャリア開発演習Ⅱ	乾明紀	京都市	53名	京都市わかもの就職支援センターと連携し、地元企業と学生の交流機会を3度開催した。
経済学部	経済学科	ワークエクスペリエンス	乾明紀	京都市	34名	京都市わかもの就職支援センターと連携し、地元企業と学生の交流機会を2度開催、京都ジョブパークの取組みを紹介した。
経済学部	経済学科	クロスオーバー型課題解決プロジェクト	前田一馬	滋賀県草津市	15名	3グループに分かれて「草津らしさを取り入れた〈地域ブランド〉の考案」をテーマに提案を行った。有志で草津宿場まつりの市役所ブースのボランティアを経験した。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅲ	前田一馬	京都市山科区	18名	「たばな大学から500mプロジェクト」と題して、大学周辺の地域的特徴を調査した。4グループに分かれ、笠原寺、岩屋神社、カフェGreen、近隣住民等に聞き取り調査を実施し、知見を共有した。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅱ・Ⅲ	阪本崇	京都府警	15名	京都府警が主催するポリス&カレッジ in Kyoto 2025において、「効果的な交通安全情報の発信について」というテーマで提案を行った。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅱ	平賀緑	滋賀県近江八幡市	16名	近江八幡市で有機米作を手がけるNPO法人百菜劇場代表の圃場で草引き作業を行った。短時間でも農作業の大変さを体験すると同時に、世界農業遺産「びわ湖システム」、生物多様性、有機農業、アグロエコロジーを体感した。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅰ・Ⅲ	平賀緑	京都市伏見区	33名	1926年創業、向島で近郊農業を続けている中嶋農園を訪問し、継続するための会社経営の工夫や資源循環の取り組みの話等を伺い、サツマイモや落花生収穫の農業体験を行った。
経済学部	経済学科	非営利経済論	平賀緑	京都市	6名	認定NPO法人セカンドハーベスト京都が実施している「こども支援プロジェクト」に希望学生を連れてボランティア参加し、食料の箱詰め作業を行った。

学 部	学 科	科目名	担 当	地域・場所・連携先	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅱ・Ⅲ	岡田知弘	京都市、滋賀県野洲市	16名	4つのチームに分かれ、京都市観光協会、伏見酒造業、南区役所、野洲市のめんたいパークを訪問調査し、その内容を報告書にとりまとめた。
経済学部	経済学科	アカデミックスキル	竹内直人	福井県高浜町	23名	人口減少に悩む高浜町に対して、現地調査を行ったうえで4つの学生グループが町の幹部に具体的振興策を提言した。提言内容及びレポートを報告書にまとめた。
経営学部	経営学科	公共マーケティング／文化資源デザイン論	木下達文	滋賀県近江八幡市	191名	地域課題を地域文化資源の再評価の側面から考える授業でフィールドワークは今年で5回目となる。全体的な課題抽出と企画提案を一定数集積できた。
経営学部	経営学科	プロジェクト演習Ⅳ・Ⅴ	大野宏之	京都市山科区	5名	日本の子どものスポーツの参加率低下による将来の健康への影響について問題意識を持ち、「スポーツのきっかけづくり」となるイベントを企画し、「楽しさ」の経験が継続につながるのではないかとという仮説を検証した。「たばなこども食堂」で体験ブースを運営した。
経営学部	経営学科	ベーカリー商品の認知度向上に関する研究	桑海峽	京都市山科区イオンタウン山科柳辻店	6名	近年の物価上昇や人件費の増加により、ベーカリー商品の売上が伸び悩んでいるという課題に対し、夏休み期間に学生が店内の買い物客を対象としてアンケート調査を実施し、改善策を企業へ提案する予定である。
経営学部	経営学科	ベーカリー商品の製造順番に関する研究	桑海峽	京都市山科区イオンタウン山科柳辻店	7名	ベーカリー商品の製造においては、賞味期限が短いことに加え、短時間で多種類かつ多量の製造を行う必要がある。店舗から提供された売上情報および商品情報を基に、学生が自ら製造状況のデータを収集、ABC分析や商品の販売量に関する時系列分析を行い、最適な製造順序を提案する予定である。
工学部	情報工学科	Open Source Conference 2025 KYOTO	杉浦昌	京都市下京区京都リサーチパーク	杉浦ゼミ 5名	製作物や研究物を展示・説明した。また、苦労したことやそれによって得られた人間的な成長について語り、好評を得た。
工学部	情報工学科	Open Source Conference 2026 OSAKA	杉浦昌	大阪府中央区大阪産業創造館	杉浦ゼミ 4名	製作物や研究物を展示・説明した。
工学部	建築デザイン学科	建築プロジェクト演習Ⅳ・Ⅵ	半海宏一	京都市	20名	文化財建築の修復を手がける左官職人による土壁塗り体験、及び左官職人による文化財修復の講義を受講した。
工学部	建築デザイン学科	建築プロジェクト演習Ⅱ	鈴木あるの	大阪市、他	20名	株式会社神吉不動産代表取締役神吉優美氏より、大阪・兵庫一帯360戸の古い賃貸アパートの再生と経営、そして空室を活用した地域コミュニティづくり（塾つき子ども食堂など）の取り組み、高齢者の生きがいづくり活動について話を聞いた。
工学部	建築デザイン学科	建築プロジェクト演習Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ合同	鈴木あるの	神戸市	20名	奥井量店（神戸市灘区）に伝統技術の継承について話を聞き、国産イグサを用いて手縫いでミニ畳をつくるワークショップに参加した。
工学部	建築デザイン学科	建築プロジェクト演習Ⅳ・Ⅵ合同	鈴木あるの	奈良市	16名	重要文化財藤岡家住宅（非公開）にて、江戸期から続く大和商家の建築および経営の歴史や作法を当主夫妻からご講演いただき、店舗の複雑な構造の開閉や電門の炊き方の体験を行った。
工学部	建築デザイン学科	建築プロジェクト演習Ⅱ	鈴木あるの	京都市	20名	醍醐寺三寶院にて、京都に戦国時代から残る古寺の建築と庭園の見方について学んだ。
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ	征矢野あや子 深山つかさ 十倉絵美 堀友紀子 田茂井優佳 下田弘美	京都橘大学	1回生106名、 4回生8名	山科区老人クラブ連合会との共催で参加者約120名への「体力測定会」を2回に分けて行った。1回生は参加者とペアになり体力測定を行った。4回生はTAとして下回生の指導助言を行った。
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ	深山つかさ 堀友紀子 田茂井優佳	京都市山科区	1回生21名	山科区老人クラブ連合会が実施する美化ウォーキングに参加した。3つのコースに分かれ、ゴミを拾いながら高齢者と交流を深めた。
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ	堀友紀子	滋賀県大津市	1回生19名	志賀ブロック老人クラブ連絡協議会主催ニュースポーツ交流会に参加し、活動をサポートした。
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ	征矢野あや子 深山つかさ 十倉絵美 堀友紀子 田茂井優佳	滋賀県大津市石山体育館、瀬田体育館、和邇体育館、坂本市民体育館	1回生106名	大津市老人クラブ連合会との共催で参加者約100名への「新体力測定」を3回に分けて行った。学生は参加者とペアになり、血圧などの健康状態などについて評価した後、体力測定を行った。

学 部	学 科	科目名	担 当	地域・場所・連携先	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康科学部	作業療法学科	地域包括ケアシステム演習	菅沼一平 原田瞬 中井秀昭	山科団地集会所	42名	山科団地集会所を活用し、地域住民のつながりを作ることを意図した活動を学生が企画し、実践した。地域課題の発見と解決手段、コミュニケーションについて実践を通して学習した。
健康科学部	作業療法学科	地域作業療法演習	小川敬之 原田瞬	醍醐中央図書館	38名	地域図書館との連携で図書のPOP展示を行い、認知症啓発と地域資源について理解を深めた。
健康科学部	作業療法学科	作業療法研究法演習Ⅱ	菅沼一平	大阪府吹田市 健都ライブラリー 山手地区公民館	5名	介護予防事業として大学生と地域高齢者が一緒に作業活動を行った。
健康科学部	救急救命学科	机上図上訓練エマルゴ	救急救命学科	京都市他	3回生50名 +卒業生	災害机上図上訓練であるエマルゴを実施した。

2 地域を対象とした研究活動

学 部	学 科	活動名	担 当	地域・場所・連携先	活動の内容や成果
文学部	歴史学科	京都の文化史の研究	尾下成敏	京都府など	1)「関白秀次の文化活動と文禄期の政治史」という小文を執筆し、「日本史研究」755号(日本史研究会)において公表した。2)河内将芳氏編の「秀吉と豊臣一族研究の最前線(仮)」(山川出版社、2025年刊行予定)に、「豊臣秀次とその弟たちの実像」を寄稿した。
文学部	歴史学科	神社所蔵文書・社家文書の一体把握による中近世賀茂別雷神社の総合的研究	野田泰三	賀茂別雷神社(上賀茂神社)ならびに京都周辺地域	科学研究費補助金基盤研究(A)(2022~2026年度、研究代表者:金子拓)に研究分担者として関わった。
文学部	歴史学科	特定共同研究「賀茂別雷神社の総合的研究—賀茂別雷神社文書・社家文書による—」	野田泰三	賀茂別雷神社(上賀茂神社)ならびに京都周辺地域	東京大学史料編纂所の特定共同研究(代表:金子拓)。賀茂別雷神社ならびに社家の古文書の研究・分析を通じ、同社の神事・祭祀、賀茂六郷の支配構造、京都周辺地域の社会・政治構造を解明することを目的とする。
文学部	歴史遺産学科	吉祥山無量寿院阿弥陀寺の調査	小嶋篤	京都市山科区	山科ふるさとの会との共同調査で、学生2名と共に墓石調査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	彦根藩史料調査研究	有坂道子	滋賀県彦根市	彦根城博物館による館蔵史料の共同研究を行った。
文学部	歴史遺産学科	奄美大島、徳之島の水中文化遺産調査	南健太郎	鹿児島県奄美市、伊仙町、徳之島町	船舶の停船でし行する鑑についての水中考古学的調査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	日本海における近世以前の港の水中考古学的調査	南健太郎	福井県美浜町、京都府京丹後市	日本海沿岸において港関連遺構の水中考古学的調査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	宇佐山城跡の測量調査	南健太郎	滋賀県大津市	宇佐山城跡を踏査し、測量調査を実施した。
発達教育学部	児童教育学科	小規模保育施設における、子どもの発達と活動に合わせた環境構成	長橋聡	京都市山科区	京都市山科区にある小規模保育施設A園(仮名)をフィールドとした観察調査を行い、保育室の環境構成や空間活用について記述し考察を行った。
経済学部	経済学科	景観整備が観光客の観光満足度に与える効果の分析	谷口みゆき	佐賀県鹿島市、京都府京都市伏見区	佐賀県鹿島市の地域経済に資する研究として、共同研究者の今井晋と鈴木広人とともに、酒蔵のある伝統的町並みが観光客の観光満足度に与える効果を定量的に分析している。日本全国の酒蔵の町のデータを収集・分析、京都市伏見区でもフィールドワークを実施している。
経済学部	経済学科	政策評価に関する理念と現実に関する調査研究	竹内直人	岡山県瀬戸内市	自治体が行う政策評価の今後の方向性を研究する「地方自治研修機構」の研究会の研究員として自治体の事例を研究している。瀬戸内市の事例について職員から聞き取りを行い、2月に報告書を刊行した。
経営学部	経営学科	文化施設と学校が協働した「文化芸術連携授業」の事業効果に関する研究	木下達文	滋賀県	滋賀県の文化政策(主に博学連携事業)を担う中間支援組織「滋賀次世代文化芸術センター」の実施する「文化芸術連携授業」の事業評価研究で、通常の学校に通う児童だけでなく、不登校児童に対する教育効果についての分析を行っている。
工学部	建築デザイン学科	国産イグサ量の存続と将来展望	鈴木あるの	熊本県熊本市、広島県福山市	絶滅寸前にある国産イグサの農家の現状について調査し、国内外の学会・国際誌で発表した。京都大学と龍谷大学において招待講義を行い、Japan Timesの取材にも応じた。
健康科学部	作業療法学科	地域活性化を目的とした世代間交流のあり方とその効果に関する研究	原田瞬 小川敬之 菅沼一平	京都市山科区 山科団地エリア	山科団地エリアの住民を対象に、世代間交流が地域活性化に及ぼす影響を調査している。
健康科学部	作業療法学科	重症心身障害児者の主介護者における医療型短期入所の影響	原田瞬	滋賀県野洲市	介護老人保健施設野洲すみれ苑の医療型短期入所の利用者のご家族を対象に、地域在宅支援としての医療型短期入所のあり方について研究している。母親における育児ストレスと作業機能障害に関する調査を第20回滋賀県作業療法学会にて発表し、学会長賞を受賞した。
健康科学部	作業療法学科	障害福祉事業所の職員向け工程分析研修の効果についての予備的研究	中井秀昭	研修受講者	滋賀県内の障害福祉サービス事業職員向けの工程分析研修の教育効果についての予備的検討を行った。

学 部	学 科	活動名	担 当	地域・場所・連携先	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康科学部	作業療法学科	農福連携における作業療法士視点についての研究	中井秀昭	農福連携実践者等		農福連携実践者に対するアンケート調査で、35名の結果を解析し、作業療法士との接続・接点を模索する研究した。
健康科学部	作業療法学科	特例子会社における作業療法士の実践に関する探索的研究	中井秀昭	特例子会社 カルビーイートーフ		作業療法士の介入をパイロット的に実施した。
健康科学部	作業療法学科	Cognitive Composition Test(CCT)のアプリ開発とその有効性についての研究	田丸佳希	大阪府		本学とフォーカスシステムとの共同研究を締結し、国立研究開発機構の支援を受けた産学官連携で進めている研究であり、Mild Cognitive Impairmentの早期発見を目的としたアプリ版のCCTを開発・有効性の検証を行っている。
健康科学部	作業療法学科	有効視野視野と中心視野と言った視空間認知の観点からMCI高齢者と健常高齢者の視線行動パターンの違いを探る研究	田丸佳希	大阪府		MCI高齢者の初期症状の一つである視空間認知に着目し、有効視野・中心視野での身体反応時間の差について健常高齢者と比較検討した研究を行った。
健康科学部	作業療法学科	脳血管障害後遺症患者のトイレ動作阻害因子と訓練介入方法の選択に結び付けるチェック表の開発	田丸佳希	大阪府 奈良県		回復期病院で入院する脳血管障害後遺症患者の方を対象に、トイレ動作を工程分析し、どの項目で困難かがわかるとそれに応じた訓練介入を選択していけるシステムづくりをする研究を進めている。
健康科学部	作業療法学科	GPDCサイクルを統合した短期グループプログラムが特別支援学級児の運動協調性と活動参加を改善できるかを検証する研究	田丸佳希	大阪府 兵庫県		特別支援学級を対象に、「36の基本的な動き」とCO-OPのGPDCサイクルを組み合わせた4回のプログラムを実施することで、運動協調性と活動参加に着目した変化を検証する研究を進めている。
健康科学部	作業療法学科	アプリ版 Cognitive Composition Test(CCT)の年代別指標の確率	田丸佳希	大阪府		産学連携研究の一つとして進めている。現状アプリ版CCTのブラッシュアップと年齢別指標の確率を目指し研究を進めている。
健康科学部	作業療法学科	高齢者の安心安全な自動車運転支援の為にプログラム作成に関する研究	田丸佳希	和歌山県 京都府		現在、自動車運転支援として療法師の関与の重要性が挙げられている。これまで和歌山での取り組みや京都では、交通安全協会職員を対象とした身体機能評価とプログラムを実施している。
健康科学部	作業療法学科	入院中の中高齢期知的障害者をもつ母親の語りにもみられる家族と社会との関係:ライフコース理論の視点から	平本憲二	広島県呉市、 京都市		精神科に入院中の中高齢期知的障害者の母親ときょうだいの障害者との関わり方の維持に関する検討を行った。母親ときょうだいの家族、家族以外の人、社会資源との関係の実態を明示した。
健康科学部	作業療法学科	認知症の人を介護する家族(主たる介護者)の介護力評価尺度の開発	菅沼一平	家族の会 各都道府県支部		在宅で認知症の人を介護する家族主介護者の心理面と生活状況を包括的に評価する「介護力評価尺度」を開発している。
健康科学部	作業療法学科	地域高齢者の作業機能障害に影響する要因に関する研究	菅沼一平	吹田市		在宅在住の健常高齢者を対象に高齢者の作業機能障害(作業不公正)に関連する要因を調査している。
健康科学部	作業療法学科	一次予防における主体価値を軸とした持続可能な介護予防プログラムの開発	菅沼一平	吹田市		地域高齢者を対象に作業に焦点を当てた介護予防を行い成果を見ている。
健康科学部	救急救命学科	第28回日本臨床救急医学会	齋藤汐海 渡部創 益海西	神奈川県横浜市		PEMECコース子育て世代の参加支援(ファミリーサポート体制)に向けた取り組みを行った。
健康科学部	救急救命学科	第11回日本救急救命学会学術集会	坂根一翔 (3回生) 関根和弘 井上陽一 大石泰男	滋賀県草津市		公衆浴場における急患対応マニュアル作成について研究・発表した。
健康科学部	救急救命学科	胸骨圧迫のテンポが圧迫の質に与える影響 高齢者を対象とした検討	片山直広 (M2) 関根和弘	滋賀県		湖南地区の高齢者を対象に研究を行い、第44回日本蘇生学会で発表した。
健康科学部	救急救命学科	Qカードを活用した救急隊員研修の受講者評価 救急救命士ジャーナル	片山直広 (M2) 関根和弘	滋賀県		湖南広域消防局内を対象に研究を行い、救急救命士ジャーナルで発表した。
健康科学部	救急救命学科	消防職員による心停止予測に基づく除細動パッド装着の要因に関する調査	齋藤汐海 大谷浩史 杉木翔太 中川洸志	関西圏消防職員		消防職員が現場で心停止を予測し、除細動パッド装着を行う際の判断要因を明らかにする。
健康科学部	救急救命学科	病院救急救命士による薬物療法支援に関する実態調査	齋藤汐海 高橋純子	関西圏病院救急救命士		病院救命士の薬物療法支援における業務実態および意識を把握することを目的とする。

3 地域を対象とした社会貢献活動

学 部	学 科	活動名	担 当	地域・場所・連携先	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
文学部	日本語日本文学科	凧屋ゆう文芸講演会	千々岩宏晃 杉岡歩美	京都橋大学	250名	学科・学会共同開催事業として、学外者100名を招待し、本屋大賞受賞作家の凧屋ゆう氏をお招きした学術講演を開催した。
文学部	歴史学科	講演会「蹴鞠と戦国武士」	尾下成敏	京都市	—	ラポール学園の連続講座における講演として、戦国時代の蹴鞠の歴史に関する講演をおこなった。

学 部	学 科	活動名	担 当	地域・場所・連携先	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
文学部	歴史学科	自治体史の編纂	野田泰三	京都府京田辺市、 大阪府摂津市、 奈良県五條市	—	各市史の編纂委員、編さん専門員として自治体史刊行事業に協力している。
文学部	歴史学科	賀茂別雷神社ならびに 社家関係史料の調査	野田泰三	賀茂別雷神社・ 社家町	—	京都府教育庁が設置する「上賀茂神社及び社家関係資料調査事業専門家会議」の委員長として調査事業の企画・運営に当たっている。
文学部	歴史学科	講演会「都市ローマをたどる」	山辺規子	兵庫県芦屋市	—	冬の公民館講座で、2回講演を行った。
文学部	歴史遺産学科	アートロードなぎつじ	小嶋篤	京都府京都市 山科区	1名	柳辻駅構内「アートロードなぎつじ」にて、中臣遺跡についての展示を行った。
文学部	歴史遺産学科	シンポジウム 「継体大王と地方豪族」講師	小嶋篤	東京都中央区	—	「トンボの眼(郷土史会)」主催のシンポジウムにて、「筑紫君の統治機構」と題した発表、および討論パネルを務めた。
文学部	歴史遺産学科	シンポジウム「古代山城と祭祀」 コメンテーター	小嶋篤	福岡県太宰府市	—	熊本県主催のシンポジウムにて、討論コメンテーターを務めた。
文学部	歴史遺産学科	岩戸山歴史文化交流館 開館10周年記念講演会 講師	小嶋篤	福岡県八女市	—	「岩戸山古墳の石室・石棺を考える」と題する発表を行った。
文学部	歴史遺産学科	京都府指定文化財の指定・暫定登録 文化財の登録	有坂道子	京都府	—	京都府文化財保護審議会委員として指定文化財・暫定登録文化財について審議した。
文学部	歴史遺産学科	市指定文化財の指定	有坂道子	大阪府大阪市、 松原市、 東大阪市、 和歌山県和歌山市	—	各市文化財保護審議会委員として指定文化財について審議を行った。
文学部	歴史遺産学科	文化財保存活用地域計画の策定	有坂道子	大阪府熊取町	—	文化庁が推進する文化財保存活用地域計画の策定に向けて指導・助言した。
文学部	歴史遺産学科	地域連携センター企画展 「海上の道」から探る平安京と南島文化	南健太郎	京都府京都市山 科区	6名	京都市の文化財担当部局と連携し、企画展、講演会、ワークショップを実施した。
文学部	歴史遺産学科	第9回伊都国フォーラム 「倭国形成と平原王墓—平原遺跡発掘60周年記念—」講師	南健太郎	福岡県糸島市	—	「大型化する弥生墳墓と平原王墓」と題する講演を行った。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学科学術講演会「水中の 戦争遺跡—保護と継承—」コーディネーター	南健太郎	京都府京都市 山科区	約50名	2名の外部講師を招き、学内外からの参加者に向けた講演とパネルディスカッションを行った。
総合心理学部	総合心理学科	保育コンサルテーション	濱田智崇	おおやけこども園	—	統合保育に関するコンサルテーションを5回実施した。
総合心理学部	総合心理学科	父親の子育て支援事業 「パパと一緒にふれあい農園で秋に触れよう」	濱田智崇	おおやけこども園	3名	乳幼児を育てている父親同士の思いを語り合うことで、心理臨床的観点からの子育て支援を目指している。学生はお子さんとかがわるボランティアとして参加した。
総合心理学部	総合心理学科	第2回たちばな心理臨床フォーラム 「居場所のちから～不登校・ひきこもり当事者とその家族のために～」	南波 英和	京都橘大学	—	専門家と元当事者が語る公開フォーラムを実施した。
経済学部	経済学科	大阪労働大学講座	石水喜夫	大阪府	—	大阪府、大阪労働協会などが運営する講座で講師を務めた。
経済学部	経済学科	滋賀県職業能力開発審議会	石水喜夫	滋賀県	—	副会長を務めた。
経済学部	経済学科	丸亀市産業振興推進会議 委員(会長)	小山大介	香川県丸亀市	—	丸亀市産業振興推進会議の会長として会議の取りまとめを行っている。
経済学部	経済学科	丸亀市ブランド認定部会 部会長	小山大介	香川県丸亀市	—	丸亀市地域ブランド「丸亀セレクト」選定部会の部会長として、申請のあった市内産品の認定評価を行った。
経済学部	経済学科	丸亀市観光戦略プラン策定部会 部会長	小山大介	香川県丸亀市	—	丸亀市における「第2次観光戦略策定」に係る部会で部会長を務めた。
経済学部	経済学科	与謝野町産業振興会議 委員	小山大介	京都府与謝野町	—	産業振興会議にて委員を務めた。
経済学部	経済学科	京都市景観政策検討委員会委員	谷口みゆき	京都市	—	京都市景観政策検討委員会会議に出席し、京都市の景観政策について議論した。
経済学部	経済学科	唐津市公共施設再編審議会	谷口みゆき	佐賀県唐津市	—	経済学分野の学識者として会議に参加した。
経済学部	経済学科	京都市市民参加推進フォーラム (審議会)	乾明紀	京都市	—	座長(委員会)を務め、「京都市地域コミュニティと市民参加に関するビジョン(仮称)」を策定した。
経済学部	経済学科	京都府立鳥羽高等学校学校運営協議会	乾明紀	京都市南区	—	会長を務め、運営方針の確認や助言等を行った。
経済学部	経済学科	滋賀県公共事業評価監視委員会	吉川英治	滋賀県	—	経済分野の委員として参加し、副委員長を務めた。
経済学部	経済学科	NPO法人 AMネット	平賀緑	大阪府大阪市	—	理事を務めた。
経済学部	経済学科	認定NPO法人 環境市民	平賀緑	京都市	—	理事を務めた。

学 部	学 科	活動名	担 当	地域・場所・連携先	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
経済学部	経済学科	西日本アグロアグロエコロジー協会	平賀緑	兵庫県神戸市	—	理事を務めた。
経済学部	経済学科	NPO法人 使い捨て時代を考える会	平賀緑	京都市	—	アーカイブ事業、50年史編纂を手がけた。
経済学部	経済学科	総務省自治大学校講師	岡田知弘	全国の都道府県、 市町村	—	総務省の自治大学校において、「地域産業政策」をテーマにした研修講師を行った。
経済学部	経済学科	砺波市散村地域研究所運営協議員	岡田知弘	富山県砺波市	—	研究所の運営活動に従事した。
経済学部	経済学科	京都市「東山の未来」区民会議	岡田知弘	京都市東山区	—	区の基本計画を見直す区民会議の議長を務めた。
経済学部	経済学科	長岡京市中小企業振興推進会議委員	岡田知弘	京都府長岡京市	—	長岡京市の中小企業振興推進会議会長を務めた。
経済学部	経済学科	第10次西陣織産地振興対策ビジョン 策定委員	岡田知弘	西陣織工業組合	—	ビジョン策定のアドバイスを行った。
経済学部	経済学科	滋賀県高島市総合計画策定審議会 委員長	竹内直人	滋賀県高島市	—	次期総合計画策定について助言を行った。
経済学部	経済学科	福井県越前市政システム改革委員 会委員	竹内直人	福井県越前市	—	行政システムの改善について助言を行った。
経済学部	経済学科	福井市財政健全化専門部会委員	竹内直人	福井県福井市	—	財政健全化に向けて助言を行った。
経済学部	経済学科	関西電力京都支社エネルギー懇話 会委員	竹内直人	関西電力 京都支社	—	関西電力のエネルギー問題に関する助言を行った。
経済学部	経済学科	JICA 国別研修(マリ)「持続的発展 のための地方行政の強化」	竹内直人	JICA 東京	—	日本の地方行政の発展とその要因について講義を行った。
経営学部	経営学科	「ルシオール・フェスティバル」の 運営	木下達文	滋賀県守山市	4名	音楽によるまちづくり支援事業を5月に実施した。立命館守山会場を中心に事前研修およびイベントマネジメントを体験的に学んだ。
経営学部	経営学科	「橘セッション」の実施	木下達文 大田雅之	京都市山科区	—	大学が核となる地域ネットワーク作りの一環として、地域関係団体との関係強化に向け、ネットワークをテーマに講演とパネルディスカッションを実施し、SNS上に情報ネットワークサイトを開設した。
経営学部	経営学科	山科検定の運営協力	木下達文	京都市山科区	—	山科区が実施するご当地検定について、開催方法等のアドバイスを行っている。山科経済同友会の記念事業として講演会を実施した。
経営学部	経営学科	安土城再建プロジェクト協力	木下達文	近江八幡市	—	近江八幡市安土町において取り組まれている安土城再建プロジェクトを実施する「安土城再建めざす会」の顧問として主に運営サポートを行っている。築城450年となる次年度に向けた準備およびイベント協力などを行った。
経営学部	経営学科	安土城シンポジウム2025への協力	木下達文	近江八幡市	2名	安土城築城450年を迎えるプレ事業として、近江八幡市郷土史会が主催となって11月に実施され、ファシリテーターとして参加した。「天守指図」をテーマに専門的な議論を実施し、これまでのあいまない位置づけを修正することができた。有志学生が運営ボランティアとして参加した。
経営学部	経営学科	安土城考古博物館展示リニューアル 事業協力	木下達文	滋賀県	—	老朽化にとまひ、展示の全面リニューアル事業の協力を行う。過去に行った博物館展示論での学生による事業評価を反映している。第1展示室の改修が終了し、リニューアルオープンした。
経営学部	経営学科	特別史跡安土城跡整備基本計画 策定協力	木下達文	滋賀県	—	滋賀県が昨年度より取り組んでいる特別史跡安土城跡整備基本計画策定検討会議に委員として参加した。未発掘の地域が多く残る安土山の今後の発掘の方向性を検討した。第2期の発掘調査で、金箔瓦などが発見された。
経営学部	経営学科	デジタル技術を活用した「幻の安土城」 見える化基本計画協力	木下達文	滋賀県 近江八幡市	5名	滋賀県が本年度より取り組んでいるデジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画検討懇話会に委員として参加した。制作会社と有志学生がモニターとなって意見を提案、ARシステムとして一般公開された。
経営学部	経営学科	滋賀県内における 博学連携事業 への協力	木下達文	滋賀県	2名	滋賀県の文化政策を担う中間支援組織「滋賀次世代文化芸術センター」の事業に、理事として主に文化施設と学校をつなぐ「連携授業」への協力を行う。福祉と芸術を連携した「こほくキッズミュージアム」を米原で開催した。
経営学部	経営学科	客引き行為等対策審議会への協力	木下達文	京都市	約200名	京都市の繁華街における客引きが絶えない現状を検討する審議会の委員として参加した。現状分析並びに今後の対策について検討を行った。大学に広報する政策の一環として、担当授業において実験的にレクチャープランの企画実施および学生へのアンケート調査を行い、他大学への応用を検討している。

学 部	学 科	活動名	担 当	地域・場所・連携先	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
工学部	情報工学科	日本原子力研究開発機構 福島研究開発・評価委員会	伊藤京子	福島県	—	委員として参加し、福島県の復興に向けた研究開発の方向性に対して評価した。
工学部	情報工学科	ヒューマンインタフェースシンポジウム2025	伊藤京子	石川県金沢市	—	実行委員として、発表件数207件、企業展示件数10件、ワークショップ3件、特別講演1件、参加者数558名のシンポジウム運営に参画した。
工学部	情報工学科	学びEXPO2025 展示	杉浦昌	京都市上京区 京都産業会館ホール	2名	ハンドベル自動演奏システムを展示・演奏した。マイコン制御で演奏し、音に合わせてフルカラーLEDを点滅させるとともに花火のCG画像をプロジェクトマップで投影した。
工学部	情報工学科	メイカーフェア東京 2025	杉浦昌	東京都江東区 有明東京ビッグサイト	2名	上記と同じくハンドベル自動演奏システムを展示・演奏した。
工学部	情報工学科	第2回U-16プログラミングコンテスト京都大会	日比野英子 杉浦昌	京都橘中学校・ 高等学校	—	第2回U-16プログラミングコンテスト京都大会(競技部門)において総評等を行った。
工学部	情報工学科	滋賀経済産業協会 情報学教育研究センター研究紹介	加藤丈和	京都橘大学	—	会員企業に対して産学連携を中心としたセンターの研究紹介を行った。
工学部	情報工学科	Kyoto Next CxO Community 大交流会講演	加藤丈和	Growth 京都河原町	—	京都府内の起業を目指す学生、起業家、コーディネータに対して産学連携を中心としたセンターの研究紹介を行った。
工学部	建築デザイン学科	京都市都市計画局指定管理者選定 当委員会 副委員長	松本正富	京都市	—	京都市立浴場における指定管理者を選定する委員会において副委員長を務めた。
工学部	建築デザイン学科	伝統的建造物保存地区審議委員	鈴木あるの	兵庫県たつの市	—	審議委員会への参加および改修物件の選定、および現地での建築指導を行った。
工学部	建築デザイン学科	防災計画委員	鈴木あるの	兵庫県たつの市	—	防災計画の審議、および市民参加ワークショップへの参加と助言を行った。
工学部	建築デザイン学科	公開シンポジウム 「海外と日本文化」	鈴木あるの	キャンパスプラザ 京都	—	「なぜ、いまなのか?—イグサの力を次世代につなぐ—」をテーマに、海外のつながりを京都の産業の持続的発展に結びつける方法について、会場参加型の議論を行った。
看護学部	看護学科	ドイツ研修に向けたドイツ語会話	ラフロセニヤ	京都府立 林業大学校	—	2回生を対象にドイツ語研修に向けたドイツ語会話について講義を計3回行った。
看護学部	看護学科	国際理解教育	ラフロセニヤ	南丹市立 園部中学校	—	1年生を対象に、ドイツの文化や生活について講義、レクリエーションを計4回実施した。
看護学部	看護学科	第21期小児在宅ケアコーディネーター研修会	堀妙子 伊藤弘子 岸田侑子 谷口英雄	京都橘大学、 オンライン	4回生 3名	全国の小児の在宅ケアに関わる看護職31名を対象とし、4日間計3回の研修会を開催した。
看護学部	看護学科	一般財団法人京都府訪問看護 ステーション協議会 令和7年度 管理者研修	堀友紀子 黒瀧安紀子	京都市南区	—	訪問看護事業所管理者約40名に災害対策、BCPに基づくシミュレーション研修を実施した。
看護学部	看護学科	たちばなSIM.「高齢者を対象にしたシミュレーション研修」	征矢野あや子 野島敬祐 工藤里香 深山つかさ 十倉絵美 堀友紀子 田茂井優佳	京都橘大学	—	病院におけるBPSDが見られる認知症高齢者への対応をテーマに認知症高齢者への基本的なコミュニケーション、BPSDが見られた時の対応をシミュレーションした。卒業生6名が参加した。
看護学部	看護学科	姫路市保健師全体研究会	黒瀧安紀子	姫路市 南保健センター	—	「アクションカードの活用～発災時の初動体制を考える～」をテーマに講義と演習を行った。初動体制の説明と実際に作成されたアクションカードにコメントをし、現在作成されているカードの精錬を行った。
看護学部	看護学科	職員研修(災害時保健活動)	黒瀧安紀子	兵庫県尼崎市	—	「災害時保健師活動の実際と目指すもの」をテーマに災害時保健活動マニュアルについての講義とCSCAが理解できるグループワークを行った。
看護学部	看護学科	淡路圏域災害時の保健活動研修会	黒瀧安紀子	兵庫県 洲本総合庁舎	—	災害時保健活動についての講義と実際にアクションカードを作成する演習を行った。
看護学部	看護学科	災害時活動に関する研修会	黒瀧安紀子	京都市 山科区役所	—	「災害発生時の保健活動について～初動場面を中心に～」をテーマに、保健活動の実際とその活動を行うための初動体制の説明や山科区での初動体制について講義をする。
看護学部	看護学科	京カレッジ リカレント教育プログラム「対人援助の現代的課題—広がり」と深まりの中で考える多職種連携」	黒瀧安紀子	全国 (オンライン)	—	「誰一人置いていかない。対人援助職の災害への備え」というオンデマンド講義を行った。また、演習に参加した。
看護学部	看護学科	洛西支所保健福祉センター保健師 等活動研修会	黒瀧安紀子	京都市西京区役 所洛西支所	—	「災害時における保健師活動の実際について」をテーマに災害時の具体的な活動と、作成したアクションカードを使った訓練の検討を行う。

学 部	学 科	活動名	担 当	地域・場所・連携先	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
看護学部	看護学科	阪神ブロック市町保健師協議会 災害時の保健活動研修	黒瀧安紀子	芦屋市役所	—	「現場で活きるアセスメント:避難所・在宅避難の方の健康を守る～能登半島地震の教訓から学ぶ、初動から生活再建まで～」をテーマに、情報収集、アセスメントを中心に、演習を含めて行う。
看護学部	看護学科	伏見区地域包括支援センター 地域診断勉強会	下田優子 黒瀧安紀子	京都市 伏見区役所	—	センター職員に対して、地区診断の結果を業務に活用するための情報のアセスメント、事業計画についての講義と演習を行う。
看護学部	看護学科	みんなで考えよう、子どものいる 家族の安心 フィンランドにお ける暴力予防と対話を学びながら	長坂桂子 工藤里香	京都府周辺・ 北海道札幌市	あり	フィンランドのタンペレ大学でDV対策について研究をされている末智美先生をお招きし、実践家の皆様と講演・交流会を行った。
看護学部	看護学科	地域母子保健研修会	長坂桂子	全国 (オンライン)	—	全国の保健師・助産師・看護師・保育士向けに「包括的性教育」の講演を行った。
看護学部	看護学科	健やか親子21全国大会 愛育・地域づくり活動交流会	長坂桂子	東京都 (オンライン)	—	基調講演「子どもの未来を支えるために知っておきたいプレコンセプションケア」を担当した。総裁の秋篠宮紀子妃殿下もご臨席された。
看護学部	看護学科	令和7年度新人助産師研修 京都府助産師職能企画研修*	長坂桂子	京都府全域	—	京都府の新人助産師研修において2日間ファシリテーターを行った。
看護学部	看護学科	京カレッジ リカレント教育プログラ ム「対人援助の現代的課題—広 がり」と深まりの中で考える多職種連携」	長坂桂子	全国 (オンライン)	—	「プレコンセプションケアから産後ケアまで、つなぐ支援・途切れる支援:現場のリアルを読み解く」という講義を行った。また、演習に参加した。
看護学部	看護学科	京都府助産師職能企画研修 「外国籍を持つ母親への支援～異文 化を理解し支えあうケアを～」	長坂桂子	京都府全域	—	京都府全域の看護職を対象に、「京都府における外国人妊産婦の動向」について講義を行った。
看護学部	看護学科	南区地域包括保健師看護師部会主 催 地域診断研修会	下田優子	京都市南区役所	—	保健師・社会福祉士向けに地域診断の基礎と作成に関する講義と演習を実施した。
看護学部	看護学科	右京区役所健康長寿推進課主催 右京区保健師研修会	下田優子	京都市 右京区役所	—	区庁内の職員向けに行政における記録の書き方に関する講義と演習を行う。
健康科学部	理学療法学科	京都市在住高齢者を対象とした 運動器検診	甲斐義浩 重藤隼人	京都市右京区 京都先端科学大学	30名 (2日合計)	整形外科医、理学療法士、本学学生らとともに超音波検査、ストレステストなどの理学所見、筋力や柔軟性などの機能評価を行い、運動器疾患の予防や早期発見に貢献した。
健康科学部	作業療法学科	堺市教育委員会 自立活動アドバ イザー事業外部専門家	原田瞬	大阪府堺市	—	市内の特別支援学校、小中学校において、巡回相談という形態で、対象児童の教科学習、自立活動の支援を実施している。
健康科学部	作業療法学科	大阪府高等学校支援教育力充実事業 「医療専門家チーム」	原田瞬	大阪府	—	府内の高等学校において、障がいによる困難に関する判断や望ましい教育的対応についての専門的な指導助言を実施している。
健康科学部	作業療法学科	NPO 法人そいる 副代表理事	原田瞬	兵庫県三木市	—	児童発達支援事業を展開し、地域の子育て支援、発達に困り感のある子どもに対する学習支援、作業療法を実施している。
健康科学部	作業療法学科	認定NPO法人セカンドハーベスト 京都との連携	原田瞬	京都市 山科区山科団地 エリア	38名	フードバンク事業を実施している認定NPO法人と連携し、フードパントリー形態での食品配布を実施している。地域包括システム演習で実施する健康イベントと同時開催し、地域住民の参加動機のひとつとなっている。
健康科学部	作業療法学科	第10回京都府作業療法学会運営委員	原田瞬	京都府	2名	学会企画の立案、会場運営を実施した。学生はボランティアスタッフとして学会に参加した。
健康科学部	作業療法学科	茨木市障害支援区分等認定審査会 会長	中井秀昭	大阪府茨木市	—	会長として、障がい者のサービス支援区分について検討した。
健康科学部	作業療法学科	パラ水泳練習指導、国際交流	中井秀昭	兵庫県神戸市 フレンズクラブ	—	Sports For Tomorrowの補助事業(ネパールパラ水泳練習環境アセスメントと練習指導及び技術転移事業)に帯同させていただき、身体障害者水泳の指導補助を実施した。
健康科学部	作業療法学科	現職者基礎研修—実践のための作 業療法研究—講師	中井秀昭	滋賀県 作業療法士会	—	現職者のための研修講師を承った。
健康科学部	作業療法学科	中級パラスポーツ指導員研修 講師	中井秀昭	日本作業療法士 協会	—	スポーツの価値と意義についての講師を承った。
健康科学部	作業療法学科	現職者選択研修—身体障害作業療法 生活期・維持期の作業療法 講師	中井秀昭	京都府作業療法 士会	—	講師として講演した。
健康科学部	作業療法学科	ものづくり教室開催	佐川佳南枝	京都橘大学	4~6名 /1回	大学にて月一回、対面とZoomで高齢者のものづくり教室を開催
健康科学部	作業療法学科	桃山学院大学 公開講座 講師	田丸佳希	大阪府	—	フレイル予防に関するセミナーを実施した。
健康科学部	作業療法学科	認知症予防講座 講師	田丸佳希	大阪府緑ヶ丘地 区シルバーの会	—	認知症予防に関する講義を実施した。
健康科学部	作業療法学科	認知症予防講座 講師	田丸佳希	大阪府緑ヶ丘地 区MCI家族会	—	認知症予防に関する講義を実施した。
健康科学部	作業療法学科	大阪府作業療法士会 臨床実習指導 者講習会 講師・世話人	田丸佳希	大阪府	—	臨床実習指導者講習会での講師を担当した。

学 部	学 科	活動名	担 当	地域・場所・連携先	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康科学部	作業療法学科	京都府作業療法士会 臨床実習指導者講習会 講師・世話人	田丸佳希	京都府	—	臨床実習指導者講習会での講師を担当した。
健康科学部	作業療法学科	山科区役所健康福祉部健康長寿推進課主催 セミナー 講師	田丸佳希	京都市山科区	—	区内5つの地域包括支援センター・医師会・薬剤師会、歯科医師会等が集まる協議会において、認知症予防の講義・街づくり構想についてのセミナーを実施した。
健康科学部	作業療法学科	大阪府作業療法士会 理事	田丸佳希	大阪府	—	職能団体における会の運営方針について検討した。
健康科学部	作業療法学科	大阪府作業療法士会 ICT委員会 担当理事	田丸佳希	大阪府	—	ICTを用いた難病支援や発達領域支援を支援した。
健康科学部	作業療法学科	大阪府作業療法士会 臨床実習委員会 担当理事	田丸佳希	大阪府	—	臨床実習指導者講習会の企画・運営(講師・世話人)を実施した。
健康科学部	作業療法学科	日本作業療法士会 現職者共通研修実践作業療法研究 講師	田丸佳希	大阪府	—	実践作業療法研究のコマの講師を担当した。
健康科学部	作業療法学科	山科団地健康測定	原田舜 菅沼一平 田丸佳希	京都市山科区	あり	山科団地の住民を対象に健康チェックを実施した。
健康科学部	作業療法学科	理学療法士作業療法士言語聴覚士専任教員養成講習会 地区委員	田丸佳希	大阪府	—	地区委員として、2日間司会等の運営を担った。
健康科学部	作業療法学科	京都府交通安全協会	田丸佳希	京都府作業療法士会	—	京都府交通安全協会に所属する職員を対象に体力検査・認知検査等を実施した。
健康科学部	作業療法学科	岸和田市のばなヘルスプロモーションのばなデイスサービス アドバイザー	田丸佳希	大阪府	—	デイスサービスの利用者のプログラムや移動・移動方法や環境設定、スタッフの介護技術の向上に向けたアドバイスを行っている。
健康科学部	作業療法学科	京都府作業療法士会養成部委員	平本憲二	京都府作業療法士会	—	臨床実習指導者講習会、事例検討会の運営に携わった。
健康科学部	作業療法学科	一般社団法人日本認知症ケア学会 機関認定委員会 委員	菅沼一平	日本認知症ケア学会	—	認知症ケアに特化した施設の認定委員として、助言・意見をを行った。
健康科学部	作業療法学科	認知症総合支援業務委託事業者選定等委員会 委員長	菅沼一平	大阪府吹田市	—	初期集中支援チーム、認知症地域支援コーディネーターの業務上の審査に意見・助言を行った。
健康科学部	作業療法学科	吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進委員会 委員	菅沼一平	大阪府吹田市	—	審査委員として意見・助言を行った。
健康科学部	作業療法学科	吹田市認知症カフェ交流会 世話人	菅沼一平	大阪府吹田市	—	世話人として意見・助言を行った。
健康科学部	作業療法学科	京都府作業療法士会養成部部長	小川敬之	京都府作業療法士会	—	所属養成校の教員を中心に、卒前、卒後教育のあり方などを検討し、研修会などを実施している。
健康科学部	作業療法学科	認知症の人と家族の会調査研究員	小川敬之	認知症の人と家族の会	—	老健事業の企画、調査、分析を行った。
健康科学部	作業療法学科	NPO法人地域支援センターつながり理事長	小川敬之	宮崎県門川町	—	自治体委託事業として、重層的支援体制構築を行った。
健康科学部	作業療法学科	NPO法人地域共生開発機構副理事長	小川敬之	京都市右京区	あり	就労的活動の支援、多世代交流事業を行った。
健康科学部	作業療法学科	NPO法人むすび理事	小川敬之	宮崎県椎葉村	—	就労的活動、多世代交流事業、地域づくり、就労的活動の支援を行った。
健康科学部	作業療法学科	宮崎県諸塚村認知症初期集中支援協議会委員	小川敬之	宮崎県諸塚村	—	認知症初期集中支援会議や、地域づくりを行った。
健康科学部	作業療法学科	日向市認知症地域支援体制推進会議委員	小川敬之	宮崎県日向市	—	地域における認知症施策を検討した。
健康科学部	作業療法学科	社会医療法人耕和会理事	小川敬之	宮崎市	—	地域づくり、病院運営を行った。
健康科学部	作業療法学科	合同会社SA・Te 黒潮副社長	小川敬之	宮崎県門川町	—	高齢者、障害者雇用の推進、社内で集いの場の構築を行った。
健康科学部	作業療法学科	社会福祉法人絆の会幹事	小川敬之	福岡県北九州市	—	施設運営に関する助言等を行った。
健康科学部	作業療法学科	社会福祉法人絆敬会理事	小川敬之	滋賀県甲賀市	—	施設運営に関する助言、保育士の教育を行った。
健康科学部	作業療法学科	交野市介護保険事業計画推進審議会	小川敬之	大阪府交野市	—	交野市の介護保険サービスの策定に関与した。
健康科学部	作業療法学科	交野市地域包括支援センター会長	小川敬之	大阪府交野市	—	深津支援センターの在り方を検討した。
健康科学部	救急救命学科	朱一保育園BLS	齋藤汐海	京都市	4名	教職員40名を対象にBLS、熱中症の講義を実施した。
健康科学部	救急救命学科	橘ドリームスクールBLS	野口佐弥香	京都市	5名	小学生30名程度を対象にBLS講習を実施した。
健康科学部	救急救命学科	円町まぶね隣保園BLS	井上陽一	京都市	5名	職員22名を対象にBLS、窒息、痙攣についての講義及び実技を実施した。
健康科学部	救急救命学科	京都市立安朱小学校BLS	井上陽一	京都市	4名	小学6年生26名を対象にBLSについての講義及び実技を実施した。
健康科学部	救急救命学科	おおよけこども園BLS	齋藤汐海	京都市	1名	園児70名と教員13名を対象にBLS講習を行った。

学 部	学 科	活動名	担 当	地域・場所・連携先	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康科学部	救急救命学科	令和7年度滋賀県安全管理対策推進研修講演	野口佐弥香	滋賀県	—	保育士30名程度を対象に小児・乳児のBLS講習を行った。
健康科学部	救急救命学科	こより保育園久世BLS	野口佐弥香	京都市	—	保育士30名程度対象に小児・乳児のBLS講習を行った。
健康科学部	救急救命学科	鴨川納涼祭	関根益満	京都市	10名	救護活動を行った。
健康科学部	救急救命学科	第3回やましなふれあい青空駅伝	井上陽一	京都市	25名	救護活動を行った。
健康科学部	救急救命学科	第82回滋賀 JPTEC	益満茜	滋賀県消防学校	11名	学生が補助員として参加した。
健康科学部	救急救命学科	洛和規模多機能施設伏見竹田BLS	TURF	京都市伏見区	7名	本学救急救命研究部(以下TURF)が住民20名にBLS指導を行った。
健康科学部	救急救命学科	令和7年度第1回勤修学区普通救命講習会	TURF	京都市山科区	7名	山科消防署、勤修消防分団とTURFが受講者50名へBLS指導補助を行った。
健康科学部	救急救命学科	安朱小学校BLS	救急救命学科	京都市山科区	4名	安朱地区の住民30名にBLS指導を行った。
健康科学部	救急救命学科	第17回勤修おやじの会主催学校	救急救命学科 TURF	京都市山科区	のべ 190名	救護活動(参加者320名/2日間)を行った。
健康科学部	救急救命学科	京都橋大学地域連携センター主催七夕陶灯路	救急救命学科	京都橋大学	10名	救護活動(参加者400名)を行った。
健康科学部	救急救命学科	山階南BLS講習	救急救命学科 TURF	京都市山科区	16名	受講者40名へBLS講習を行った。
健康科学部	救急救命学科	第17回勤修おやじの会主催勤修夏祭り	救急救命学科 TURF	京都市山科区	60名	救護活動(参加者500名)を行った。
健康科学部	救急救命学科	第1～3回特別養護老人ホームヴィラやましなBLS	救急救命学科	京都市山科区	のべ 20名	施設職員へBLS指導を行った。
健康科学部	救急救命学科	オール京都の夏祭り -UMEKOJI FESTIVAL-	救急救命学科 TURF	京都市	10名	救護活動を行った。
健康科学部	救急救命学科	京都府総合防災訓練	救急救命学科	京都府	10名	参加者100名を対象に防災ボードゲームを行った。
健康科学部	救急救命学科	勤修学区自主防災会防災訓練	救急救命学科 FAST	京都市山科区	あり	受講者40名へ机上訓練補助を行った。
健康科学部	救急救命学科	瀬田公園そなえパークの日BLS	救急救命学科 TURF	滋賀県大津市	5名	大津市消防局職員等200名にBLS指導を行った。
健康科学部	救急救命学科	第3回山科ふれあいおぞら駅伝救護	救急救命学科 TURF	京都市山科区	30名	マラソン救護(参加者200名)を行った。
健康科学部	救急救命学科	山科まちフェスタ	救急救命学科 TURF	京都市山科区	10名	イベント救護を行った。
健康科学部	救急救命学科	勤修学区防災訓練BLS	救急救命学科 FAST	京都市山科区	6名	BLS講習を行った。
健康科学部	救急救命学科	KYOTO TACHIBANA CUP2025 救護スタッフ	救急救命学科 FAST	京都橋大学	のべ 7名	参加者のべ100名(2日間)へ救護活動を行った。
健康科学部	救急救命学科	大宅学区防災訓練	救急救命学科 FAST	京都市山科区	4名	参加者200名へBLS講習を行った。
健康科学部	救急救命学科	京都エル・コープ 普通救命講習会	救急救命学科 TURF	京都府	13名	参加者30名へ普通救命講習会Ⅰ(応急手当普及員資格発行型)を行った。
健康科学部	救急救命学科	第84回滋賀 JPTEC	救急救命学科 TURF	滋賀県	2名	救急課程の学生30名へ滋賀県消防学校での外傷セミナー補助を行った。
健康科学部	臨床検査学科	第55回日本臨床神経生理学会学術大会 教育講演45 臨床検査技師志望の学生たちへの臨床神経生理学領域の学生教育 一京都橋大学の実践事例一	所司睦文	沖縄 コンベンション センター	—	臨床検査技師志望の学生たちが修得して欲しい臨床神経生理学領域の臨床検査の知識と技術に関して、本学の実践事例をまじえつつ講演した。
健康科学部	救急救命学科	第66回日本神経学会 市民公開講座	大槻俊輔	大阪府	—	脳神経内科学講義「脳卒中に負けない!自宅や職場に戻るリハビリテーション」を行った。
健康科学部	救急救命学科	堺市高次脳機能障害およびその関連障害がいのに対する支援普及事業研修会	大槻俊輔	大阪府堺市	—	講義「知っておきたい脳卒中のお話～最新治療からその予防まで～」を行った。



自治体・企業・大学等との連携協力に関する協定等

2012年度～2025年度

協定(連携)先	締結日	締結事項
学校法人 昭和大学	2012年 1月16日	教育研究協力に関する包括協定を締結。 看護職および看護・医療のレベルアップへの取組、人事交流、看護に関する共同研究と地域連携などを推進。
日本赤十字社 京都第二赤十字病院	2013年 1月21日	教育研究協力に関する包括協定を締結。 ○本学看護学部的主要実習病院としての連携強化 ○「京都第二赤十字病院特別奨学金制度」の創設(1学生約360万円) ○奨学金制度の創設に伴う新規推薦入試制度の導入 ○看護に関する共同研究および地域連携の推進、教職員の交流
京都市山科区	2013年 9月24日	本学と山科区は、地域連携・協力に関する協定を締結。 ○まちづくりの推進 ○地域産業の振興 ○教育、文化、生涯学習、スポーツの振興 ○医療・健康・福祉の向上 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○防犯、防災、交通安全等の地域の安心・安全の推進
社会福祉法人 京都博愛会 (京都博愛会病院)	2014年 3月5日	理学療法士養成および理学療法・医療をめぐる教育研究に関する事業の発展を目指し包括協定を締結。 ○本学健康科学部理学療法学科における教育・研究に関する事項 ○京都博愛会病院理学療法士および理学療法・医療のレベルアップのための支援に関する事項 ○理学療法に関する共同研究および地域連携に関する事項 ○教職員の交流に関する事項 ○その他必要と認められる事項
社会福祉法人 大宅福祉会 (おおよげこども園)	2014年 6月1日	対人援助に携わる専門職者の養成ならびに看護・医療、保育・教育、臨床心理・発達心理をめぐる教育研究の振興のため包括協定を締結。 ○本学人間発達学部児童教育学科における教育・研究に関する事項 ○本学看護学部看護学科における教育・研究に関する事項 ○本学健康科学部心理学科および心理臨床センターにおける教育・研究に関する事項 ○大宅保育園の保育職および保育のレベルアップのための支援に関する事項 ○地域の子育て支援に関する事項 ○教育と研究の発展のため、その他必要と認められる事項
滋賀県野洲市	2014年 6月17日	地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な人材育成に寄与することを目的に協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項(一次予防事業の実施など) ○その他高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○その他両者が必要と認める事項
京都市 醍醐中山団地町内連合会	2014年 10月30日	京都市、醍醐中山団地町内連合会と地域活性化に寄与する取り組みを目的とした連携協定を締結。 ○地域連携センター分室の開設 ○留学生が暮らす国際シェアルームの運営 ○住民との交流による地域貢献活動 ○地域コミュニティの再生と活性化 ○健康および福祉活動
滋賀県草津市	2014年 12月25日	本学と滋賀県草津市は、子育て支援の充実を軸とした包括協定を締結。 ○幼児教育・児童教育に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○地域の活性化に関する事業 ○人材育成に関する事業
大津市老人クラブ連合会	2015年 6月10日	地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業の実現および看護・医療をめぐる教育・研究の振興をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な看護職者育成に寄与することを目的として協力協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項(一次予防事業の実施など) ○高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる看護職者の育成に関する事項(看護学実習の受け入れなど) ○その他両者が必要と認める事項
公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団 (京都市東部文化会館)	2015年 11月5日	本学と京都市東部文化会館(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)は、連携に関する協定を、同振興財団理事長、同大学学長出席のもと締結。 ○文化芸術活性化パートナーシップ事業 ○文化・芸術の振興に寄与する人材の育成 ○学生の参加・学習
和歌山県 和歌山県那智勝浦町	2016年 6月3日	本学と和歌山県那智勝浦町は、和歌山県が進める「大学のふるさと」の趣旨に賛同し、三者協定を締結。 ○地域資源再評価および観光広報、教育研究提携 ○人的資源の交流を通じた人材育成 ○地域貢献活動の推進による地域文化の向上および振興

協定(連携)先	締結日	締結事項
京都市 京都市児童館学童連盟	2017年 7月28日	本学と京都市児童館学童連盟および京都市は、児童館における学習支援事業に係る協定を締結。京都市内の児童館において、学生ボランティアが子どもたちの勉強サポートや相談対応などの学習支援事業を展開する。
京都府山科警察署	2017年 9月11日	本学と京都府山科警察署は、国際分野を中心とした協力に関する協定を締結。本学から山科警察署への英語教育プログラムの提供や、山科警察署から本学留学生への柔道・剣道等日本文化体験機会の提供などを行う。
京都市 全国認定こども園協会 京都府支部	2017年 8月4日	本学と全国認定こども園協会および京都市は、幼稚園教諭免許状更新の連携・協力に関する協定を締結。 これにより2017年度からの3年間、京都府内の認定こども園、京都市内の市立・私立幼稚園および市営・民間保育園の職員を対象とした幼稚園教諭免許状の更新講習を本学で実施する。
株式会社ビバ	2018年 4月26日	本学と株式会社ビバは、教育連携および地域活性化事業の展開に関する協定を締結。株式会社ビバが指定管理者として運営を委託されたスポーツ施設等において、学生の教育や共同研究等産学連携活動を行う。
福井県小浜市	2018年 3月29日	本学と福井県小浜市は、幅広い分野で両者が有する資源を有効に活用し、活力ある地域社会の形成と振興に寄与することを目的に包括協定を締結。 ○地域振興を担う人材育成に関する事項 ○地域社会の活性化およびまちづくりに関する事項 ○教育および学習機会の提供に関する事項 ○産業振興に関する事項 ○情報収集および発信に関する事項 ○その他、目的を達成するために必要な事項に関する事項
京都市 京都市児童館学童連盟 京都造形芸術大学	2019年 1月21日	本学と京都市、京都市児童館学童連盟、京都造形芸術大学は、学生ならではの発想や行動力を活かした児童の健全育成活動全体の活性化と大学生等の知識・技術の向上および人材育成を図るため包括協定を締結。 ○児童館等において実施する職業体験事業への大学生の派遣 ○学生ならではの発想や行動力を活かした児童の健全育成活動全体の活性化 ○大学生等の知識・技術の向上、人材育成 等
京都薬科大学	2019年 3月18日	本学と京都薬科大学は医学専門職の養成および医学分野における教育研究の発展をめざし、包括協定を締結。 その協定に基づき、合同多職種連携教育(「IPE」)を実施する。 ○医療専門職の養成および医療分野における教育の発展に関する事項 ○学生および教職員の交流に関する事項 ○京都市山科区を中心とした地域連携に関する事項 ○医療分野における共同研究に関する事項 ○学内施設・設備の共同利用に関する事項 ○その他必要と認められる事項
守山市	2019年 7月18日	本学と守山市は、相互の人的、知的および物的資源の活用により、地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な人材育成に寄与することを目的に包括協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項(一次予防事業の実施など) ○その他高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○その他必要と認められる事項
イオンタウン株式会社	2019年 11月1日	本学とイオンタウン株式会社は、同社が開業するイオンタウン山科柵辻において、それぞれが有する資源を有効活用し、地域の活性化、教育研究、生涯学習、文化および産業の振興、人材育成等において相互に連携・協力し、相互の発展および地域社会の発展に寄与することを目的に、主に次に掲げる事業の企画の企画、実施等について連携し、協力する。 ○地域の活性化に関する事業 ○教育研究に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○人材育成に関する事業 ○その他必要と認められる事業
株式会社ルネサンス	2020年 4月1日	本学と株式会社ルネサンスは同社が開業する「スポーツクラブルネサンス・イオンタウン山科柵辻」において、それぞれが有する資源を有効活用し、地域の活性化、教育研究、生涯学習、文化および産業の振興、人材育成等において相互に連携・協力し、相互の発展および地域社会の発展に寄与することを目的として協定を締結。 ○地域の活性化に関する事業 ○教育研究に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○人材育成に関する事業 ○その他協議して必要と認める事業
大阪大学 データビリティフロンティア機構	2020年 5月1日	本学と大阪大学データビリティフロンティア機構に設置するライフデザイン・イノベーション拠点本部は、健康・教育・都市生活などのライフデザイン分野に関連するイノベーションの創出を目指して、連携協定を締結。 ○健康・教育・都市生活などのライフデザイン分野の共同研究に関する事項 ○研究に必要な施設・設備・備品の共同利用に関する事項 ○学生及び教職員の交流に関する事項 ○その他必要と認められる事項

協定(連携)先	締結日	締結事項
日本電気株式会社 (NEC)	2020年 11月2日	本学と日本電気株式会社は、産学連携により AI・IT など先端技術に関する教育・研究施設の整備および教育活動、次世代の学習環境の構築に係る研究活動について連携・協力するために協定を締結。 ○AI・IT など先端技術の教育・研究に必要な施設・設備等の整備に関する事項 ○AI・IT など先端技術人材教育に関する事項 ○次世代の学習環境構築に関する事項 ○その他必要と認められる事項
京都市	2021年 2月5日	本学と京都市は、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上に向け、ふるさと納税を活用した大学・地域の連携強化に関する協定を締結。 ○ふるさと納税の活用促進に関する事項 ○大学・学生との地域の連携強化等に関する事項 ○その他双方が必要と認める事項
医療法人社団洛和会	2023年 1月30日	本学と医療法人社団洛和会は看護職者の養成、看護・医療をめぐる教育・研究の振興および地域医療の発展を目的に包括協定を締結。 ○看護職者養成のための看護学実習の受け入れなど教育・研究活動への支援に関する事項 ○看護職および看護・医療のレベルアップのために支援に関する事項 ○教育・研究および地域医療の発展のため、その他必要な連携と協力を推進すること
京都府与謝野町	2023年 10月16日	本学と与謝野町は相互の人的、知的および物的資源を有効に活用し、地域社会の活性化と振興、および人材育成に寄与することを目的に覚書を締結。 ○地域社会の活性化と振興に資する地域経済分析の実施 ○地域社会に貢献できる人材の育成 ○その他、甲と乙が必要と認める事項
公益財団法人 滋賀県文化財保護協会	2023年 11月13日	本学が公益財団法人滋賀県文化財保護協会と密接な連携・協力のもと、調査と研究、文化財の保存・活用および文化財を活かした地域づくり等に必須の地域人材育成に向けて相互に協力していくことを目的に協定を締結。 ○滋賀県を中心とした歴史文化遺産の調査・研究に関する事業 ○文化財の保存と活用や地域の活性化に関する事業 ○上記2つを基盤とした人材の育成に関する事業 ○その他両者が協議し、必要と認める事業
大津市	2023年 8月7日	大津市と京都橘大学が連携し、大津市内中世遺跡詳細分布調査を円滑に遂行するための覚書を締結。 ○調査の役割分担に関する事項 ○出土品、記録の取り扱いに関する事項 ○調査成果の公表に関する事項 ○遺跡保存への活用などに関する事項
京都府山科警察署	2023年 12月21日	災害時における施設使用に関する協定を締結。
医療法人栄仁会	2024年 3月27日	医療法人栄仁会と京都橘大学との教育・研究協力包括協定を締結。 ○教育・研究活動への支援等
国立大学法人滋賀大学	2024年 6月4日	国立大学法人滋賀大学と京都橘大学との連携及び協力に関する協定を締結。 ○教育・研究に関する事項 ○学術研究に関する事項 ○リカレント教育に関する事項 ○文化・芸術の向上のための活動
北見工業大学、電気通信大学、 北海道大学信州大学、 公立はこだて未来大学	2024年 8月23日	カーリング競技を対象としたスポーツAI・スポーツデータサイエンスの実証研究コンソーシアム協定を締結。
株式会社未来シェア	2025年 2月5日	相互の発展及び社会的価値の向上を目指す連携協定を締結。 ○教育・研究および地域社会への貢献に関する事項
国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学	2025年 3月5日	教育的交流および学術的交流を促進するための協定を締結。 ○教育連携に関する事項 ○研究連携に関する事項 ○教職員および学生間の交流に関する事項

地域連携をお考えの方へ

本学では、地域社会を研究や学びの場と捉え、積極的に地域連携活動を行っております。地域連携センターが窓口となり、各種団体と教員・学生とのマッチング、および地域連携に関するノウハウの蓄積、連携活動の具体化を図っています。学生の学びや教員の研究につながるような地域課題があれば、ぜひお気軽にご相談ください。

地域連携センターへのご依頼例：

- 講師として登壇してほしい
- 委員に就任してほしい
- クラブや学生団体にイベント出演してほしい
- 地域課題の解決に向けて、教員・学生と連携したい
- その他のご依頼



各種依頼フォームは
こちらから

地域連携センターが協力できる活動

- 営利を目的としないもの
- 政治的・宗教的活動を目的としないもの
- 個人で募集する活動でないもの
- 安全性が高いと判断されるもの
- 医療行為等、特定の資格を必要とする活動でないもの
- 受け入れた学生に対し、教育的配慮を伴った対応が可能なもの

公式HP
地域連携・交流



地域連携センター
公式 Instagram



@tachibana_collabo

公式HP
本学の学生団体



2025年度 京都橘大学 地域連携活動実績集
(2025年4月～2026年3月)

発行日 2026年3月31日

発行 京都橘大学 地域連携センター
607-8175 京都市山科区大宅山田町34
TEL：075-574-4186
FAX：075-574-4149
URL：https://www.tachibana-u.ac.jp/
E-mail：aca-ext@tachibana-u.ac.jp